令和３年度業務実績報告書

令和４年６月
独立行政法人国立美術館

目　　次

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1
1　美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開 1
（1）多様な鑑賞機会の提供 1
①　所蔵作品展 1
②　企画展 2
③　国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会 4
④　国立西洋美術館本館の活用・公開 4
⑤　地方巡回展等 4
（2）美術創造活動の活性化の推進 5
（3）美術に関する情報の拠点としての機能の向上 5
①　国内美術館所蔵作品等情報の集約・発信 5
②　国立美術館所蔵作品等のデジタル化・データベース化、所蔵作品検索システムの充実 5
③　美術情報・資料の収集、レファレンス機能の充実 8
④　インフォメーションデータセンター（IDC）の確立 9
（4）教育普及活動の充実 10
①　幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等） 10
②　ボランティアや支援団体との協力等による教育普及事業等 11
（5）調査研究の実施と成果の反映・発信 13
①　調査研究一覧 13
②　調査研究成果の発信 13
（6）快適な観覧環境の提供 15
①　高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成 15
②　入場料金、開館時間等の弾力化 17
③　キャンパスメンバーズ制度の実施 20
④　ミュージアムショップ、レストラン等の充実 20
2　我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承 21
（1）作品の収集 21
（2）所蔵作品の保管・管理 25
①　収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応 25
②　防災対策の推進・充実 26
（3）所蔵作品の修理・修復 26
（4）所蔵作品の貸与 27
3　我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与 30
（1）国内外の美術館等との連携・協力等 30
①　国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等 30
②　我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力 30
③　全国の美術館等との人的ネットワークの形成等 31

④　国内美術館所蔵作品等情報の集約・発信 32
（２）ナショナルセンターとしての人材育成 32
①　美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動 32
②　今後の美術館活動を担う中核的人材の育成 33
（３）国内外の映画関係団体等との連携等 33
①　映画フィルムの収集 34
②　映画フィルム及び映画関連資料の保管・修復・復元 35
③　映画フィルム及び映画関連資料の貸与等 35
④　所蔵フィルム検索システムにおける公開実績 36
⑤　国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況 36
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 37
１　業務運営の取組 37
２　組織体制の見直し 39
３　契約の点検・見直し 39
４　共同調達等の取組の推進 40
５　給与水準の適正化等 41
Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等 42
１　自己収入の確保 42
２　保有資産の有効利用・処分 42
３　予算 42
４　収支計画 43
５　資金計画 44
６　貸借対照表 44
７　短期借入金 45
８　重要な財産の処分等 45
９　剰余金 45
Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項 46
１　内部統制・ガバナンスの強化 46
２　施設・設備に関する計画 48
３　人事に関する計画 48
４　関連公益法人 49
５　国立アートリサーチセンター（仮称）の設置準備 49
別表１　所蔵作品展 50
別表２　企画展 50
別表３　映画上映会（国立映画アーカイブ） 54
別表４　展覧会（国立映画アーカイブ） 55
別表５　地方巡回展・巡回上映等 55
別表６　調査研究一覧 56
別表７　展覧会図録における執筆 63
別表８　研究紀要における執筆 65
別表９　館ニュースにおける執筆 66

別表 10　館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信 68
別表 11　所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催 84
別表 12　シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築 86

（別紙）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

（１）多様な鑑賞機会の提供

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品展及び企画展並びに国立映画アーカイブの上映会・展覧会の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を、前中期目標期間実績と同程度の水準を維持するものとする。 ・国立美術館巡回展の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を８割程度とする。 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を８割程度とする。
関連指標	・所蔵作品展及び企画展の入館者数 ・国立映画アーカイブの上映会及び展覧会の入館者数 ・国立美術館巡回展の入館者数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の入館者数

※上記指標に係る実績は別表１～５を参照のこと。

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、作品の輸送等が困難になったことに加え、年度当初より各館で１～３か月臨時休館を実施したことにより、展覧会の会期に影響が出たほか、２つの企画展・上映会が中止となり、１つが翌年度以降に延期となった。そのような状況の中で、新たなプログラムの開催などを通じて、多彩な鑑賞機会を提供することに努めた。所蔵作品展においても、企画展と連動した特集展示を開催しつつ、動画配信などオンラインを活用した所蔵作品の紹介を積極的に行った。

①　所蔵作品展

所蔵作品展は、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、別表１のとおり実施した。
各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

19 世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れをわかりやすく伝えるとともに、部屋ごとにテーマを設けて各時代の美術を新鮮な切り口から提示した。夏の会期は「特別編　ニッポンの名作 130 年」と銘打ち、東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い海外から訪れる方々を見込んで、名作を中心とした日本の近代美術を、とりわけアイデンティティの模索という観点から展示構成した。10 月から２月にかけては３階の２つの部屋を用いて「純粋美術と宣伝美術」と題した特集を行い、工芸館の所蔵するデザインと本館の美術作品との横断的な活用を試みた。

（国立工芸館）

所蔵作品展「たんけん！こども工芸館　ジャングル⇔パラダイス」では、工芸制作の重要なモチーフの 1 つである自然に着目、伸び広がる生命のパワーに焦点をあてて、長引くコロナ禍で疲弊した方々にエールを送ることを企図し開催した。

所蔵作品展「めぐるアール・ヌーヴォー展　モードのなかの日本工芸とデザイン」では、アール・ヌーヴォーの誕生、またそれに影響を与えた 19 世紀後半のジャポニスム流行、そして最先端の芸術運動として再び日本へと還流し受容されるまでの流れを 150 点の工芸・デザイン作品によって紹介した。

イ　京都国立近代美術館

企画展「発見された日本の風景　美しかりし明治への旅」や「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」、「新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」に連動した内容の小企画展・テーマ展示を行い、来館者アンケートには好意的な意見が寄せられた。

一例として、「パンリアル美術協会前史：歴程美術協会―山崎隆と山岡良文を中心に―」では、令和２年に解散したパンリアル美術協会の前身とも言うべき、日本画を中心とした革新系美術団体・歴程美術協会の特集展示を行った。また、定期的に開催しているキュレトリアル・スタディズでは、「キュレトリアル・スタディズ 15：八木一夫の写真」として、八木家の悉皆調査を通じて発見された大量の八木一夫が撮影した写真とともに、陶芸作品を紹介することにより、知られざる八木一夫の世界を紹介した。

ウ　国立国際美術館

様々なテーマ設定に基づき作品を紹介した。大きな時代の転換期でもあった 1968 年をテーマにした「コレクション１ ： 1968 年展 −新しいパラダイムを求めて−」では、戦後日本の美術動向を「視ることへの問い」「集団の論理」「芸術の解体」と３つのカテゴリーに分け、海外における同時代の動向を顕す作品群とともに紹介した。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という今日的問題から「生と死」をテーマにした「コレクション２：つなぐいのち」では、人の誕生、成熟、老い、死、そこに流れる時間、記憶と忘却などいのちにまつわるテーマをキーに紹介した。

②　企画展

企画展は、来館者のニーズに対応しつつ、以下の観点に留意して別表 2 のとおり実施した。

イ　国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ　展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。

ハ　メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ　過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。

ホ　その他

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

「隈研吾展　新しい公共性をつくるためのネコの５原則」では、国際的に活躍する隈研吾の公共性が高い建築68件に注目して、隈独自の方法論を五原則の形で抽出した。また、先端技術を用いた体験展示や、現代アーティストによる映像作品を加え、建築の展示の新たな可能性を示した。さらに、模型について撮影可とした結果、展覧会の写真をSNSにアップする来館者が多く見られ、広報効果が得られた。隈事務所による特徴的な展示デザインも、SNSを介して展覧会の周知に貢献した。

「柳宗悦没後60年記念展　民藝の100年」では、民藝運動を「美術館」「出版」「生産・流通」の観点から近代日本の芸術運動として捉え直すことを試み、豊富な資料・作品を通じて民藝運動の時代背景と現代の民藝ブームの文脈を提示し、歴史的に検証した。本展では豊富な解説を付したことにより、アンケートでは体系的に民藝運動の歴史を知ることができたという好評の声が多数寄せられ、２度来館する鑑賞者も多かった。また、ニコニコ動画やNHKのミュージアムオンライブなど、会場から担当が作品解説をする動画配信を行った。NHKの動画配信は初めての試みであったが、2,000～8,000人ほどが同時接続、累計視聴数は15万超と好評であった。

（国立工芸館）

「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ　近代工芸と茶の湯のうつわ―四季のしつらい―」は、茶の湯の文化に携わる人口が減少しつつある中、金沢という土地柄を意識して人気の高い近現代の工芸作品における茶の湯のうつわを取り上げることで、茶の湯に関心の低い比較的若い世代への周知を促し、伝統文化の再見に繋げる試みとした。会場では茶の湯のうつわを器種別で展示する場所を設けつつ、素材や分野については分けることなく紹介した。また、出品した茶碗の中から 15 点を選び、それらを３D データ化してスマートフォンで鑑賞できるようにした。手元で 360 度回転させて、普段見られない角度からも鑑賞できたと好評の声が多数寄せられた。

「国立工芸館石川移転開館１周年記念展　≪十二の鷹≫と明治の工芸－万博出品時代から今日まで　変わりゆく姿」では、近年各地で開催され人気が飛躍的に高まってきている明治の工芸を扱いながら、コロナ禍での開催となった点を考慮し、困難な時代を乗り越えた明治時代の工芸家の姿に焦点をあてるように努めた。また、《十二の鷹》の展示にあわせて提供した、スマートフォンなどのデバイスで好きな角度で拡大縮小しながら鑑賞できるプログラムは、展覧会の冒頭部分エリアに隣接する「工芸とであう」エリアで、大モニターにも映し出し、スマートフォンをお持ちでない方でも実際に鑑賞できるコーナーを設けた。

イ　京都国立近代美術館

「発見された日本の風景　美しかりし明治への旅」は、明治期の英国人を中心とする来日画家や、その影響下の日本人画家など、近代美術史において主流とは見なされてこなかった水彩画家・風景画家たちの作品によって構成した。また、ギャラリーツアーをインスタグラムでライブ配信したほか、講演会（有観客）の様子も YouTube でライブ配信した。これらはともにホームページ上でアーカイブ化され、開催後も視聴可能としている。さらに、Twitter で展覧会公式アカウントを開設し情報発信する等情報の拡散を図った。

「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」は、上野リチに関する世界で初めての包括的回顧展であると同時に、これまでほとんど注目されてこなかった 20 世紀の女性デザイナーの活躍を紹介する展覧会であった。2006 年と 2009 年の作品受贈以降、所蔵作品に関する地道な研究をもとに企画し、また、完成作ではなく草稿・設計図が中心となるデザイン展の展示のあり方を模索した展覧会でもあった。研究成果を国際的に共有するために、図録をバイリンガルで刊行した。

ウ　国立国際美術館

「Viva Video!　久保田成子展」は、ニューヨークを拠点に世界的に活躍したヴィデオ・アートのパイオニア、久保田成子の没後初の大規模個展となった。日本国内では知名度の低い女性作家の再評価を行うとともに、初期ヴィデオ作品の美術館での再現という技術的な課題にも取り組んだ。本展は美術館連絡協議会での新潟県立近代美術館の提案がもととなった巡回展であり、国立国際美術館を含む３館のキュレーターと、ニューヨーク在住の研究者の４名による共同企画で実施した。

「ボイス＋パレルモ」は、第二次世界大戦後のドイツを代表する彫刻家ヨーゼフ・ボイスとその弟子の画家ブリンキー・パレルモの作品を並置して紹介する世界的にも珍しい構成の展覧会となった。ドイツ各地の美術館から協力を得ることで、両芸術家の代表作を出品することが可能となった。また、ボイス及びパレルモの芸術は難解で近寄りがたい懸念があったため、ギャラリーガイドの作成や６回に渡るキュレータートークの実施により、各作品及び展覧会についての理解促進に努めた。

エ　国立新美術館

「ファッション イン ジャパン　1945-2020―流行と社会」は、国内外においてこれまで取り上げられてこなかったテーマである、1920 年代から現代までの日本のファッション史を扱い、展覧会の新しい分野の開拓に繋げた。820 点の作品の魅力を伝え、その内容を正確に伝えるために、展示デザインを建築家の中原崇志氏に依頼した。また、（株）七彩より協力を得て、約 250

体のマネキンを用いて 300 点余の服飾作品を展示した。マネキン 250 体を並べた大展示は、日本初の試みであった。さらに、音声ガイドをデザイナーたちのトークで構成し、普段、直接話を聞くことのできない貴重な言葉を紹介した。

「庵野秀明展」はアニメ・特撮・実写の垣根を超え常にトップランナーとして活躍し続け、国際的にも評価の高い映像作家である庵野秀明のこれまでの活動を、本人の作品だけでなく、作家が影響を受けた作品も含め、多角的な視点で紹介した。ミニチュア模型や特撮スーツなどの立体物は細部まで鑑賞できるようアクリルケースで覆わない展示方法としたところ、アンケートで高評価が多数寄せられた。また、休館日に障がい者向けの鑑賞会を行った。当日はオンラインによる鑑賞会も開催し、様々な理由で美術館に来ることが難しい層に対して、鑑賞機会を広げる試みとなった。特に OriHime という遠隔通信ロボットを使った双方向性のあるオンライン鑑賞会の参加者からは、また開催して欲しいという意見があった。

③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会

国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会は、別表 3 及び別表 4 のとおり実施した。

取組の特徴は以下のとおりである。

上映会「没後 40 年 映画監督 五所平之助」では、日本映画史を代表する巨匠監督の一人である五所平之助の没後 40 周年を記念して、その業績の再評価を行った。戦中作品『木石』は原版に起因する音声ノイズが含まれる版での上映で、台詞の聞き取りにくい箇所があるため、上映時にハンドアウトを配布した。また、五所が住んでいた静岡県三島市と提携し、同市で先行して開かれた上映会でチラシを配布するなど広報を行った。

上映会「香港映画発展史探究」は、ユニークな発展を遂げた香港映画の歴史を、日本で初めて本格的に回顧する企画であり、香港電影資料館所蔵作品を中心に、香港映画の代表作や復元作品を 21 本（21 プログラム）にまとめ、全て日本語字幕付で上映した。また、会期中には３名の専門家に作品解説をしていただき、作品とその背景に対する理解を深めた。さらに、2 月～3 月にかけては、福岡市総合図書館と京都国立近代美術館にて巡回上映を行った。

展覧会「生誕 120 年 円谷英二展」では、特撮の先駆者円谷英二の特撮以前の仕事にも着目し、生涯の業績を一貫して捉えることで新たな再評価を目指した。また、英国でフィルムが発掘された『かぐや姫』公開の記者発表も含む大がかりな広報イベントを、円谷英二の誕生日である７月７日に、円谷プロダクションと共同で開催した。同作品の発見の経緯や展覧会の説明、『かぐや姫』の上映のほか、特撮監督中野昌慶氏のトークを開催することでテレビ・新聞ほか多くのメディアへの露出につながった。さらに、展示室ロビーにウルトラマンの立像を設置し、撮影スポットとすることで来館者の SNS を通じた広報効果が得られた。

④ 国立西洋美術館本館の活用・公開

世界文化遺産を構成する前庭について、創建時の設計意図を明示するための復原を行うとともに、「活用」と「公開」について引き続き検討を行った。

⑤ 地方巡回展等

国立美術館コレクションの調査研究成果を反映し、公私立美術館のニーズ等を十分に踏まえ、当該コレクションの地方における鑑賞機会の充実と美術の普及を図るため、道府県の教育委員会、全国の美術館等と連携して「国立美術館巡回展」を実施している。

また、国立映画アーカイブにおいて、「優秀映画鑑賞推進事業」を全国各地で実施している。

令和３年度の地方巡回展及び巡回上映等は、別表 5 のとおり実施した。

（２）美術創造活動の活性化の推進

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・国立新美術館の公募展示室の予約率は 100%とする。
関連指標	・国立新美術館における全国的な活動を行っている美術団体等への展覧会会場の提供に係る取組状況。（公募展団体数）

・公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数	81 団体	年間予約室数	3,402 室／年	予約率	97.2%
公募展事業収入	267,519,040 円	入館者数	485,413 人	前年度比	256.8%

令和 3 年度に利用可能な展示室数は 1 室 1 日を単位として 3,500 室で、使用団体を決定した令和元年度時点での予約率は 100%であった。その後、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、令和 2 年度中に 1 団体が中止、1 団体が展示室の削減と会期短縮、1 団体が会期短縮を決定したことにより、令和 3 年 4 月 1 日時点での予約率は 97.2%（3,402 室）となった。

令和 3 年度は特例として、新型コロナウイルス感染症を事由とする展示室の使用辞退や会期短縮に対し、国立新美術館展示室等及び備品貸付規則の運用を緩和した結果、7 団体が展示室の使用を辞退し、4 団体が会期を短縮した。なお、特例の対象となる期間後も、4 団体から辞退の申し出があった。

また、令和 5 年度に公募展示室を使用する 81 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定した。

（３）美術に関する情報の拠点としての機能の向上

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・ホームページアクセス件数の合計は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・デジタル化した所蔵作品データの公開率（画像データ）は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・デジタル化した所蔵作品データの公開率（テキストデータ）は、前中期目標期間の実績以上とする。

① 国内美術館所蔵作品等情報の集約・発信

全国の国公私立美術館と連携し、収蔵作品・作家情報を集約・国際発信するため、文化庁アートプラットフォーム事業の「全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）」を令和４年度から承継することとし、国立アートリサーチセンター（仮称）の設置準備に向けて取り組む中で、移管のための準備を進めた。

② 国立美術館所蔵作品等のデジタル化・データベース化、所蔵作品検索システムの充実

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数（ページビュー）	
	実績	目標※
本部	1,314,110	1,329,241
東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）	6,603,633	5,951,959
京都国立近代美術館	2,143,246	4,243,023
国立映画アーカイブ	1,644,836	1,385,168
国立西洋美術館	1,753,561	16,108,316
国立国際美術館	706,375	2,810,293

国立新美術館	12,007,368	14,564,307
合計	26,173,129	46,392,307

※目標値は前中期目標期間の平均値である。
※国立国際美術館では新サイト構築に伴い、アクセス件数がカウントできない期間があった。

イ　所蔵作品データ等のデジタル化と公開

館名	画像データ					テキストデータ				
	デジタル化件数		累積公開件数	公開率		デジタル化件数		累積公開件数	公開率	
	新規	累計		実績	目標	新規	累計		実績	目標
東京国立近代美術館（本館）	394	12,183	7,930	58.2%	56.7%	120	12,903	12,013	88.2%	87.1%
東京国立近代美術館（国立工芸館）	300	5,075	3,781	94.0%	87.2%	330	5,690	4,905	121.9%	114.6%
京都国立近代美術館	622	9,678	8,853	68.0%	60.1%	160	16,019	15,397	118.2%	118.3%
国立映画アーカイブ	—	—	—	—	—	7,655	285,826	—	—	—
国立西洋美術館	59	4,646	4,646	72.7%	71.8%	190	5,083	5,083	79.5%	76.6%
国立国際美術館	250	8,667	4,986	61.4%	61.6%	91	9,447	8,589	105.8%	103.8%
合計	1,625	40,249	30,196	66.8%	63.4%	8,546	334,968	45,987	101.8%	100.0%

【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては、ローカルシステムである NFAD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」（http://search.artmuseums.go.jp/）における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注 3】上表のほか、国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」（http://nfad.nfaj.go.jp/）において日本劇映画のテキストデータ 7,734 件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」（http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/）において作品のテキストデータ 6,249 件及び画像データ 6,336 件を、国立新美術館では「ANZAÏ フォトアーカイブ」（http://db.nact.jp/anzai/）においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件を公開している。

※　国立工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合があるため、テキストデータの公開率が高くなっている。

ウ　各館の特徴

（ア）法人全体

平成 26 年 6 月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき、理事長のもとに国立美術館 6 館の情報担当者により組織する「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を設置しており、各館の課題の整理と今後の事業について継続的に協議を行ってきた。各館収蔵作品の歴史的データを蓄積する方法（入力仕様）の検討及び国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステムの開発を進めてきたが、本グループは令和３年度で解散し、令和４年度以降は国立アートリサーチセンター（仮称）に継承されることとなった。

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」については、新収蔵作品のテキストデータ・画像データを追加するとともに、著作権者情報の整備を行い、画像掲載許諾申請手続を継続した。また、所蔵作品情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」へのデータ連携を行った。

（イ）東京国立近代美術館

（本館）

令和元年度から公開を開始した「東京国立近代美術館リポジトリ」について、令和３年度も刊行物の情報を充実させた。また、海外の機関リポジトリ「ERDB-JP」（電子リソース管理データベース）に刊行物の情報を登録し、世界に向けて情報を発信した。これにより、東京国立近代美術館で刊行された紀要論文、『現代の眼』、活動報告等の電子コンテンツへのアクセス性が向上し、活動を広く周知するのに役立った。

ホームページに加え、Twitter 及び Facebook において、展覧会情報、所蔵作品の紹介、教育普及事業等をはじめ、美術館の情報を積極的に発信した。また、昨年度に引き続き学芸員による所蔵作品解説等の動画を新たに作成し公式 YouTube チャンネルで配信した。オンラインイベントとしては、Zoom を利用した「オンライン対話鑑賞」等教育普及事業において、多数開催した。

（国立工芸館）

Twitter 及び Facebook において、展覧会情報、イベント情報、ショップやライブラリ、及び教育普及事業の情報を毎日発信した。また、トークイベントをオンラインで開催することで、近隣だけでなく遠方の方々がイベントに参加できる機会を創出し、想定を上回る視聴数となった。

（ウ）京都国立近代美術館

ホームページに加え、SNS の公式アカウントを通じて、各展覧会の基本情報や講演会、教育普及関連のイベントの案内・報告、美術館ニュースの内容紹介や「友の会」の行事報告等の情報発信を行っている（ただし「友の会」は令和 3 年度をもって事業を終了した）。YouTube 公式チャンネルでは、展覧会及び関連イベントの紹介や、講演会の配信、教育普及事業のオンライン開催を行った。また、プログラムの多くを、ホームページ上でアーカイブ化し、開催後も視聴可能となるよう便宜を図るよう努めている。

（エ）国立映画アーカイブ

国立映画アーカイブ所蔵の歴史的映像を配信により公開する新規事業の一環として、「関東大震災映像デジタルアーカイブ」を国立情報学研究所と共同で開設し、防災の日（9 月 1 日）にあわせて公開を開始した。

YouTube 公式チャンネルにおいて、企画上映・企画展の紹介や、「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント」収録ビデオを公開した。

平成 25 年度に開始した所蔵資料公開事業「NFAJ デジタル展示室」では、「無声期日本映画のスチル写真」シリーズのうち「マキノプロダクション」の第 2 回、及び「戦前期外国映画の日本版ポスター」第 1 回から第 3 回までの特集展示を行った。

映画関連資料については、「みそのコレクション」の映画館プログラム、戦前期の映画雑誌、映画技術資料など、今後の大規模なデジタル化に向けた準備作業を実施した。また、前年度にデジタル化を実施した戦前の映画雑誌に関しては、平成 29 年度に図書室内に開設した「デジタル資料閲覧システム」にデータを追加した。

（オ）国立西洋美術館

インターネットを通じた情報発信の内容の充実を図るため、公式ホームページの全面的なリニューアル作業に取り組んだ。

また、「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』収録の研究論文、及び『国立西洋美術館報』最新号を公開し、美術に関する研究成果のオープンアクセス化を推進した。

公式 SNS では事業・活動や収蔵品についての積極的な情報発信に努め、YouTube チャンネルにて再開館と今後の活動に関する館長メッセージ動画の配信を行ったほか、Twitter 及び Facebook にて巡回展の開催情報や再開館に関する案内、所蔵作品・建築・景観・歴史紹介のシリーズ、「ル・コルビュジエと世界遺産シリーズ」等の記事全 71 件を投稿した。

（カ）国立国際美術館

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示室内で行うギャラリー・トークに代わって、公式 YouTube チャンネルにて研究員のハイライト・トークを配信した。講堂で行うトークイベントに関しては、オンラインでの聴講を可能にすることや後日公式 YouTube チャンネルで公開することにより、コロナ禍で講堂に収容できる人数が制約される中、多数の参加者を得ることができた。「鷹野隆大　毎日写真 1999-2021」では鑑賞者が展示会場内で撮影した写真を Instagram で募集し、集まった写真の中から作家が選出した写真をコメントとともに発表する企画を実施した。

教育普及に関しては、昨年度からホームページ上で随時公開している「アクティヴィティ・パレット」ページでは自宅でできる工作などをアート作家がレクチャーする写真・動画、音声などを公開した。また Zoom を利用したインタラクティブイベントを開催し、参加者から大きな反響を得た。

（キ）国立新美術館

日本国内の美術館、画廊、美術団体から継続的に展覧会情報を収集し、検索できる「アートコモンズ」では、令和３年度には約 3,000 件の展覧会情報を約 1,000 か所から収集し、累計で約 55,600 件の展覧会情報を収集・提供した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い展覧会関連イベントや講演会、ワークショップをオンラインで開催した結果、参加者から高い満足度を得た。

ホームページの他、Twitter、Facebook、Instagram の公式 SNS も活用し、展覧会・イベントや館内のおすすめスポットなどの情報を日々発信した。

③　美術情報・資料の収集、レファレンス機能の充実

ア　図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	図書室等利用者数
東京国立近代美術館	本館	5,045	154,023	453
	国立工芸館	1,743	31,354	676
京都国立近代美術館		1,452	35,563	3
国立映画アーカイブ		827	51,793	605
国立西洋美術館		409	54,433	—
国立国際美術館		1,462	55,814	3
国立新美術館		1,798	163,116	3,590
合計		12,736	546,096	5,330

【注１】上記の図書室等のほか、東京国立近代美術館は本館 4 階（令和 2 年度より 新型コロナウイルス感染防止の観点から実施していない）、京都国立近代美術館 は 4 階、国立西洋美術館は 1 階（令和３年度は改修工事に伴い実施していない）、 国立国際美術館は地下 1 階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けている。

【注２】平成 30 年 11 月 3 日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため、予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。

【注３】新型コロナウイルス感染症対策のため、東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、国立映画アーカイブ、国立新美術館の図書室では事前予約制の導入や入室上限数を定めるなどの対応をとった。国立国際美術館では新型コロナウイルス感染症対策のため資料閲覧を中止していたが、令和３年７月より再開した。

イ　特記事項

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

近現代美術に関する資料の収集・整理・提供を行い、昨年に引続き「NACSIS-ILL」を通した遠隔複写サービスに取組み、103 件対応した。また、ウェブサイト内で「資料紹介」「研究員の本棚」「カタログトーク」等のアートライブラリの資料や活動に関する記事を公開した。

（国立工芸館）

ライブラリ利用者から、所蔵作品展「めぐるアール・ヌーヴォー展：モードのなかの日本工芸とデザイン」の展示作品に関連した資料を求める声が多く、金沢ではデザイン作品への興味・関心が高いと考えられたため、デザインや図案関連資料を積極的に収集・公開した。

（イ）京都国立近代美術館

令和４年度以降開催予定の「倉俣史朗展」に係る研究のため『倉俣史朗の仕事』等の書籍を購入し、教育普及事業として進めている視覚障害者との鑑賞プログラム開発のため『ふれる世界の名画集』『ユニバーサル・ミュージアム：さわる！「触」の大博覧会』を購入した。また、「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展開催準備の過程で撮影した約 400 点の作品画像をデータベースに登録し公開した。

（ウ）国立映画アーカイブ

映画文献に関する網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や戦前の雑誌など貴重な映画文献の購入に努めた。特筆すべき購入実績として『新映画』『エスエス』『キネマ画報』等が挙げられる。

（エ）国立西洋美術館

キリスト教美術の図像に関する基礎資料として定評ある『キリスト教図像辞典（LCI）』がオンライン化されたことに伴い、新規に有償利用の契約を結び、研究資料センターにおけるレファレンス・ツールの整備充実に努めた。また、平成16年に購入したル・コルビュジエの資料について、国立近現代建築資料館が行う調査に協力し、閲覧サービス提供等の対応を行った。

（オ）国立国際美術館

企画展「ボイス＋パレルモ」の理解を深めるべく、日本ではあまり知られていない資料を収集し、閲覧用資料として提供したところ、好評を得ることができた。生誕 100 年であるボイスは各国の展覧会カタログや図書資料が多く出版され、今後の研究資料の活用のため収集を継続している。

（カ）国立新美術館

アーカイブズ資料について、ときわ画廊関係資料、野堀成美関係資料、秋山祐徳太子都知事選関係資料、「前衛芸術の日本 1910-1970」展会場映像の寄贈を新たに受けた。また、ホームページにアーカイブズ資料の紹介ページを新たに追加し、ANZAÏ フォトアーカイブ、山岸信郎関係資料等、合計 16 件の資料群情報と閲覧申し込み情報を公開した。

④　インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

平成 20 年度に、国立美術館 5 館（当時）全体において VPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を導入して以降、情報ネットワークの安定化・高速化を実現している。また、平成

28 年度から外部データセンターが提供するサーバ機能の利用、多重化光回線による VPN の二重化などネットワーク構成を刷新し、より安定したネットワークの稼働を実現している。あわせて、電子メールやウェブ閲覧の際の情報セキュリティの確保についても外部データセンターが提供するセキュリティ機能を積極的に利用し、より安全な運用の実現に努めた。

（4）教育普及活動の充実

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・講演会等のイベントの満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を８割程度とする。
関連指標	・教育普及事業参加者数

① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）

新型コロナウイルス感染症対対策のため、対面での事業の一部を中止又は縮小し、代替としてオンラインや郵送によるイベントを積極的に実施した。

館　　名		実施回数	満足度調査実績	参加者数
東京国立近代美術館	本館	209	96%	2,528
	国立工芸館	55	96%	1,027
京都国立近代美術館		40	99%	1,329
国立映画アーカイブ		86	96%	5,647
国立西洋美術館		49	88%	1,310
国立国際美術館		132	96%	4,734
国立新美術館		65	98%	8,381
合計		**636**	**96%**	**24,956**

各館の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

解説ボランティアのガイドスタッフによるオンラインイベント「オンライン対話鑑賞」は１年以上継続して定着し、学校・教員団体への対応、企業向け研修（有料）、ファミリープログラム「おやこでトーク ONLINE」等へ発展した。感染症の流行状況が落ち着いた 11 月～12 月には、休館日・閉館後等に限り企業研修等の有料プログラムを対面にて実施した。

（国立工芸館）

オンラインによる講演会やワークショップ（こども向け・家族向け）などを実施した。ボランティアガイドによる「工芸トークオンライン」のアンケートでは、66 件のうち 55 件が国立工芸館へ「是非訪れたくなった」と回答し、工芸の理解を深める鑑賞性の向上とともに館のイメージ戦略においても有効であることが確認できた。

（イ）京都国立近代美術館

文化庁から助成を受け、視覚障害者や作家と協働して誰もが楽しめるユニバーサルな鑑賞プログラムを開発する「感覚をひらく」事業を行った。この一環で、触れる・聞くなど身体感覚を用いて河井寛次郎の作品制作を読み解く活動を行い、体験型の展示を、「エデュケーショナル・スタディズ」として、コレクション展の一環で行った。

（ウ）国立映画アーカイブ

「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント」や小中学生を対象とする「こども映画館」、「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」などの恒例企画を、いずれも講演やトークイベント付きで開催し、好評を博した。

（エ）国立西洋美術館

YouTube による所蔵作品及び建築に関するオンラインレクチャーの配信、並びに zoom での相互性のある実践を試すことで、休館中であっても講演会に代わる情報発信や、対話を通じた鑑賞や様々なアクティビティを含むスクール・プログラム、ファミリー・プログラムを継続することができた。

（オ）国立国際美術館

コレクション展の出品作家でもある米田知子氏によるオンラインワークショップ「見えるものと見えないもののあいだ」やヴィデオ・アートの特別展に関連して実施したオンライン映像ワークショップ「YOUR VIDEO」では、オンラインを通じて作家との接点を持つ機会が生まれ、美術館への興味関心や作品理解も深まるなど大きな成果があった。

（カ）国立新美術館

10 代向けのプログラム「10 代と考えるファッションと未来」をオンラインで開催し、第一線で活躍するファッションデザイナーと 10 代をつなぐことで、有意義な対話がうまれた。また、休館日を利用して「障がい者のための特別鑑賞会」及び「分身ロボット OriHime によるオンライン鑑賞会」を開催した。そのほか、インターンによる職員インタビュー企画を実施し、その記事をホームページに公開した。美術館で働くことを目指す人等に向けた情報発信と同時に、インターン自身が美術館の仕事について学ぶ機会となった。

② ボランティアや支援団体との協力等による教育普及事業等

ア ボランティアによる教育普及事業

館　　名		ボランティア登録者数	ボランティア参加者数（延べ人数）	教育普及事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	36	191	894
	国立工芸館	28	78	285
京都国立近代美術館		33	－	－
国立西洋美術館		60	371	0
国立国際美術館		0	0	0
国立新美術館		53	30	253
合計		**210**	**670**	**1,432**

各館の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

令和２年度に引き続きガイドスタッフによるオンライン対話鑑賞・動画制作を行った。また、学校・生涯学習団体向けのオンライン対話鑑賞や、ファミリープログラム「おやこでトーク ONLINE」など、オンライン活動の機会が増加した。

（国立工芸館）

国立工芸館ガイドスタッフを活用したプログラム「工芸トークオンライン」を実施した。令和３年度は、28 名の登録者のうち、半数はトークを担当し、もう半数はガイドプランの作成

補助、リハーサル後のディスカッションに参加してプログラム構築や過去のガイドプランを活かしたデータベースの作成に従事した。

（イ）京都国立近代美術館

新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティアによるアンケート調査回収、集計作業を中止した。

（ウ）国立西洋美術館

ボランティアを対象としたオンラインでの研修・勉強会「お茶っこ＋（プラス）」を企画、実施した。通常３つの担当に分かれて活動しているが、各担当の必要な知識のブラッシュアップに加え、担当を超えた交流や、ディスカッションなどを通じて、自身の活動への多層的な理解を促すことができた。

（エ）国立国際美術館

新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティアによる教育普及事業を休止している。

（オ）国立新美術館

学生のボランティアであるサポート・スタッフが、PAN-PROJECTS の作品制作や、東京藝術大学、東京都と連携して開催した「TURN 茶会」での海を模した会場作り等、アーティスト主導の活動に参加した。

イ　支援団体等の育成と相互協力による事業

（ア）東京国立近代美術館

（国立工芸館）

石川県との共催により「ミュージアムコンサート　in　国立工芸館」及び「ミュージアムコンサート『オーケストラ・アンサンブル金沢メンバーによる　弦楽四重奏　in　国立工芸館』」を開催した。また、公益社団法人金沢ボランティア大学校の授業協力を行った。

（イ）京都国立近代美術館

京都市及びアンスティチュ・フランセとの共催により「ニュイ・ブランシュ KYOTO 2021」を開催し、若手アーティストへの支援を目的としてパリ市立近代美術館が 10 名の作家に制作を委嘱したショートビデオ短編映像作品の上映を行った。

また、京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を開催した。

さらに、京都市内４館連携協力協議会「京都ミュージアムズ・フォー」の連携事業として、講演会「上野リチの仕事：ウィーンからきたデザイン・ファンタジーと京都」を開催した。

（ウ）国立西洋美術館

「東京・春・音楽祭 2022」との共催コンサートを東京文化会館にて開催し、国立西洋美術館の所蔵作品に関するミニレクチャーを実施した。

また、東京都、東京都美術館、東京藝術大学アーツカウンシル東京が主催する教育普及プログラム「Museum Start あいうえの」を共催した。

（エ）国立国際美術館

大阪府及び NPO 法人こめっこ（特定非営利活動法人手話言語獲得習得支援研究機構）と連携し、「ちっちゃなこどもびじゅつあー」において、きこえづらい・きこえにくい未就学児を対象として、手話を主要言語とするプログラムを開催した。

（オ）国立新美術館

株式会社日本設計との連携により、同社のボランティアスタッフと「こどもたんけんツアー」及び「建築ツアー」を行った。また、株式会社日本設計及びキヤノン株式会社による協賛金等を活用し、ワークショップや講演会等の開催、鑑賞ガイドブックの制作を行った。

「庵野秀明展」関連プログラム「障がいのある方のための特別鑑賞会」及び「分身ロボット OriHime による障がいのある方のためのオンライン鑑賞会」では、株式会社オリイ研究所と技術面で協力し合い、三菱商事株式会社と、運営面で協働して開催した。

（５）調査研究の実施と成果の反映・発信

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・調査研究活動の成果に基づき、所蔵作品展において、前中期目標期間実績程度の展示替えを実施する。
関連指標	・調査研究活動の成果の多様な方法による公開に係る取組状況。（調査研究成果の公開方法・公開件数） ・映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究の取組状況（調査研究の取組件数）

①　調査研究一覧

各館において、調査研究を実施した。個々の調査研究については別表 6 を参照。また、展示替えについては別表 1 を参照。

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

桝田倫広（主任研究員）が、令和 2 年度に担当した展覧会「ピーター・ドイグ」展の企画と構成が評価され第 16 回西洋美術振興財団賞・学術賞に選ばれた。

イ　国立国際美術館

橋本梓（主任研究員）が、令和 3 年度に担当した展覧会「Viva Video!　久保田成子展」の企画及びカタログ中の論文が評価され、第 32 回倫雅美術奨励賞を受賞した。

②　調査研究成果の発信

ア　館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において、以下のとおり展覧会図録、研究紀要、館ニュース等を刊行し、研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 7～9 を参照。

館名		展覧会図録	研究紀要	館ニュース	ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ･ｶﾞｲﾄﾞ等
東京国立近代美術館	本館	3	1	1	6
	国立工芸館	2			2
京都国立近代美術館		4	1	7	6
国立映画アーカイブ		0	0	4	14
国立西洋美術館		1	1	1	4
国立国際美術館		3	0	4	7
国立新美術館		3	1	―	5
合計		16	4	17	44

イ　館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

各館において、以下のとおり学会、学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 10 を参照。

館名		学会等発表件数	論文等発表件数			
			学術書籍、研究報告書等の発行	学術誌論文掲載【査読有り】	学術誌論文掲載【査読無し】	その他
東京国立近代美術館	本館	27	9	0	16	24
	国立工芸館	9	0	0	13	20
京都国立近代美術館		6	6	0	8	33
国立映画アーカイブ		14	2	0	3	8
国立西洋美術館		14	7	1	3	6
国立国際美術館		14	0	0	4	16
国立新美術館		13	1	0	3	12
合計		97	25	1	50	119

ウ　インターネットによる調査研究成果の発信

（ア）東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）

『研究紀要』及び美術館ニュース『現代の眼』の収録論文を、ホームページ上及びインターネット上の東京国立近代美術館リポジトリを通じて公開した。

（イ）京都国立近代美術館

「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island ―あなたの眼はわたしの島―」展開催記念講演会「ヴィデオアートにおける身体／性、そしてパーソナルな次元」、「発見された日本の風景」展開催記念講演会「明治の風景を描いた人々　―画家別に整理してみる―」及び「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展開催記念講演会「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジーと京都」を館の YouTube アカウントより同時配信した（配信データはホームページにアーカイブ化され閲覧可能）。

また、各展覧会のギャラリー・トークを館の Instagram アカウントより LIVE 配信し、ホームページ上でのアーカイブ化を行っている。

（ウ）国立映画アーカイブ

「NFAJ デジタル展示室」において、「第 22 回 無声期日本映画のスチル写真(10)―マキノプロダクション②」、「第 23 回 戦前期外国映画の日本版ポスター(1)」、「第 24 回 戦前期外国映画の日本版ポスター(2)」、「第 25 回 戦前期外国映画の日本版ポスター(3)」のデジタル展示を公開した。

また、「2021.10.16 ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント［緊急フォーラム］マグネティック・テープ・アラート： 膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること」サイトにおいて、当日の配布資料及び採録テキスト、ビデオレクチャーを公開した。

（エ）国立西洋美術館

国立西洋美術館 Facebook にて「ル・コルビュジエと世界遺産シリーズ」を計 8 回連載した。

インターネット上の「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』収録の研究論文、及び『国立西洋美術館報』最新号を公開した。

（オ）国立国際美術館

『国立国際美術館ニュース』の収録論文をホームページ上で公開した。

また、国際交流基金アジアセンター主催のオンライン交流対談「アジアセンター　クロストーク　～ポスト・コロナに向けて旅する文化～」で橋本梓（主任研究員）がモデレーターを務めた。

（カ）国立新美術館

「令和２年度活動報告」、「歩く・見る・知る美術館　国立新美術館　建築ツアー記録集 2017-2021」をホームページ上で公開した。

また、「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」展の関連事業として、研究者や専門家等を招いたオンラインのトークイベント等を５回開催したほか、文化庁委託による「文化庁アートプラットフォーム事業」の関連事業として、シンポジウムを２回、招待制ワークショップ１回をオンライン配信した。

エ　所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

各館において所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムを開催した。詳細については別表 11 を参照。

（６）快適な観覧環境の提供

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・快適な観覧環境の提供に係る取組状況。（入館者に対する満足度調査の「良い」以上の回答率を、前中期目標期間実績と同程度の水準を維持するものとする。）
関連指標	・サインや作品解説等の多言語化に向けた取組件数。

館　　名		観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率	目標（第４期中期目標期間実績）
東京国立近代美術館	本館	77.3%	78%
	国立工芸館	80.5%	
京都国立近代美術館		73.9%	
国立映画アーカイブ		87.0%	
国立西洋美術館		―	
国立国際美術館		74.5%	
国立新美術館		86.3%	

【注１】満足度調査は、回答を「良い」「普通」「悪い」のいずれかに分類し、集計している。

【注２】国立西洋美術館は改修工事に伴い調査を実施していない。

①　高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数は 58 件である。以下、多言語化に向けた取組には下線を付する。（第４期中期目標期間中の平均件数は 60 件である。）

＜各館共通実施事項＞

・多言語による館案内表示

・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布

・英語による館内放送の実施（一部の放送を除く）

・所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多

言語化（日本語・英語・中国語・韓国語に対応）
※京都国立近代美術館は中国語・韓国語非対応。国立映画アーカイブを除く。
・所蔵作品展・企画展における音声ガイドの多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）
※京都国立近代美術館は中国語・韓国語非対応。国立映画アーカイブを除く。
・多目的（身体障害者用）トイレ、エレベータ（エスカレータ）、スロープ（手摺り）の設置
・車椅子の貸出、ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
・自動体外式除細動器（AED）の設置
・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
・オストメイト（人工肛門、人工膀胱保有者）対応の設備を設置
・無料Wi-Fiの提供
・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置

＜各館ごとの継続実施事項＞
・多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置【東京国立近代美術館（本館）、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館】
・多言語による所蔵作品展チケットのオンライン販売を実施（Tiqets）【東京国立近代美術館（本館）、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館】
・電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立新美術館】
・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館】
・授乳室の設置【京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立新美術館】
・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館（本館）、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館】
・QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を開始【東京国立近代美術館（本館）、京都国立近代美術館、国立国際美術館】
・クレジットカードによる観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館（国立工芸館）、京都国立近代美術館】
・地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館（本館）、国立西洋美術館】
・QR コード読み取り式の電子アンケート（日本語・英語）を導入【東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、国立新美術館】
・国立美術館６館紹介パンフレットの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【法人本部】
・館内サインの拡大、所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加、ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置、所蔵作品展における小中学生向けこどもセルフガイドの配布、自主企画展における無料音声ガイドアプリの提供、所蔵作品展におけるスマートフォンアプリによる４ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供、訪日外国人に向けた、英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let’s Talk Art！」のオンラインによる実施【東京国立近代美術館（本館）】
・作品名・作家名にふりがなを入れた会場キャプションの設置及び作品リストの配布、夏季所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語・英語）及び冬季所蔵作品展における一般観覧者向けリーフレット（日本語・英語）の作成・配布、スマートフォンアプリによる章解説・作品解説の多言語での提供【東京国立近代美術館（国立工芸館）】
・視覚障害者支援施設の方から、館内階段手すりに表示されている点字表記に誤りがあるとの指摘を受け、早急に修正を行った。【東京国立近代美術館（国立工芸館）】

・美術館ニュース『視る』の配布、免震装置付有機 EL 照明による展示ケースの設置【京都国立近代美術館】
・特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布、所蔵作品上映におけるバリアフリー上映を実施（視覚障害者向け音声ガイドの使用、聴覚障害者向け字幕投影及び磁気ループシステム使用）、長瀬記念ホール OZU での企画上映について、前売券の販売【国立映画アーカイブ】
・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布、館広報物（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載、「建築探検マップ」を全面改定版した「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の作成・配布、グーグル「Arts&Culture」アプリによる主要所蔵作品解説（日本語・英語・中国語・韓国語）の無料配信の実施、建築音声ガイドの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）、企画展におけるスマートフォンアプリによる 3 ヶ国語（英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供【国立西洋美術館】
・安全仕様のキッズルーム（地下 1 階）の設置、同所における幼児向け絵本常設【国立国際美術館】
・点字ブロック（正門から正面入口、地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内ほか）の設置、補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機 10 台）、ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示、託児サービスの実施、文字を大きくし見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布、企画展における児童生徒向け鑑賞ガイドの配付及び子ども向け施設ガイド『てくてくマップ』の配布及びホームページ掲載、地域の学校を対象として休館日の展示室を無料で開放する「かようびじゅつかん」を実施、外国人来館者向けの翻訳サービス「SMILE CALL」を導入、講演会・シンポジウム等における手話通訳の導入、利用者がスマートフォン等の端末で視聴できるウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」を配信【国立新美術館】

＜令和３年度新規実施事項＞

ア　東京国立近代美術館

（本館）

映像作品田中功起《ひとつの陶器を五人の陶芸家が作る（沈黙による試み）》（2013 年）に聴覚障害者のために手話とバリアフリー字幕をつけ、１年間ウェブサイトで公開するとともに、10 月５日から２月 13 日まで２階所蔵品ギャラリーで展示した。

イ　京都国立近代美術館

・自主企画展チケットのオンライン販売を実施した。

②　入場料金、開館時間等の弾力化

＜各館共通実施事項＞

・所蔵作品展、自主企画展及び国立映画アーカイブの展覧会における高校生以下及び 18 歳未満の観覧料を無料化
・所蔵作品展及び企画展における夜間開館（毎週金曜・土曜日 20 時まで）を実施
・文化の日（11 月３日）における所蔵作品展の観覧料を無料化（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京国立近代美術館（本館）では実施していない。）

＜各館ごとの継続実施事項＞

ア　東京国立近代美術館

（本館）

・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子どもを連れた家族に所蔵作品展の観覧料割引を実施
・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる所蔵作品展の観覧料割引を実施

・JAF 会員券の提示による所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施（企画展も展覧会により割引実施。）
・「東京・ミュージアム ぐるっとパス」に参加し、所蔵作品展及び企画展観覧料割引を実施
・企画展（「あやしい絵展」、「隈研吾展　新しい公共性をつくるためのネコの 5 原則」、「柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年」「没後 50 年 鏑木清方展」）において、各種観覧料割引を実施
・所蔵作品展については引き続き「５時から割引」（夜間割引）を実施
・通訳案内士の所蔵作品展・企画展（展覧会による）の無料観覧
・「アートフェア東京 2022」の特別協力美術館として、令和４年３月 19 日～20 日に当該イベントの参加者に対し、所蔵作品展観覧料を無料又は割引とした。

（国立工芸館）
・通訳案内士の所蔵作品展・企画展（展覧会による）の無料観覧
・所蔵作品展及び企画展において各種観覧料割引を実施

イ　京都国立近代美術館
・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
・「関西文化の日」（11 月 13 日、14 日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
・京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
・奈良国立博物館、国立民族学博物館及び MIHO MUSEUM の友の会と相互割引を実施
・近隣の京都市京セラ美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
・京都伝統産業ミュージアムと相互割引を実施
・JAF 会員証提示による企画展及び所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
・朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞トマト倶楽部、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
・「ミュージアムぐるっとパス・関西」に参加し、所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
・第 1 回コレクション展及び「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island －あなたの眼はわたしの島－」において、金曜日の 17 時以降の入館者に対して、夜間割引を実施
・第 2 回コレクション展及び「モダンクラフトクロニクル―京都国立近代美術館コレクションより―」において、金、土曜日の 17 時以降の入館者に対して、夜間割引を実施。
・第 3 回コレクション展及び「発見された日本の風景　美しかりし明治への旅」において、金、土曜日の 17 時以降の入館者に対して、夜間割引を実施。
・令和 4 年度第 1 回コレクション展及び「サロン！雅と俗－京の大家と知られざる大坂画壇」において、金、土曜日の 17 時以降の入館者に対して、夜間割引を実施
・上記割引のほか、企画展（「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island －あなたの眼はわたしの島－」、「モダンクラフトクロニクル―京都国立近代美術館コレクションより―」「発見された日本の風景　美しかりし明治への旅」、「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」、「新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」、「サロン！雅と俗－京の大家と知られざる大坂画壇」）において、各種観覧料割引を実施

ウ　国立映画アーカイブ
・平成 30 年４月 27 日より実施しているプレミアムフライデーにおける 7 階展示室の開館延長を再開（令和２年度は新型コロナウイルス感染症対策のため休止。）
・「東京・ミュージアム ぐるっとパス」に参加し、展覧会観覧料割引を実施

エ　国立国際美術館
・７月 16 日～31 日の間、夜間開館の延長（金・土曜日 21 時まで開館）を実施
（当初夜間開館の延長は７月２日～９月 18 日の期間行う予定だったが、大阪府の要請に従

い、７月２日～10 日及び８月６日以降の金・土曜日の開館時間を 20 時まで延長することとした。）

・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料割引を実施
・原則毎月第１土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
・「関西文化の日」（11 月 13 日、14 日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
・「関西文化の日プラス」（１月８日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
・大阪観光局が発行する「大阪周遊パス」による所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
・「ミュージアムぐるっとパス・関西」に参加し、所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
・京都国立博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館の友の会等と相互割引を実施
・近隣の大阪市立東洋陶磁美術館及び大阪大学適塾記念センターと連携し、相互割引を実施
・朝日新聞グループ 朝日友の会、大阪市高速電気軌道株式会社、大阪大学カード、OSAKA メセナカード、京阪カード、阪急阪神カード及びみずほプレミアムクラブの情報誌・ホームページに展覧会情報等を掲載するとともに観覧料割引を実施
・近隣ホテルとの連携を強化し、ホテル利用者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施。また、提携ホテルでの展覧会の半券持参等による特典を提供
・９月 20 日（月）に臨時開館を実施

オ　国立新美術館

・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施したほか、企画展において、各種観覧料割引を実施
・「東京・ミュージアム ぐるっとパス」に参加し、企画展観覧料割引を実施
・東京ミッドタウンと連携し、東京ミッドタウン内対象ショップへの展覧会の半券持参による特典提供を実施

＜令和３年度新規実施事項＞

ア　東京国立近代美術館

（本館）

・一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催するイベント「アートウィーク東京」に協力し、令和３年 11 月４日～７日について、当該イベント参加者に対し、企画展「柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年」及び所蔵作品展観覧料を無料又は割引とした。

（国立工芸館）

・「近代工芸と茶の湯のうつわ」展の会期中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で緊急事態宣言が発令され臨時休館となったことから、宣言解除後の６月 14 日（月）・21 日（月）・28 日（月）に臨時開館を実施した。
・隣接する施設の夜間開館に合わせて、７月 23 日(金)、24 日（土）及び 30 日（金）に夜間開館を実施した。（当初８回実施予定だったが、うち５回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館のため中止となった。）
・国立工芸館の移転開館日である 10 月 25 日（月）及び文化週間期間の 11 月１日（月）に臨時開館を実施した。
・いしかわ文化の日（10 月 17 日）における観覧料を無料化した。
・学生のまちパスポート『学パス』（いしかわ・かなざわ文化施設入館証）により、石川県内の高等教育機関に在学する１年生を対象に、観覧料無料を実施した。

イ　京都国立近代美術館

・「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island －あなたの眼はわたしの島－」において、6月1日～6月17日の開館時間を18時まで延長した（夜間開館日を除く）。

・「モダンクラフトクロニクル―京都国立近代美術館コレクションより―」において、8月3日～8月22日の開館時間を18時まで延長した（夜間開館日を除く）。

ウ　国立新美術館

・「庵野秀明展」において、休館日に「障害のある方のための特別鑑賞会」及び「分身ロボットOriHimeによる障がいのある方のためのオンライン鑑賞会」を実施した。

③　キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成 18 年 12 月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、令和3年度は2校の新規加盟があり、退会校6校と合算すると前年度比4校の減少となった。

平成29年度から実施している外部媒体（マイナビ「学生の窓口」）を活用した広報では、「美術館でファッションコーデを考えてみた。」と題し、美術館の新たな楽しみ方として、3名の大学生に東京国立近代美術館の MOMAT コレクションから気に入った作品を選び、その作品に合わせたファッションコーデを考えてもらうという記事を掲載し、学生に対する広報活動を引き続き強化した。同記事は、令和２年のページビュー数7,672回を上回る8,769回閲覧された。

④　ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、企業との連携等により各館所蔵作品の図版等を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

・企画展「隈研吾展　新しい公共性をつくるためのネコの5原則」において、隈研吾建築都市設計事務所と奈良の老舗生活雑貨店である中川政七商店が協働開発した暮らしの道具を販売し、好評を博した。

・「美術館の春まつり」期間中、エントランスに特設ショップを出店し、花にちなんだ作品をモチーフとした商品を販売した。

・三越伊勢丹と中元・歳暮を中心としたギフト連携を開始し、所蔵作品画像をパッケージ等に使用したコラボレーション商品を企画し、ミュージアムショップ等で販売した。

（国立工芸館）

・「近代工芸と茶の湯のうつわ」展において、期間限定で出品作家数名の作品（小品）を取り揃え、来館者の関心を引くとともに、売り上げにも結びつけた。

・「めぐるアール・ヌーヴォー展」において、杉浦非水展のミュージアムグッズ、アール・ヌーヴォー関連グッズを期間限定で取り揃えるなど、展覧会ごとに、その趣旨に合った商品を充実させた。

・三越伊勢丹と協力し、工芸館所蔵作品の図柄を容器にあしらったギフト商品の菓子をショップで販売し、売り上げに結びつけた。

イ　京都国立近代美術館

・「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island ―あなたの眼はわたしの島―」展においては、水戸芸術館と共同で、ポストカード、マルチクロス、マスク、トートバッグ、ジャガードゴムを作家の意見も取り入れ製作し販売した。また、京都の和菓子屋『のな』に展覧会をイメ

ージした和菓子を製作していただき、毎週水曜日に限定販売を行い、毎回売り切れるほどの好評を博した。

・「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展では、ポストカードの他、クリアファイル、ペーパーファイル、一筆箋、マスキングテープ他、全１４アイテムを製作し販売した。京近美所蔵作品のため、美術館のオリジナルグッズとして引き続き販売することにより、今後も作家と所蔵作品の知名度を高めることに貢献できる。また、京都展限定グッズとして京都の老舗和菓子店『塩芳軒』とコラボした和三盆を製作した。

・「新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」展では、ポストカードの他、クリアファイル、メモ帳、付箋、クロスハンカチ他、全９アイテムを製作し販売した。これらも京近美所蔵作品のため、美術館のオリジナルグッズとして引き続き販売することにより、今後も作家と所蔵作品の知名度を高めることに貢献できる。

・文化庁委託事業「CONNECT⇄」では、前年同様、岡崎公園７施設プログラム「岡崎公園でミュージアムショップめぐり」へ参加し、NPO 法人「Salut（サリュ）」にご協力いただき趣旨にちなんだ商品を仕入れ、販売した。

・レストランでは、企画展に合わせた期間限定メニューを実施した。また、京都観光を楽しんでいただくメニューとして抹茶体験を引き続き実施し、日本茶メニューのラインを充実させた。

ウ　国立映画アーカイブ

・令和２年度に館内整備を行い、１階エントランスホールの総合受付に併設したミュージアムショップを開設し、オリジナルグッズの製作を行ったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、刊行物等の販売に留めており、令和３年度も NFAJ ニューズレター及び展覧会図録等の販売に留めた。

エ　国立国際美術館

・企画展「鷹野隆大　毎日写真 1999-2021」では関連グッズの種類を増やし、来館者の需要に合わせた運営を行った。

・企画展「ボイス＋パレルモ」においては国内では取り扱いの少ない洋書を含め、多くの関連書籍を販売し、作家の知名度を高めることに貢献した。

・企画展「鷹野隆大　毎日写真 1999-2021」、企画展「ボイス＋パレルモ」にちなんだ特別メニューを開発・提供した。

オ　国立新美術館

・教育普及室とミュージアムショップの連携により、アーティストの個展を年間６展開催し、作品の展示販売を行なった。

・展示の来館客層に合わせた催事展開を行なった。

・オリンピック開催に合わせて、”Taste Nippon”と題し、ニッポンの名物にインスパイアされた料理をカフェテリアで提供した。

・庵野秀明展、メトロポリタン美術館展にちなむ特別コラボレーションメニューをレストラン、カフェの店舗にて提供した。

２　我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

（１）作品の収集

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品の収集に係る取組状況。 （美術作品購入点数、美術作品寄贈点数、美術作品年度末所蔵作品数）

館　　名		購入点数	購入金額（千円）	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館	本館	8	558,321	60	13,617	252
	国立工芸館	18	85,860	14	4,023	95
京都国立近代美術館		23	139,548	124	13,023	1,009
国立西洋美術館		4	628,260	2	6,394	249
国立国際美術館		26	533,775	20	8,115	108
合計		**79**	**1,945,764**	**220**	**45,172**	**1,713**
（参考） 第４期中期目標期間実績（※）		349	―	208	44,873	―

※購入点数及び寄贈点数は平均値である。年度末所蔵作品数は令和２年度の数値である。

館　　名		令和３年度の収集方針
東京国立近代美術館	本館	・1970 年代以降の日本と海外の作品の収集 ・日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集 ・1900～1940 年代の日本画作品の収集
	国立工芸館	・日本工芸の近代化を示す作品の補充 ・戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集 ・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集
京都国立近代美術館		・近・現代美術史の将来的検証に資する作品・資料を収集する。 ・絵画、彫刻、版画、素描類、工芸（陶芸・漆芸・金工・染織など）・デザイン、写真など、芸術の動向に係る作品・資料をジャンルの区別なく収集するだけなく、複数のジャンルを横断する作品も積極的に収集対象とする。 ・日本の作品については、全国の動向に目配りしつつも、京都を基盤とし、関西さらには西日本での芸術活動に重点を置き、所蔵作品の充実を図る。 ・国外の作品については、日本の芸術と世界の関係に鑑み、日本へ／からの影響関係が認められる作品の収集に重点を置く。特にダダイスムのような、芸術におけるパラダイムシフトに大きな役割を果たした動向の作品に注目する。
国立西洋美術館		・15～20 世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。 ・ドイツ・フランドル・イタリア・フランス等を中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。 ・国内外に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。
国立国際美術館		・1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。 ・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

〈購入〉

速水御舟《渓泉二図》（1921 年）、パウル・クレー《黄色の中の思考》（1937 年）を購入した。《渓泉二図》は大正時代の日本画における細密描写の傾向をよく示すものとして展示活用が期待される。《黄色の中の思考》はクレー晩年の傑作のひとつであり、国内の個人が長く秘蔵していたが海外流出を防ぐことができた。すでに収蔵している作品と組み合わせて、二つの世界大戦の間の前衛美術の展開をたどる上で貴重な作例として活用しうる。また、現代の作家として青木野枝、横溝静、オノデラユキら、いずれも現在活躍中の女性作家の作品を収集し、多様化する現代の美術の動向をより広く紹介することが可能となった。

〈寄贈〉

油彩では昭和戦前期に活躍した長谷川利行による肖像画《大庭鉄太郎像》（1937 年）を、モデルとなった人物の遺族からご寄贈いただいた。モデルの方が制作時の回想談を残しており、貴重な作例である。版画では木口木版画の手法を確立した日和崎尊夫のご遺族から多数の寄贈を受け、その作風の変遷を初期から晩年に至るまでたどることが可能となった。彫刻では辻晋堂と佐藤玄々（朝山）の作品をご寄贈いただき、これまで比較的手薄だった昭和（戦中～戦後）の木彫を充実させることができた。とりわけ佐藤玄々の作品は工芸館の所蔵する人形作品との比較展示など幅広い活用が見込まれる。写真では戦後を代表する写真家のひとり奈良原一高の作品を、前年度から引き続きご遺族よりご寄贈いただき、彼の仕事を体系的に紹介することが可能となった。

（国立工芸館）

〈購入〉

北大路魯山人《紅白椿鉢》（1938-40 年）を購入した。本作は魯山人芸術における代表的な作品としてあげられる「椿鉢」のなかでも最大のものであり、かつ器形のバランス、コンディションの点でも特に優れている。琳派や乾山焼、「和食」など、さまざまな分野や切り口で日本の文化を紹介できる要素を併せ持っており、国立工芸館の魯山人コレクションの充実に繋がるとともに、国立美術館全体のコレクション中で、とくに陶芸作品における代表的な位置づけとなりうるという点からも意義のある購入であった。

また、隠﨑隆一《備前広口花器》（2012 年）や六代清水六兵衛《嵯峨野花瓶》（1952 年）、黒田辰秋《乾漆耀貝螺鈿食籠》（1974 年）、二十代堆朱楊成《存星白龍文平卓》（1940 年）など、各作家の代表作や、竹久夢二によるきわめて珍しい人形作品 2 点を収蔵したほか、新里明士《光器水指》（2020 年）や和田的《白器　ダイ／台》（2018 年）など近年高い評価を得ている若い世代の作家にも目配りした幅広い収蔵を進めることができた。

〈寄贈〉

各務鑛三《クリスタル硝子花瓶》（制作年不詳）を受贈した。産業と結びついていたガラスの世界を美術工芸の分野に高めた各務の作品は現存例が少なく、国立工芸館のコレクションの欠落部分を補完することができた。また、長浜重太郎の貴重な戦前の作品で新文展出品作である《水だまり和染壁掛》（1941 年）を受け入れた。在野での活動が主であった長浜の作品は国立美術館では初めての収蔵であり、同時代の工芸家のネットワークを検証するうえでも貴重な受贈の機会となった。また、備前焼の伝統技法を現代的な装飾文様として捉えなおし独自の作風を展開する伊勢崎紳の第 40 回日本伝統工芸展奨励賞《備前緋襷台鉢》（1993 年）や、九谷焼の伝統的な色絵の世界に新たな色彩世界を築く武腰潤の大作《鴾相対蓮図磁篋》（2021 年）、イルカをモチーフにして金工の世界で多彩な展開を見せている宮田亮平が初めてイルカを題材にした《シュプリンゲン》（1991 年）などの受け入れによって、国立工芸館のコレクションの厚みをさらに増すことができた。

イ　京都国立近代美術館

〈購入〉

20 世紀アートブックの代表作である、画家でデザイナーのソニア・ドローネー＝テルクと詩人ブレーズ・サンドラールの共作《シベリア横断鉄道とフランスの小さなジャンヌのための散文詩》（1913 年）を購入した。本作品の購入によって、所蔵作家のジェンダーバランス改善と既蔵の数多くの挿絵本との比較研究の促進が期待される。また、近代日本漆芸界の巨匠赤塚自得の《桜蒔絵料紙硯箱》（明治から大正期）を購入し、漆芸作品コレクションの充実化を図った。

他に特徴的な購入作品として、1970 年以降所在不明であった浅井忠の代表作《御宿海岸》（1897 年頃）が挙げられる。浅井忠は近代洋画黎明期の重要作家で京都に縁がある人物にもかかわらず、これまで油彩画の所蔵が 1 点のみであったが、この購入によって、展示や貸出でのより柔軟な対応が可能になった。さらに、漆芸・木工作家黒田辰秋の初期代表作《螺鈿象嵌

菖蒲紋様手筥》（1938 年）を含む 7 点を、黒田ゆかりの所蔵家より購入した。京都国立近代美術館では、2024 年に黒田生誕 100 年記念回顧展開催を予定しており、これら購入作品は寄贈作品とともに、その充実化に寄与するものと期待される。また、令和３年度の「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展開催に際し、その展示のために関係作品を購入した。

〈寄贈〉

令和３年度は多彩な工芸作品を数多く受贈した。中でも特筆すべきは、初期の代表作《友禅着物「光」》（1967 年）を含む、森口邦彦の 1960 年代から 90 年代にかけての代表作 35 点を受贈したことである。将来的には 2000 年以降の代表作や下絵類も収蔵し、手描き友禅の世界に新風を吹き込んだ森口の全創作過程を見渡せるコレクション形成を目指す。また前衛陶芸家団体「走泥社」メンバーの田辺彩子及び川上力三の作品計３点は、令和４年度開催予定の「走泥社」展準備が契機となって実現した受贈である。さらに、作家・デザイナーという富本憲吉の仕事の２つの方向性比較研究に必須となる資料、「八坂工芸」のために制作した量産作品見本一式を受贈した。

文人画家富岡鉄斎のご遺族からは、正宗得三郎《富岡鉄斎像》（1925 年）ほか、これまで未蔵だった洋画家による作品を受贈した。またチェコ文学研究者大平陽一氏より、長年の研究の過程で収集された 1920 年代を中心とする「チェコ・アヴァンギャルドのブックデザイン」計 352 点を受贈した。ここにはカレル・タイゲなど当時のチェコスロヴァキアを代表するデザイナーによる書籍・雑誌、彼らに影響を与えたロシア・アヴァンギャルドの書籍・雑誌が含まれている。この受贈は、昨年度開催した「キュレトリアル・スタディズ 13：チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s」が契機となった。

ウ　国立西洋美術館

〈購入〉

フィンランドの近代絵画を代表するアクセリ・ガッレン＝カッレラの油彩画《ケイテレ湖》（1906 年）と、ロダンの助手を務め愛人としても深い関係にあったフランスの彫刻家、カミーユ・クローデルのブロンズ彫刻《ペルセウスとゴルゴーン》（1898-1905 年）を購入した。

《ケイテレ湖》は近年評価が高まっている北欧絵画の代表作のひとつである。国立西洋美術館の展示においては 2008 年度に購入したデンマークの画家ヴィルヘルム・ハンマースホイの作品とともに、ひとつのセクションを構成することになる。一方クローデルの作品は、作者のロダンとの深い関係から、ロダンの世界的コレクションを有する館として以前より取得に向けて取り組んでいたものであり、重要な追加となる。また館のコレクションにおける女性芸術家の系譜を鑑みるうえでも、有効な活用が期待される。2 点の購入によって、国立西洋美術館の近代美術コレクションには一層の深みがもたらされたと言える。

〈寄贈〉

受贈したフェルナンド・デ・ラ・トーレ・ファルファンの書籍『セビーリャ大聖堂におけるカスティーリャ王フェルナンド3世列聖の祝祭』(1671年) は17世紀スペインの豪華本であり、当時の宗教的祝祭の記録としても貴重である。館のスペイン美術コレクションを歴史的に説明しうることから、活用が期待される。

もう1点の受贈作品であるエミール・オルリックの版画《化粧》（1902年）は西洋人が20世紀初頭の日本の風俗を描いたものであり、東西交流の証拠作品として、またジャポニスムの一例として、館のコレクションの重要な追加となる。

エ　国立国際美術館

〈購入〉

メル・ボックナー《セオリー・オブ・スカルプチャー（カウンティング）＆プリマー》（1969-1973 年）、ロバート・ゴーバー《無題》（1992 年）、マーク・マンダース《乾いた土の頭部》（2015-2016 年）を購入した。とりわけボックナーは、コンセプチュアル・アート初期の重要な作例であり、作家の代表作が日本国内に収蔵されたことは大きな意義がある。ゴーバー、そ

してマンダースもそれぞれの代表的な作例であり、ゴーバーは国内では初の美術館への収蔵となり、活用が見込まれる。また、個展を開催した鷹野隆大の作品を 17 点収蔵し、まとまったかたちで展覧することが可能となった。中堅の映像作家として世界的にも活躍を始めている山城知佳子の映像作品も４点収蔵することができた。これにより、国立国際美術館にこれまで収蔵されていなかった沖縄の現代美術の文脈を形成する端緒となった。

〈寄贈〉

郭仁植の作品８点寄贈を受けた（１点購入）。郭はもの派の先駆的な役割を果たした重要な作家であるが、もの派の作家たちと比較すると十分な調査と評価がなされてこなかった。近年、韓国では大規模な回顧展が開かれるなど、再評価の機運が高まっており、代表作を複数点収蔵できたことは大変意義深い。

Image:image のエフェメラ類の寄贈は、関西の前衛運動の継続的な調査の過程で寄贈が決まったものである。パフォーマンスが主体となった当時の表現活動の中、実態がないために歴史に残ってこなかった重要な活動を、これによって跡付けることが可能となる。植松奎二のドローイングは、既に国立国際美術館に収蔵されている彫刻作品の素描である。植松は、彫刻、写真、素描といった異なる手段で表現する作家であり、今回の寄贈によって作家の全体像を補完することが可能となる。

（２）所蔵作品の保管・管理

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・保管環境等の改善等に係る取組状況。 （各館の収蔵庫の収納率。）

①　収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア　東京国立近代美術館

（本館）

収納率：約165%

従来どおり、館外の倉庫２か所に作品の一部を預け、作品貸与と所蔵作品展示により作品を収蔵庫外に出すことで収蔵スペースを確保している。

（国立工芸館）

収納率：約 100%

金沢の国立工芸館収蔵庫は、令和３年度までに移転した工芸作品で収納率が 100%を超え、所管する残りの約 44%は東京分室で収蔵保管している。今後は移転した金沢市内で作品の適正な保管・管理を行う館外の民間倉庫活用を検討している。

イ　京都国立近代美術館

収納率：約 192%

収蔵品の運用を妨げる可能性がある大型作品や、展示・貸与の機会が比較的低い作品については館外の民間倉庫を活用し保管している。また、館内収蔵庫内での収蔵方法を適宜見直し、保存環境の改善と維持に努めている。

ウ　国立西洋美術館

収納率：約 90%

作品が虫害被害に遭わないよう、トラップを仕掛けて文化財害虫のモニタリングを定期的に行い、現状調査を行った。また、空調の改修を行った企画展示室と第 3 収蔵庫において、文化財活用センターによる有害ガス調査（ホルムアルデヒド、アンモニア、酢酸）を実施し、問題がないことを確認した。

エ　国立国際美術館

収納率：約 140%

作品の大きさや重量、活用頻度を考慮して配架場所を変更、調整し取り扱いの安全性を確保しながら可能な限り多くの作品を収納できるよう整理を行った。また、作品の形状に合わせた保管箱の作成を継続して行っており、収納スペースの確保だけでなく、作品の取り扱いにおいても利便性が向上するよう工夫している。一方で大型の立体作品については、収納の工夫等では収蔵スペースを確保することは難しいため、令和４年度からの民間倉庫利用開始を目指し、近隣の美術作品用貸倉庫の調査を行った。

②　防災対策の推進・充実

館名		火災発生を想定した避難訓練等の実施日
東京国立近代美術館	本館	（本館）令和４年２月７日（月） （分室）令和４年２月１日（火）
	国立工芸館	令和４年３月３日（木）
京都国立近代美術館		令和３年 12 月６日（月）
国立映画アーカイブ		（本館）令和４年３月４日（金） （相模原分館）令和３年 11 月 30 日（火）
国立西洋美術館		令和４年３月 10 日（木）
国立国際美術館		令和３年 12 月６日（月） ※地震による水害発生を想定した訓練を含む。
国立新美術館		令和４年１月５日（水）～12 日（水）

（３）所蔵作品の修理・修復

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品についての修理、修復に係る取組状況。（所蔵作品の修理・修復数）

館　　名		修理・修復点数
東京国立近代美術館	本館	22 点（絵画 17 点、素描 1 点、版画 4 点）
	国立工芸館	33 点（工芸 5 点、デザイン 28 点）
京都国立近代美術館		10 点（絵画 1 点、工芸 4 点、資料・その他 5 点）
国立西洋美術館		263 点（絵画 29 点、素描 3 点、版画 18 点、彫刻 18 点、工芸 181 点、資料・その他 14 点）
国立国際美術館		50 点（絵画 16 点、水彩 4 点、素描 5 点、版画 1 点、彫刻 3 点、写真 2 点、工芸 1 点、デザイン 16 点、資料・その他 2 点）

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

前年度に新たに収蔵した椿貞雄《腕鎮を持てる自画像》（1917 年）は、過去にキャンバスを巻いて保存した際の折れ跡があり鑑賞に支障があったが、これを修復し額装も改めて、画家の代表作にふさわしい体裁で観覧に供することが可能となった。また岸田劉生《田村直臣七十歳記念之像》（1927 年）の、黄変したニスの除去の様子を修復家の土師広氏の協力のもと動画撮影して配信し、1,300 人以上の視聴を得て美術館の重要な活動のひとつである作品の保存修復について一般の理解を深めることができた。

（国立工芸館）

主にデザイン作品について重点的に修復を進めることができた。1953 年に開催した「世界のポスター展」を機に収蔵したポスターの修復を継続的に行っており、そのうち４点について、裏打ちの変形修正を施すとともに、裏打ち除去、亀裂箇所の接着・補彩を行い、鑑賞に堪えうる自然な状態にした。修復が完了した作品の一部は、MOMAT コレクション（2021 年 10 月 5 日－2022 年 2 月 13 日）のテーマ展示「純粋美術と宣伝美術」に早速活用し、テーマ展示で中心となった戦後間もない時期の日本のポスターの動向を紹介する上で重要な意義があった。

イ　京都国立近代美術館

上野リチの画巻 2 本とテキスタイル類 3 点、の修理・修復を行い、企画展（三菱一号館美術館へ巡回）で展示した。アーシル・ゴーキー作品のマット装を行ない、所蔵作品展で展示した。また、工芸作品の所蔵品図録作成のため、全作品の調査をしたところ、いくつかメンテナンスが必要な作品があり、そのうちの加藤土師萌とグイド・ガンボーネの陶芸作品、ラース・B　ヘルステンとマーヴィン・リポフスキーのガラス作品に、適切な処置を施し、展示や貸出に問題のない状態にした。

ウ　国立西洋美術館

2011 年に寄託された後、2019 年に館所蔵となった２点の作品ルドヴィーゴ・カラッチ《ダリウスの家族》（1591-1592 年頃）とダンテ＝ガブリエル・ロセッティ《夜明けの目覚め》（1877-78 年）は、額縁が展示活用に耐えられる状態でなく、寄託作品を保存修復することができないため、長らく展示できない状態であったが、額縁改修と前面装飾の保存修復作業を実施し、展示活用できる状態となった。

また、館の最重要作品の一つであるクロード・モネ《睡蓮》（1916 年）は、常に常設展示に出ているが、作品も額も保存修復が必要な状態である。令和３年度は保存修復室の空調工事が行われる予定であったため、保存修復室内で本格的な保存修復作業が行えなかったため、展示室内で作品の画布裏に揺れ止め加工を施した。作品が安定したことにより、絵画層の更なる剥落を予防することが期待できる。

エ　国立国際美術館

鶴岡政男《ひと(1)》（1960 年）等 10 点について、画面のクリーニングと額装の調整を行った。本作は表面にカビが付着した跡がみられ、本来の色調を損なっていたが、クリーニングとワニスの塗布によって改善された。

絵具層の剥落や額装に用いられた接着テープの劣化、額装のずれが生じていた 0 JUN《オチルコ》（2003 年）等６点について、本紙修復及び額装調整を行った。修復に際して作家に聞き取り調査を行い、作品の制作過程や使用材料についての情報収集と、修復方針についての意見交換をふまえて修復計画を立てることができ、作家が存命の現代美術作品の修復において貴重な実践例となった。

（４）所蔵作品の貸与

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品の貸与に係る取組状況。（所蔵作品の貸与件数）

館　　名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	本館	56	275	194	402
	国立工芸館	13	154	26	40
京都国立近代美術館		50	548	73	169
国立西洋美術館		6	379	67	73
国立国際美術館		13	137	40	119
計		**138**	**1,493**	**400**	**803**

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

ザヘンタ国立美術館（ポーランド・ワルシャワ）で開催された展覧会「集団と個の狭間で：1950年代から60年代の日本前衛美術」（国際交流基金共催）に出品協力し、河原温《浴室》など58点の作品を貸与した。またレンバッハハウス美術館（ドイツ・ミュンヘン）で開催された展覧会「Group Dynamics - Collectives of the Modernist Period（グループ・ダイナミクス―近代化時代のさまざまな集まりについて）」に村山知義《コンストルクチオン》など5点を貸与するとともに大谷省吾（美術課長）がカタログテキストを寄稿した。いずれも学術的に意義深い展覧会に協力することができた。国内でも菱田春草展（飯田市立美術博物館）に重要文化財《賢首菩薩》など6点、上村松園展（京都市京セラ美術館）に重要文化財《母子》など4点を貸与したのをはじめ、各作家を回顧する上で欠かせない作品を貸与し、その顕彰に寄与した。

（国立工芸館）

金沢への移転に伴い、所蔵作品の保管場所にも大幅な変更が生じており、作品の輸送及び整理作業を滞りなく進めるため、原則として作品貸与の新規受付を停止しているが、作家の回顧展など、国立工芸館の所蔵品がなければ展覧会が成り立たないという重要な作品については、作品貸与を行い、展覧会事業へ協力を行っている。アシュモレアン博物館（イギリス・オックスフォード）で開催された展覧会「Tokyo: Art and Photography」に杉浦非水《銀座三越　四月十日開店》（1930年）ほか計4点を貸与した。本展は東京でのオリンピック開催にあわせて、江戸から東京へ移り変わる日本の都市の姿を紹介しようと企画された学術的意義の高い内容である。変容し続ける東京に焦点を当てたテーマ展が海外で開催されることは稀であり、関東大震災後の都市の復興を示す非水の代表作4点を出品した意義は大きい。

また国内でも、島根県立石見美術館をはじめ国内4会場を2022年まで巡回する「杉浦非水時代をひらくデザイン」展に特別協力を行い。国立工芸館のデザイン作品の重要な柱である非水の作品・資料類73点を貸与し、その顕彰に寄与した。小松市立本陣記念美術館で開催された日本遺産サミット記念特別展「未来への遺産　九谷焼が京焼に接すると…」に対し、九谷焼と京焼の接点を比較紹介する内容に不可欠な八木一夫など走泥社の作品6点を貸与した。

イ　京都国立近代美術館

レンバッハハウス美術館（ドイツ・ミュンヘン）で開催された展覧会「Group Dynamics - Collectives of the Modernist Period（グループ・ダイナミクス―近代化時代のさまざまな集まりについて）」展に、小野竹喬《郷土風景》（1917年）を含む日本画15点と油彩画・版画各1点の計17点を貸与するとともに、池田祐子（学芸課長）がカタログテキストを寄稿した。

また、国内では、過去最大級の回顧展「GENKYO 横尾忠則」（愛知県美術館、東京都現代美術館、大分県立美術館）に油彩画《アダージョ 1958》（2000年）や代表的なポスターを含む計33点を、須田国太郎のスペイン修業時代に焦点を当てた展覧会「須田国太郎 in Spain」（三之瀬御本陣文化館）に、《ミゲール寺院》（1922年）など本主題に必要不可欠な作品計11点を、「あやしい絵」展（東京国立近代美術館、大阪歴史博物館）には当該展を象徴する甲斐庄楠音《横櫛》

（1916 年頃）を含む計 21 点を、特別協力として「フォトジャーナリスト　W. ユージン・スミスが見たもの―写真は真実を語る」展（富士フイルムフォトサロン東京）にはスミスの代表作《楽園への歩み》を含む計 64 点を、「めぐるアールヌーヴォー展 モードのなかの日本工芸とデザイン」展（国立工芸館）に浅井忠《染付魚絵変皿》（1907 年頃）を含む計 21 点を、京都国立近代美術館との共催展である「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展（三菱一号館美術館）には総展示数の半数以上を占める計 198 件を貸与し、いずれも各展覧会に欠くべからざる作品として、展覧会内容の充実に寄与した。

ウ　国立西洋美術館

フォルクヴァング美術館（ドイツ・エッセン）の Renoir, Monet, Gauguin. Bilder einer Fliessenden Welt.Die Sammlungen von Kojiro Matsukata und Karl Ernst Osthaus 展に絵画彫刻 38 点を貸し出した。これほど大規模な作品の海外貸出は国立西洋美術館にとって初の試みであったが、海外美術館との共同研究による展覧会企画の一環として意義は大きい。

また、国内でも地方巡回展として「山形で考える西洋美術｜高岡で考える西洋美術―〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」（山形美術館、高岡市美術館）に 133 点を貸し出したが、会場館の所蔵品も組み込んで構成する新しい巡回展の方式を示すものとなった。

エ　国立国際美術館

愛知県美術館、東京都現代美術館、大分県立美術館で開催された「GENKYO 横尾忠則　原郷から幻境へ、そして現況は？」へ横尾忠則《人生にはゴールが無い》（2005 年）等、絵画、ポスター計 56 点を貸与した。代表的な 1960 年代のポスターをまとめて出品しただけでなく、本展覧会で特に焦点があてられた絵画作品の重要作を貸出し、横尾忠則の大回顧展の開催に寄与した。

また、ザヘンタ国立美術館（ポーランド・ワルシャワ）で開催された「集団と個の狭間で－1950 年代から 60 年代の日本前衛美術」展へ池田龍雄《企業》（1955 年）等計 6 点を貸与した。コロナ禍の中、戦後日本の前衛美術を世界へ向けて紹介する展覧会へ貸出した意義は大きい。

3　我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

（1）国内外の美術館等との連携・協力等

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・国立美術館巡回展の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を８割程度とする。 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を８割程度とする。
関連指標	・国立美術館巡回展の事業数及び会場数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の実施回数 ・国立美術館巡回展の入館者数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の入館者数 ・国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等に係る取組状況。 （所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催回数、国内外の研究者の招へい等に基づくセミナー・シンポジウムの開催回数。）

※指標及び関連指標１～４点目については別表５、関連指標５点目については別表 11 及び 12 を参照のこと。

①　国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等

・シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

館　　名		国内外の研究者の招へい等に基づくセミナー・シンポジウムの開催回数
東京国立近代美術館	本館	1
	国立工芸館	0
京都国立近代美術館		2
国立映画アーカイブ		1
国立西洋美術館		0
国立国際美術館		7
国立新美術館		8
計		**19**

※詳細については別表 12 を参照。所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催については別表 11 を参照。

特記事項

・新型コロナウイルス感染症の影響により、シンポジウムの一部をオンラインで開催した。

②　我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア　京都国立近代美術館

令和元年度に開催した企画展「ドレス・コード？―着る人たちのゲーム」を連邦美術館（ドイツ・ボン）へ巡回した。ドイツへの巡回にあたり、出品作品を一部変更、新たにドイツ人写真家等の作品を追加し、全 120 点で構成した。展示デザインには日本展に引き続き建築家の元木大輔氏を起用し、展覧会のコンセプトを十全に伝えることができた。新型コロナウイルス

感染症の影響を受け、二度の延期を余儀なくされたが、国内外の関係者が粘り強く準備に取り組み、無事に実現できた。

イ　国立映画アーカイブ

・シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館（共にフランス・パリ）において両機関との共催により「清水宏監督特集」を実施した。現存する清水宏監督作品を海外で初めて網羅的に紹介した大規模回顧展であり、51 作品(うち国立映画アーカイブ所蔵 32 作品)を上映した。本上映会は、令和２年度に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、延期となったものである。コロナ禍で開催時間や定員に制限があるなかで、パリ日本文化会館のキュレーターによる清水宏についての講演の開催や、無声の『港の日本娘』（1933 年）での尺八も交えた生演奏など特色ある上映会となり、好評を博すことができた。

・ジョリー劇場（イタリア・ボローニャ）においてフォンダツィオーネ・チネティカ・ディ・ボローニャとの共催により第 35 回チネマ・リトロバート映画祭「映像の迷宮：小宮登美次郎コレクション」を実施した。本映画祭は、令和２年度に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和３年度に延期となったものである。コロナ禍であるが、予定通り国立映画アーカイブ所蔵の小宮コレクションから 54 作品を紹介する大規模特集を実現できた。

③　全国の美術館等との人的ネットワークの形成等

ア　地方巡回展の開催（再掲）

地方巡回展及び巡回上映等は、別表 5 のとおり実施した。

イ　企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館　　名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	3	3
	国立工芸館	0	1
京都国立近代美術館		3	6
国立映画アーカイブ		12	12
国立西洋美術館		1	1
国立国際美術館		2	2
国立新美術館		4	4
合計		**25**	**29**

ウ　国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

国立西洋美術館において、主に以下の取組を実施した。

・「Virtual Courier Oversight in 2020-2021」（ICOM-CC Paintings Working Group 主催）及びオンラインシンポジウム「現代 ART の保存修復－教育×実践－」（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター主催）を聴講した。

・保存修復室長が、令和 3 年 6 月より全国美術館会議災害対策委員として任命された。11 月 30 日にアーティゾン美術館で開催された委員会に出席し、同日に開催された災害時緊急連絡網本部館・副本部館会議にも出席し、災害時情報収集について口頭発表を行った。

・全国美術館会議の災害レスキュー事業として、平成 23 年から保存修復作業を継続してきたが、令和３年度は最終的な作業に従事し、10 月５日に紙作品 667 点、額 29 点を石巻市博物館に返却し、被災文化財の保存修復及び今後の保管活用に貢献した。

・館収蔵品の板絵３点について、年輪年代特定と樹種同定の共同研究に参加している。令和４年２月 25 日に東京国立博物館が所有する X 線 CT スキャンを利用し年輪年代測定を実施す

る際の事前作品固定作業を行った。年輪年代測定は、国立西洋美術館と東北大学及び東京芸術大学などの共同研究で進行中である。
・東京電機大学及び筑波大学との共同研究により、館所蔵作品３点について非破壊・非接触の科学的調査を行い、材料・技法について明らかにした。
・マイクロスコープメーカーによる研究支援（無償）により、館所蔵作品３点についてデジタルマイクロスコープによる調査を行った。

④　国内美術館所蔵作品等情報の集約・発信

１（３）①国内美術館所蔵作品等情報の集約・発信（５ページ）参照。

（２）ナショナルセンターとしての人材育成

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・指導者研修参加者に対する満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を前中期目標期間と同程度の水準を維持するものとする。
関連指標	・指導者研修実施回数 ・今後の美術館活動を担う中核的な人材や映画保存のニーズに対応した人材の育成に係る取組状況（インターンシップ受入人数、キュレーター研修受入人数）

①　美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア　教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発

鑑賞教材「国立美術館アートカード」について、各館から学校へ貸し出しを行うほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介するなど、国立美術館全体として取り組んだ。

イ　美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

（ア）16 年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、オンラインで実施した。修了者数は 87 名で、本研修の記録はウェブサイトで公開している。

オンライン研修の内容は、ウェブサイト上においても、より多くの情報を伝えるとともに、視認性の向上に努めた。

・会期：令和 3 年 11 月 29 日、12 月 5 日（2 日間）※Zoom ミーティングを利用
・修了者数：87 名（小学校教諭 21 名、中学校教諭 18 名、高等学校教諭 9 名、特別支援学校教諭 1 名、指導主事 16 名、学芸員 22 名）
・参加者の満足度：96.6%（目標：98. 8%）

（イ）　東京国立近代美術館

（本館）

・東京都高等学校美術、工芸教育研究会と連携し、オンライン対話鑑賞を取り入れた教員向けの研修「令和３年度第２回研究協議会　東京国立近代美術館　生徒・教員研修オンライン」を開催し、高校生 22 名、教員 31 名が参加した。
・企画展ごとに「先生のための鑑賞日」を実施し、計 174 名が観覧した。また、教員を中心とした美術教員に関心のある方向けのオンライン講座を 2 回開催し計 98 名が参加した。

（国立工芸館）

石川県図工美術教育研究所と連携し、言語活動を取り入れた工芸鑑賞教育の推進を検証する「第１回工芸鑑賞研究会」をオンラインで開催し、14 名が参加した。

（ウ）京都国立近代美術館

京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会、京都市中学校美術研究会との共催により、教員向けの鑑賞教育研修「令和３年度　図画工作科・美術科夏季連携講座」を開催し、42 名が参加した。

（エ）国立国際美術館

・和泉市小学校長会と連携し、美術館と学校の連携と協働をねらいとした研修会を開催し、11 名が参加した。
・豊中市教職員組合と連携し、美術館と学校の連携と協働をねらいとした研修会を開催し、17 名が参加した。
・「先生のための鑑賞プログラム 2021」として、３種のプログラム「美術館鑑賞前後の ICT 活用　～学びのある活動に向けて～」（参加者数 14 名）、「「ボイス＋パレルモ」展　～ティーチャーズ・デイ～」（参加者数 11 名）、「「感覚の領域　今、『経験する』ということ」展　～ティーチャーズ・デイ～」（参加者数 26 名）を実施した。

（オ）国立新美術館

・全国美術館会議第 57 回教育普及研究部会会合（オンライン）の開催に協力し、会員館の職員等 45 名が参加した。

②　今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

ア　インターンシップ等の実施

館　　名		キュレーター研修受入人数	インターンシップ受入人数	博物館実習受入人数
東京国立近代美術館	本館	3	9	0
	国立工芸館	0	0	0
京都国立近代美術館		2	2	0
国立映画アーカイブ		0	1	12
国立西洋美術館		0	0	0
国立国際美術館		1	8	0
国立新美術館		2	7	0
合計		**8**	**27**	**12**

イ　映画保存のニーズに対応したワークショップの実施

国立映画アーカイブにおいては、35mm フィルムの上映会主催者や映写技術者を対象にした「NFAJ 映写ワークショップ No.2」や、映画アーカイブに関心を持つ方や関係者、映画人、技術者などを対象とした NFAJ アーカイブセミナーを開催する計画をしていたが、コロナ禍の不安定な情勢により、令和３年度は実施を断念した。

（３）国内外の映画関係団体等との連携等

第５期（令和３年度～令和７年度）中期目標に定める指標	
指標	・映画・映像作品の収集・保管に係る取組状況。（映画フィルム購入本数、映画フィルム寄贈本数、映画フィルム年度末所蔵本数、所蔵フィルム検索システムにおける新規公開件数、所蔵フィルム検索システムにおける累計公開件数）

	・国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況。（「全国映画資料館録」更新版を中期目標期間中に刊行する。） 以上の指標については、第４期中期目標期間と同程度の水準を維持するものとする。

※令和３年度は「全国映画資料館録」更新版を刊行していない。

① 映画フィルムの収集

	購入本数	購入金額（円）	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託本数
令和３年度	178	128,063,327	1,985	85,907	19,322
第４期中期目標期間実績（※）	152	—	970	83,744	—

※購入本数及び寄贈本数は平均値であり、年度末所蔵本数は令和２年度末の数値である。

令和３年度の収集方針
映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも視野に入れながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、令和３年度は特に次の点について留意する。 ア 海外のフィルムアーカイブから収集した映画作品や、歴史的に重要な映画作品等のデジタル復元を実施する。 イ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを重視した収集を行う。

特記事項

〈購入〉

上映企画に伴う映画フィルム等の購入に関しては、近年逝去された映画人の代表的作品を追悼上映する企画「逝ける映画人を偲んで 2019-2020」に関連して、『日本殉情伝 おかしなふたり ものくるほしきひとびとの群』等 26 作品、28 本のフィルムと、『共喰い』(2013 年、青山真治監督)等 5 作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入した。また、1974 年の回顧上映以来の 47 年ぶりの開催となった「没後 40 年 映画監督 五所平之助」に関連して、1974 年当時収集した４本のカラー映画『白い牙』(1960 年)『猟銃』(1961 年)『雲がちぎれる時』(1961 年)『100 万人の娘たち』(1963 年)（いずれも褪色の進行した 16mm フィルム）に代わり、新たに 35mm の上映用プリントを購入した。1990 年代の日本映画を回顧する企画「1990 年代日本映画――躍動する個の時代」では、『M/OTHER』等 23 作品のフィルムと、『閉所嗜好症』（和田淳子監督、1993 年）等３作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入することで、1990 年代を代表するヒット作や新しい才能による重要作などに関して、コレクションの欠落を補うことができた。

〈受贈〉

映画フィルムの寄贈受け入れ本数は 1,985 本、117 件であった。小栗康平監督のデビュー作『泥の河』(1981 年)や、鈴木清順監督の『カポネ大いに泣く』(1985 年)など、1980 年代以降の独立系プロダクション作品の原版寄贈を受けたことが大きな特徴である。また、世界４大アニメーション映画祭でグランプリを受賞した唯一のアニメーション映画作家・山村浩二の高校生時

代の習作をはじめ、主要なフィルム作品全ての原版類等を受贈し、重要な現代作家のコレクションを築くことができた。さらに茨城県土浦市に所在する曹洞宗寶珠山神龍寺より、『關東大震大火實況』(1923 年)、『利根川情話 枯れすゝき』（1922 年頃）、『実写 霞ヶ浦航空隊』(1924 年)等の可燃性フィルムを受贈した。特に『關東大震大火實況』は、令和３年度に開設した国立映画アーカイブの配信サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」で公開した動画の主素材として使用される等、意義のある受贈であった。また、初代中村鴈治郎（1860 年-1935 年）に関連するプライベートフィルム 51 本の受贈により、戦前の大阪歌舞伎を今に伝える重要なコレクションを形成することができた。

② 映画フィルム及び映画関連資料の保管・修復・復元

修理・修復本数
61 本（映画フィルムデジタル復元 2 本、ノイズリダクション等 6 本、不燃化作業 18 本、映画フィルム洗浄 35 本）

特記事項

ユーゴスロヴェンスカ・キノテカ（セルビア）からの情報提供に基づき、令和２年度に収集した無声映画『鬼あざみ』［部分］(1927 年、衣笠貞之助監督)のスキャンデータをもとに、デジタル復元版を作成した。また、国際交流基金と松竹株式会社の共同事業による小津安二郎監督作品『非常線の女』（1933 年）のデジタル復元に際して、復元元素材の提供や技術的監修を行った。1972 年に松竹株式会社から購入した画質の良好な 35 ㎜プリントが活用される等、国立映画アーカイブの映画保存活動の意義が認められた。さらに、今年度の映画フィルム洗浄作業を通じて、戦前日本における前衛映画の代表的作品である『狂つた一頁』(1926 年、衣笠貞之助監督)の可燃性プリントに染色が施されていることが明らかになり、これまで白黒版しか確認されてこなかった本作について、染色を施した上映用プリントを作成することができた。

映画関連資料については、デジタル化作業を可能にする目的の修復も含めて、ポスター、雑誌、写真アルバムなど専門家による本格的な修復に着手するとともに、アーカイブ用の資料保存ケースを購入して保存を図っている。また、公開・貸出頻度が高いと推測される日本映画ポスターなどへの和紙を用いた簡易修復、脆弱なシナリオ等冊子に対する中性紙保存ケースの作成、接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなどの措置を講じている。

③ 映画フィルム及び映画関連資料の貸与等

・映画フィルム

貸出		特別映写観覧		複製利用	
件数	本数	件数	本数	件数	本数
61	155	48	127	44	61

・映画関連資料

貸出		特別観覧	
件数	点数	件数	点数
5	138	47	593

特記事項

コロナ禍の影響は残るものの、前年度に比べ、国内外への映画フィルムの貸与、特別映写観覧、複製利用の件数は全て増加した。なかでも海外へのフィルム貸与が 10 件以上増えた。貸出先について、海外はヨーロッパ、東アジア、オーストラリア、国内は新文芸坐やラピュタ阿

佐ヶ谷等の都内名画座、ユーロスペースや横浜シネマリン等のミニシアター、川崎市アートセンターや神戸映画資料館等の映画関連施設からの利用が主であった。英国映画協会(BFI)では「日本 2021 日本映画の 100 年」と題した企画上映があり、12 本のフィルムを提供した。

特別映写観覧は大学等による研究試写、番組制作のための制作会社による利用のほか、書籍や雑誌の特集記事のための参考試写が４件あった（国書刊行会、キネマ旬報等）。

複製利用は、権利者によるデジタル原版作成（『火星のカノン』ほか）、NHK を始めとする番組制作のためのフッテージ利用に加え、「杉浦非水」展の全国巡回、千葉市美術館の「平木コレクションによる 前川千帆展」、国立台湾美術館の「アジア美術ビエンナーレ」、ポーランドのザヘンタ国立美術館での「日本アヴァンギャルド展」等、企画展への映像提供が目立った。

映画資料の貸出については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出が案件の数として目立っているが、調布市武者小路実篤記念館への貸与も特筆される。資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や研究者による熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じている。

④ 所蔵フィルム検索システムにおける公開実績

項目	令和３年度新規公開件数	累計公開件数
映画フィルム（テキストデータ）	229	7,734

⑤ 国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況

・研究員が、文化庁の「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（撮影所等における映画関連の非フィルム資料)」の検討委員として、検討委員会での提言や「全国映画資料アーカイブサミット」で行われるシンポジウムへの参加を通じ、映画関連資料のアーカイビング事業についての協力を行った。

・文化庁が実施する「日本映画情報システム」に対しては、公開データベースへの接続に関する協力を行った。

・国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員として、オンラインによる年次総会に出席した。

・研究員が北九州市松永文庫や田中絹代ぶんか館、調布市中央図書館を訪問するなど、各地の映画資料館・専門図書館・研究機関とノンフィルム資料の保存に関する情報収集や情報交換を行った。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　業務運営の取組

（１）一般管理費及び業務経費の削減状況

（単位：千円）

区分	前中期目標期間 最終年度	当中期目標期間	増減率
	令和２年度	令和３年度	
一般管理費物件費及び業務経費物件費	2,410,288	2,305,033	△4.4%

特記事項

当中期目標期間終了年度（令和７年度）において、前中期目標期間の最終年度（令和２年度）と比べて、運営費交付金を充当して行う事業について一般管理費物件費及び業務経費物件費の合計を 5%削減することを目標としている。（ただし、美術作品購入費、美術作品修復費及び土地借料等の特殊要因経費は対象外。）

令和 4 年度への運営費交付金債務の繰り越しに伴い支出が減少したこと等から、令和 3 年度の一般管理費物件費及び業務経費物件費の合計は、令和２年度に比し 4.4%減少している。

（２）省エネルギー

● 使用量の削減割合（対令和２年度比）

館　　名		使用量		
		電気	ガス	合計
東京国立近代美術館	本館	100.3%	100.0%	100.0%
	分室	101.6%	－	101.6%
	国立工芸館	99.5%	118.2%	101.4%
京都国立近代美術館		112.5%	99.2%	108.6%
国立映画アーカイブ	京橋本館	79.7%	－	79.7%
	相模原分館	101.5%	－	101.5%
国立西洋美術館		79.6%	37.7%	63.7%
国立国際美術館		103.6%	－	103.6%
国立新美術館		103.7%	107.5%	105.0%
計		97.9%	85.7%	94.6%

※国立工芸館は、令和２年 10 月に石川県金沢市に開館している。

※東京国立近代美術館分室･国立映画アーカイブ京橋本館・相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量は、電気は一般電気事業者からの昼間買電に 9.97GJ/千 kWh、夜間買電に 9.28GJ/千 kWh、特定規模電気事業者からの買電に 9.76GJ/千 kWh を乗じて得た熱量及び都市ガスに 45GJ/千㎥を乗じて得た熱量の合計に 0.0258kl/GJ を乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値（原単位）を基礎とする（エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく）。

特記事項（増減の理由等）

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化（夏季 28℃、冬季 19℃）、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類の停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者のもとで、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS（Building and Energy Management

System）により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

具体的内容は以下のとおり。

(1)　設備・機器等の使用抑制

①　空調に係る節電

・部分的な運用、時間的な運用など柔軟に対応
・設定温度夏季 28℃、冬季 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
・節電にも役立つ服装の励行
・ブラインドを調節し、夏季は直射日光を遮光、冬季は暖気を確保
・空調機のフィルター清掃

②　照明に係る節電

・執務室の照明は、最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
・廊下、ロビー、階段等は、安全確保を優先し極力消灯
・昼休みの消灯を徹底
・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③　エレベータ、エスカレータ

・必要最小限度の運転、階段利用の促進

④　衛生設備に係る節電

・給湯室、洗面台、電気温水器等の利用時間、設定温度の変更
・自動販売機の消灯、設定温度の変更
・暖房便座、温水洗浄の停止
・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤　OA 機器等

・一定期間使用しない場合の電源の切断
・節電モードでの使用を徹底
・プリンタ、コピー機等の使用制限

⑥　その他

・ノー残業デーの推進
・冷蔵庫、電気ポット等、家電機器の使用制限
・冬季のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
・各テナントへの節電の協力要請
・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2)　夏季休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ、次の取組を推進

・夏季休暇の完全取得、夏季における年次休暇の計画的長期取得

(3)　その他

・超過勤務の一層の縮減
・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

国立工芸館は、令和 2 年 10 月に石川県金沢市に開館したため、通年開館となった令和 3 年度は吸収式冷温水発生機の運転によりガスの使用量が増加している。

国立映画アーカイブ京橋本館では、一部の収蔵庫の空調運転を停止していたことから、電気の使用量が減少している。

国立西洋美術館は、令和 3 年度年間を通じて工事により休館したこと、吸収式冷温水発生機の更新工事を行ったことにより電気及びガスの使用量が減少している。

なお、基準年（令和 2 年度）において、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により臨時休館したこと、自宅待機又は在宅勤務の推進が図られたこと等から電気及びガスの使用量が低下したことにより、対令和 2 年度比では使用量は増加傾向にある。また、京都国立近代美術館で

は展示室の空調機を相互運転としていたが、換気能力確保のため、常時運転としたことから、電気の使用量が増加している。

2　組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、適宜組織体制を見直し、その強化に努めた。

3　契約の点検・見直し

（1）調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、事務・事業の特性を踏まえ、PDCA サイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、令和 3 年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

①　令和３年度の調達実績

ア　令和３年度の調達全体像　（単位：件、千円）

	令和 2 年度		令和 3 年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(26.9%) 71	(35.7%) 3,077,549	(33.2%) 78	(53.0%) 3,802,548	(9.9%) 7	(23.4%) 724,999
企画競争・公募	(11.7%) 31	(3.4%) 293,920	(17.4%) 41	(10.4%) 747,634	(32.3%) 10	(158.6%) 453,714
競争性のある契約（小計）	(38.6%) 102	(39.1%) 3,371,469	(50.6%) 119	(63.4%) 4,550,181	(16.7%) 17	(35.0%) 1,178,712
競争性のない随意契約	(61.4%) 162	(60.9%) 5,240,905	(49.4%) 116	(36.6%) 2,621,390	(△28.4%) △46	(△50.0%) △2,619,515
合　計	(100.0%) 264	(100.0%) 8,612,374	(100.0%) 235	(100.0%) 7,171,571	(△11.0%) △29	(△16.7%) 1,440,803

（注 1）　計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

（注 2）　比較増△減の（　）書きは、令和 3 年度の対令和 2 年度伸率である。

イ　令和 3 年度の一者応札・応募状況　（単位：件、千円）

		令和 2 年度		令和 3 年度		比較増△減	
２者以上	件数	66	(64.7%)	68	(57.1%)	2	(3.0%)
	金額	1,357,048	(40.4%)	2,102,537	(46.2%)	745,489	(54.4%)
１者以下	件数	36	(35.3%)	51	(42.9%)	15	(41.7%)
	金額	2,014,421	(59.6%)	2,447,644	(53.8%)	433,223	(21.9%)
合　計		102	(100.0%)	119	(100.0%)	17	(16.7%)
		3,371,469	(100.0%)	4,550,181	(100.0%)	1,178,712	(35.0%)

（注 1）　計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

（注２）　合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った計数である。
（注３）　比較増△減の（　）書きは、令和３年度の対令和２年度伸率である。

複数年度にわたり同一業者による一者応札が継続し、改善が見込めない案件については、慎重に検討のうえ、公募への切替えを実施することとした。

②　契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を２回実施（書面審査１回含む）し、令和３年度調達等合理化計画策定及び令和３年における契約の点検見直しを行ったところ、指摘事項はなかった。

・一者応札の検証実施件数：57 件

③　調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について、本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行い、競争性のない随意契約に関して真にやむを得ないものかの確認を行うことで契約の適正化に努めた。

・事前点検：６件

④　内部監査の実施件数

令和３年度は、本部事務局、東京国立近代美術館、国立工芸館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、債権・債務の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員による内部監査を行った。内部監査の実施により、不適正な会計処理の未然防止と、効率的な取組の情報共有を図り、法人全体の業務効率化に努めた。

・内部監査実施件数：８件

（２）民間委託の推進

①　一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託による業務の効率化を行い、限られた人員及び予算の中で、効率的な施設設備の維持及び来館者サービスの向上を図った。

（ア）会場管理業務、（イ）設備管理業務、（ウ）清掃業務、（エ）保安警備業務、
（オ）機械警備業務、（カ）収入金等集配業務、（キ）レストラン運営業務、
（ク）アートライブラリー運営業務、（ケ）ミュージアムショップ運営業務、
（コ）美術情報システム等運営支援業務、（サ）ホームページサーバ運用管理業務、
（シ）電話交換業務、（ス）展覧会アンケート実施業務、（セ）省エネルギー対策支援業務、
（ソ）展覧会情報収集業務、（タ）映写等請負業務

②　広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

（ア）情報案内業務、（イ）広報物等発送業務、（ウ）交通広告等掲載、
（エ）ホームページ改訂・更新業務、（オ）特設サイト等、
（カ）ラジオ CM 等を利用した総合的な広報宣伝業務、
（キ）講堂音響設備オペレーティング業務、（ク）画像貸出業務

４　共同調達等の取組の推進

周辺機関や法人間で連携し、共同調達を行うことで、契約事務等の効率化を図った。国立西洋美術館は周辺の機関と連携し、電子複写機賃貸借及び保守、コピー用紙及びトイレットペーパー、廃棄物処理、古紙売買契約、トイレ用洗浄・脱臭器具の賃貸借について共同調達を実施した。東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館はトイレットペーパー、電気の共同調達を実

施し、周辺の機関と連携して、コピー用紙の共同調達を実施した。京都国立近代美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙及びトイレットペーパーの共同調達を実施した。国立国際美術館は、周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。

5　給与水準の適正化等

①　人件費決算

決算額　992,509 千円（対令和２年度比較　102.5%）

※人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

②　給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。なお、令和３年度においては、給与の改定を行っていない。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った。

ア　一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

【ラスパイレス指数（令和 3 年度実績）】

対国家公務員・・・（年齢勘案）　97.9

（年齢・地域・学歴勘案）　89.5

イ　研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

【ラスパイレス指数（令和 3 年度実績）】

対国家公務員・・・（年齢勘案）94.8

（年齢・地域・学歴勘案）92.1

③　令和３年度の役職員の報酬・給与等について

別紙「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

6　情報通信技術を活用した業務の効率化

在宅勤務等に対応するため、グループウェア等のクラウド化を進めている。また、法人内各拠点を結び、インターネットとは接続していないネットワークを用いたテレビ会議システムを定期的な会議等に積極的に活用しているほか、法人内ネットワークのみで運用してきたテレビ会議システムに加え、クラウド型オンライン会議サービスを併せて活用し、在宅勤務者や外部関係者とのオンライン会議を積極的に実施し、業務の効率化を図った。さらに在宅勤務時に館内情報システムを利用するためのリモートアクセスサービスの導入により、在宅勤務の促進を図った。

そのほか、メール利用等において外部データセンターが提供するサーバ機能により、安全かつ安定した業務運用を実現した。また、法人内ネットワークの回線多重化により、通信障害を回避するようにネットワークを構成した。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1　自己収入の確保

入場料収入 377 百万円、公募展事業収入 268 百万円、不動産賃貸収入 56 百万円、その他事業収入 111 百万円等により、817 百万円の展示事業等収入を獲得できた。

会費収入及びクラウドファンディングによる寄附金収入の令和３年度における合計額は 70 百万円であり、第５期中期目標期間累積額は 70 百万円である。（前中期目標期間累積実績額 287 百万円）

2　保有資産の有効利用・処分

保有する資産について、美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用に努めた。また、保有する資産のうち不要な資産はない。

3　予算

（単位：百万円）

区　　分	予算額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	8,511	8,511	－
展示事業等収入	1,102	817	△285
施設整備費補助金	100	1,290	1,190
文化芸術振興費補助金	－	55	55
受託収入	－	207	207
寄附金収入	650	715	65
計	**10,364**	**11,595**	**1,231**
支出			
運営事業費	9,614	7,344	2,269
人件費	1,176	1,188	△12
一般管理費	625	1,001	△376
事業部門経費	7,812	5,155	2,657
うち美術振興事業費	3,253	2,497	756
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	3,213	2,162	1,051
うちナショナルセンター事業費	1,347	497	850
施設整備費	100	1,290	△1,190
文化芸術振興費	－	55	△55
受託事業費	－	207	△207
寄附金事業費	650	564	86
計	**10,364**	**9,460**	**904**

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

特記事項

一般管理費については、国立西洋美術館の工事に伴う修繕費等により、予算に比し 376 百万円の支出増となり、美術振興事業費については、国立西洋美術館の休館による支出減及び一般管理費への予算配分の見直し等により、予算に比し 756 百万円の支出減となっている。ナショナルコレクション形成・継承事業費については、作品購入・修復に係る運営費交付金債務の次年度への繰り越し等により 1,051 百万円の支出減となっている。ナショナルセンター事業費については、国立

アートリサーチセンター（仮称）設置に係る運営費交付金債務の次年度への繰り越し等により 850 百万円の支出減になっている。

展示事業等収入は、国立西洋美術館の工事休館等により、予算に比べ 285 百万円の収入減となった。

施設整備費補助金は、前年度から繰り越された工事の完了により、予算額より 1,190 百万円の支出増となった。

寄附金については、715 百万円を獲得した。前年度からの繰越額 2,810 百万円と合わせた 3,525 百万円のうち、令和３年度に 564 百万円を支出した。

4　収支計画

（単位：百万円）

区　　分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	7,517	6,284	1,233
人件費	1,176	1,145	31
一般管理費	604	1,032	△428
事業部門経費	4,941	3,531	1,410
うち美術振興事業費	3,233	2,830	403
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	586	345	241
うちナショナルセンター事業費	1,122	355	767
寄附金事業費	650	466	184
減価償却費	146	111	35
収益の部			
経常収益	7,517	6,376	△1,141
運営費交付金収益	5,619	4,388	△1,231
展示事業等の収入	1,102	817	△285
受託収入	－	207	207
寄附金収益	650	466	△184
資産見返負債戻入	146	111	△35
補助金等収益	－	55	55
施設費収益	－	207	207
引当金見返に係る収益	－	125	125
経常損益		92	
臨時損益		0	
当期純損益		92	
前中期目標期間繰越積立金取崩額		30	
当期総利益		121	

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

5　資金計画

（単位：百万円）

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	10,364	9,747	617
業務活動による支出	10,195	9,236	959
投資活動による支出	169	511	△342
財務活動による支出	―	―	―
資金収入	10,364	10,870	506
業務活動による収入	10,264	10,411	147
運営費交付金による収入	8,512	8,511	―
展示事業等による収入	1,102	890	△212
受託収入	―	207	207
補助金等収入	―	51	51
寄附金収入	650	715	65
消費税等還付額	―	37	37
投資活動による収入	100	459	359
施設整備補助金による収入	100	459	359
資金増減額		1,123	
資金期首残高		4,499	
資金期末残高		5,623	

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

6　貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
Ⅰ　流動資産	6,854	Ⅰ　流動負債	6,696
Ⅱ　固定資産		Ⅱ　固定負債	1,185
1．有形固定資産	203,572		
2．無形固定資産	37	負債合計	7,881
3．その他の固定資産	676		
固定資産合計	204,285	純資産の部	
		Ⅰ　資本金	81,019
		Ⅱ　資本剰余金	121,703
		Ⅲ　利益剰余金	535
		純資産合計	203,258
資産の部　合計	211,139	負債及び純資産の部　合計	211,139

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

7　短期借入金

実績なし。

8　重要な財産の処分等

実績なし。

9　剰余金

（1）当期未処分利益の処分計画

（単位：円）

区分	金額
Ⅰ　当期未処分利益	
当期総利益	121,499,910
Ⅱ　利益処分額	
積立金	40,736,547
独立行政法人通則法第44条第3項により主務大臣の承認を受けようとする額	80,763,363

（2）利益の生じた主な理由

支出の抑制並びに前払費用及び棚卸資産に係る運営費交付金収益による。

（3）目的積立金の使用状況

目的積立金について、令和３年度は以下のとおり使用した。

区　　分	金額（円）	使用内容
前中期目標期間繰越積立金	29,654,639	今期費用化した前期の前払費用及び棚卸資産相当額
計	29,654,639	

（4）積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況

（単位：円）

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	442,118,346	303,024,617	745,142,963	0
前中期目標期間繰越積立金	374,630,465	68,640,885	29,654,639	413,616,711
目的積立金	0	0	0	0

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1　内部統制・ガバナンスの強化

（1）内部統制の充実・強化

①　理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

国立美術館が有する美術館施設や運営費交付金等を有効に活用して健全、適正かつ堅実な管理運営を確保するため、内部統制・ガバナンスの強化に努めている。

理事長のガバナンスを強化するため、理事長及び理事をもって組織し、国立美術館の運営に関する基本方針のほか、中期計画・業務評価・予算・人事等の重要事項を審議し、理事長の意思決定を補佐する理事会を 8 回開催した。

本部には、理事が兼任する事務局長を置き、事務局の企画立案機能の充実を図るとともに、各館横断的な調査研究業務及びその他の学芸に係る専門的な重要事項に係る業務を掌理する学芸調整役を配置し、各館が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行しうる体制を整備している。また、理事長のリーダーシップと法人本部機能の強化のため、令和 4 年度に向けて、経営会議及び副理事の設置や理事長裁量経費の計上について検討を行った。さらに、法人内会議（館長等会議、研究系管理職を中心とした学芸課長会議、事務系管理職を中心とした運営管理会議）を通じて、役員及び各館の館長はもとより、法人各職員に対するミッションの周知及び情報共有を図っている。

そのほか、平成 29 年度に制定された「独立行政法人国立美術館内部統制規則」に基づき、国立美術館に対する社会的信頼の確保及び国立美術館における内部統制の推進のため、国立美術館内部統制委員会を開催した。本委員会では、国立美術館各館の美術作品購入手続きの透明化のため情報共有と意見交換を行い、内部統制機能の強化に努めた。

さらに、外部の有識者で組織し、国立美術館の管理運営に関する重要事項について理事長の諮問に応じて審議し、理事長に対して助言する独立行政法人国立美術館運営委員会を 2 回開催し、令和 2 年度事業実績並びに、令和 3 年度事業の実施状況及び令和 4 年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。なお、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、第 1 回運営委員会を書面により開催した。

②　組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握

法人内の会議において情報共有及びリスクの把握に努めているほか、法人全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対応するため、リスク管理委員会を開催し、法人で取り組むべき重要な 17 の課題（リスク）に対しての情報共有及び意見交換を行った。

また、各館において詳細なマニュアルの策定等を引き続き進めるとともに、すでに策定した法人のリスク管理計画の見直しと改善を進めた。

そのほか、外部有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて、外部の視点からのリスクの把握に努めるとともに、監事や会計監査人との意見交換を通じて法人運営に影響を及ぼすリスクの把握に努めている。

（2）情報セキュリティ

情報資産の安全な運用管理実現のために、令和３年度に改定された「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、法人の情報セキュリティ体制の整備を進めるとともに、情報セキュリティ委員会を開催し、国立美術館の情報セキュリティ対策実施状況の把握・情報セキュリティ対策実施計画の協議及び推進を行うなど、情報セキュリティの実現に取り組んだ。

令和３年度は、「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」への準拠度を把握するため、国立工芸館及び国立新美術館を対象とした情報セキュリティ自己監査を実施した。自己監査の結果については、法人内役職員を対象とした説明会において報告し、現状の情報セキュリティ対策上の課題等を共有した。加えて、内閣サイバーセキュリティセンターによる情報セキュリティ監査（対象：本部、東京国立近代美術館、国立工芸館、国立国際美術館）を受け、監査

結果を法人内役職員に周知するとともに、監査指摘事項に対応するために情報セキュリティ関連規程の整備を進めた。

また、頻発している情報漏えい、情報改ざん等につながる悪意のあるソフトウェアが添付されたメール等への注意喚起等を適時適切に行うとともに、全職員を対象に情報セキュリティ研修として標的型メール攻撃訓練を実施した。

（３）内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

① 監事監査

監事 2 名が館長等会議その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、財務及び業務についての状況を調査している。また、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。

令和 3 年度においては 6 月 24 日に期末監査を実施したほか、各館に対し期中監査を以下のとおり実施した。

令和 3 年 12 月 10 日：国立映画アーカイブ
令和 4 年 1 月 14 日：京都国立近代美術館
令和 4 年 1 月 17 日：国立新美術館、国立西洋美術館
令和 4 年 1 月 21 日：国立国際美術館
令和 4 年 1 月 24 日：国立工芸館
令和 4 年 1 月 28 日：東京国立近代美術館

なお、監査結果報告については速やかに法人内に周知し、運営改善に生かすとともに、報告書において意見が付された場合には、速やかに対応し、その状況を随時監事に報告している。

このほか、「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」第 3 部会（書面開催）へ監事 2 名が参加している。

② 内部監査

本部事務局、東京国立近代美術館、国立工芸館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、債権・債務の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

令和 3 年 8 月 27 日：本部事務局、東京国立近代美術館
令和 3 年 8 月 24 日：国立工芸館
令和 3 年 8 月 18 日：京都国立近代美術館
令和 3 年 7 月 30 日：国立映画アーカイブ
令和 3 年 8 月 3 日：国立西洋美術館
令和 3 年 8 月 17 日：国立国際美術館
令和 3 年 8 月 6 日：国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに理事長、監事、理事及び各館長へ周知している。また、監査結果報告書において意見が付された場合には、改善措置を講じている。

③ 外部評価

外部有識者で構成し、国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う独立行政法人国立美術館外部評価委員会を 2 回開催し、令和 2 年度事業実績について説明聴取の上、審議し外部評価報告書を取りまとめている。外部評価報告書については法人ホームページにて公表している。なお、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、外部評価委員会は全て書面により開催した。

２　施設・設備に関する計画

国立西洋美術館総合改修その他工事を令和３年度に竣工した。また、平成 19 年度から継続している国立新美術館の土地購入を、予算措置に応じて行った。

３　人事に関する計画

（１）職員採用等の状況

令和３年度の常勤職員数は 117 名である。（令和３年度新規採用 11 名）

（職種別人員の増減状況（過去５年分））

（単位：人）

職種	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
定年制研究系職員	54	56	57	56	54
定年制事務系職員	50	53	57	57	57
定年制技能・労務系職員	1	1	1	1	1
指定職相当職員	4	5	4	5	5

また、国立美術館では、継続的な業務の見直しや人員の再配置、平成 23 年度より制度化した任期付き研究員制度等の活用を行っている。

さらに、平成 26 年度に整備した常勤の研究職員及び事務職員に準じた特定有期雇用職員制度（専門的事項の調査研究を行う研究職及び専門的な知識と経験等を有する専門職を外部資金等により採用）を活用し、本部及び各館に必要な人員の配置に努めた。（任期付研究員及び特定有期雇用職員の新規採用 16 名）

人事・給与制度については、公務員の給与改定に関する取扱いについて（平成 18 年 10 月 17 日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

（２）職員の研修等

①　新規採用者・転任者職員研修

主に新規採用者（非常勤職員を含む）・外部機関からの転入者を対象として、新任職員研修を実施した。（令和３年 12 月１日～12 月 28 日実施　研修参加者 41 名）

②　職員研修の実施（括弧内は参加人数）

・「令和３年度ハラスメント研修」（292 人）

このほか、産業医による個別面談により、職員のメンタルヘルスケアを実施した。

③　外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

ア　東京国立近代美術館

（本館）

・財務会計センター主催「第 59 回政府関係法人会計事務職員研修」（１人）
・国立公文書館主催「令和３年度公文書管理研修Ⅰ」（2 人）
・国立公文書館主催「令和３年度公文書管理研修Ⅱ」（1 人）

（国立工芸館）

・文化庁著作権課主催「令和３年度図書館等職員著作権実務講習会」（1 人）

イ　京都国立近代美術館

・人事院主催「第 44 回近畿地区課長研修」（1 人）
・国立公文書館主催「令和３年度公文書管理研修Ⅱ」（1 人）
・文化庁著作権課主催「令和３年度図書館等職員著作権実務講習会」（2 人）

・経済調査会主催「印刷費積算講習会（入門編）」（1 人）
・経済調査会主催「印刷費積算講習会（スタンダード編）」（1 人）
・京都市主催「手話及び聴覚障害の理解促進に向けた業種別合同研修会」（3 人）
・京都ユニバーサル観光講習会事務局主催「京都ユニバーサル観光講習会」（1 人）

ウ　国立映画アーカイブ
・文部科学省主催「公共工事の入札及び契約に関する講習会」（2 人）

エ　国立西洋美術館
・文化庁主催「令和3年度博物館長研修」（1人）
・文化庁主催「令和3年度図書館等職員著作権実務講習会」（6人）
・独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター主催「令和3年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）」（2人）
・公益財団法人日本博物館協会主催「第69回全国博物館大会」（2人）
・一般社団法人全国美術館会議主催「第36回学芸員研修会」（1人）
・株式会社日進サイエンティア主催「U-PDS 初任者研修2021」（2人）

オ　国立国際美術館
・人事院主催「第44回近畿地区課長研修」（1人）
・国立公文書館主催「令和3年度公文書管理研修Ⅱ」（3人）
・近畿管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」（2人）
・文化庁著作権課主催「令和3年度図書館等職員著作権実務講習会」（2人）
・大阪労働局主催「公共団体業務委託・請負適正化／改正労働者派遣法セミナー」（2人）
・デジタル庁主催「情報システム新任者【レベルB】」（1人）

カ　国立新美術館
・国立公文書館主催「令和３年度　アーカイブズ研修Ⅰ」（2人）
・国立新美術館学芸課研究職員の東京国立近代美術館における研修（1人）

4　関連公益法人

該当なし。

5　国立アートリサーチセンター（仮称）の設置準備

令和４年度中のセンター開設に向け、センターの正式名称、業務内容、組織体制等に関する方針の検討を行うための設置準備連絡会議を設置するとともに、外部有識者をエグゼクティブ・アドバイザーとして迎え、センターの組織体制及び業務内容について方針を決定した。また、作品活用促進グループ、情報資料グループ、ラーニンググループ、社会連携促進グループ、管理グループの５つのグループからなる設置準備室を設置し、センターの基本理念実現に向けて、各グループの業務内容の具体化を進めた。

別表１　所蔵作品展

館名		開催日数		展示替回数		出品数（点）	入館者数		満足度（※１）	
		実績	目標	実績	目標		実績	目標	実績	目標
東京国立近代美術館	本館	247	272	5	5	1,291	154,951	199,000	84.5%	77.4%
	国立工芸館	82	132	2	2	350	11,112	20,000	91.0%	
京都国立近代美術館		281	299	5	5	1,056	83,060	200,000	72.1%	
国立国際美術館		144	176	3	3	232	38,103	137,000	66.9%	
合計		754	879	15	15	2,929	287,226	556,000	78.6%	

※１　「満足度」とは、満足度調査における「良い」以上の回答率を指し、合計欄に記載の値は平均値である。以下同じ。

【注１】展示替回数の第５期中期目標数値は4.6回（第４期中期目標実績）

【注２】国立西洋美術館は令和３年度改修工事を行っていたため、所蔵作品展を実施していない。

【注３】新型コロナウイルス感染症対策のため、各館において開催日数が当初予定から変更となった。

別表２　企画展

館名	展覧会名	開催日数		入館者数		満足度		企画観点（※１）	共催者
		実績	目標	実績	目標	実績	目標		
東京国立近代美術館（本館）	①あやしい絵展	21 (30)	40 (49)	34,221 (49,061)	41,000 (50,000)	83.8%	85.6%	ニ	毎日新聞社、日本経済新聞社
	②隈研吾展　新しい公共性をつくるためのネコの５原則	90	90	72,507	67,000	78.6%		イ、ロ、ハ	文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
	③柳宗悦没後60年記念展　民藝の100年	91	91	79,753	100,000	84.8%		ロ、ニ	NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社
	④没後50年 鏑木清方展	13	13 (46)	13,591	20,600 (100,000)	－		ニ	毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション
	小計	215	234	200,072	228,600	82.6%			

国立工芸館	①国立工芸館石川移転開館記念展Ⅱ うちにこんなのあったら展　気になるデザイン×工芸コレクション	15 (68)	15 (68)	3,243 (16,344)	2,200 (10,000)	80.5%	85.6%	イ、ホ	－
	②国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわ―四季のしつらい―	32	58	5,559	13,200	97.1%		ロ、ニ	－
	③国立工芸館石川移転開館１周年記念展　≪十二の鷹≫と明治の工芸－万博出品時代から今日まで　変わりゆく姿	58	56	20,303	17,800	93.3%		ロ	－
	小計	105	129	29,105	33,200	89.1%			
京都国立近代美術館	①ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island―あなたの眼はわたしの島―	52	67	21,025	15,500	95.8%	85.6%	イ、ハ	京都新聞
	②モダンクラフトクロニクル―京都国立近代美術館コレクションより―	37	39	9,119	11,000	75.0%		ロ、ホ	京都新聞
	③発見された日本の風景　美しかりし明治への旅	48	48	17,614	15,000	82.0%		ニ	毎日新聞社、NHK京都放送局
	④上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー	49	49	36,122	26,000	76.2%		ロ、ニ	朝日新聞社、関西テレビ放送

	⑤新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション	32	32	19,322	16,500	84.5%		ニ	毎日新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
	⑥サロン！雅と俗ー京の大家と知られざる大坂画壇	8	8 (42)	1,744	3,000 (15,500)	-		ニ	朝日新聞社
	小計	226	243	104,946	87,000	81.2%			
国立国際美術館	①ミケル・バルセロ展	21 (31)	53 (63)	3,632 (6,238)	15,000 (18,000)	90.9%	85.6%	イ	読売新聞社
	②Viva Video! 久保田成子展	76	76	10,041	19,000	79.1%		ホ	読売新聞社、美術館連絡協議会
	③鷹野隆大　毎日写真 1999-2021	76	76	12,059	26,000	63.1%		ホ	朝日新聞社
	④ボイス＋パレルモ	78	78	16,245	22,000	82.8%		イ	-
	⑤感覚の領域 今、「経験する」ということ	45	45 (91)	13,406	18,000 (37,000)	-		イ、ハ	-
	小計	296	328	55,383	100,000	75.0%			
国立新美術館	①佐藤可士和展	21 (70)	36 (85)	56,511 (151,466)	26,000 (61,000)	96.3%	85.6%	ロ、ハ	SAMURAI、TBS グロウディア、BS-TBS、朝日新聞社、TBS ラジオ、TBS
	②ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会	78	82	105,110	64,000	88.6%		ロ、ハ、ニ	島根県立石見美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網、ＢＳ日テレ、

									文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
	③庵野秀明展	70	70	145,131	129,000	97.5%		ハ	朝日新聞社、日本テレビ放送網、日テレイベンツ、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
	④メトロポリタン美術館展　西洋絵画の500年	44	44 (97)	125,059	101,000 (222,000)	－ －		イ	メトロポリタン美術館、日本経済新聞社、テレビ東京、ＢＳテレビ東京、TBS、BS-TBS
	⑤ダミアン・ハースト　桜	26	26 (73)	43,953	26,000 (74,000)	－ －		イ	カルティエ現代美術財団、日本経済新聞社
	小計	239	258	475,764	346,000	94.1%			
合計		1,081	1,192	865,270	794,800	84.4%			

※１　別表２に記載の「企画観点」は以下のとおり。（別表３及び４についても同様。）

（イ）国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

（ロ）展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。

（ハ）メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に

取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

（ニ）過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。

（ホ）その他

【注１】国立西洋美術館は令和３年度改修工事を行っていたため、企画展を実施していない。

【注２】会期が年度をまたぐものは、通期の数値を括弧書きで記載している。

【注３】新型コロナウイルス感染症対策のため、各館において開催日数が当初予定から変更となった。

別表３　映画上映会（国立映画アーカイブ）

上映会名	上映日数	上映回数	入館者数		満足度		企画観点（※１）	共催者
			実績	目標	実績	目標		
①1980 年代日本映画――試行と新生	15 (51)	30 (102)	3,918 (12,313)	7,000 (19,500)	89.8%	91.5%	ニ	
②NFAJ 所蔵外国映画選集 2021	14	28	2,661	4,500	85.7%		ニ	
③EU フィルムデーズ 2021	20	54	3,934	9,500	89.5%		ホ	
④逝ける映画人を偲んで 2019-2020	42	110	8,759	16,000	89.7%		ニ	
⑤第 43 回ぴあフィルムフェスティバル	12	49	3,558	4,000	96.2%		ロ、ニ	一般社団法人 PFF／公益財団法人川喜多記念映画文化財団／公益財団法人ユニジャパン
⑥サイレントシネマ・デイズ 2021	6	12	1,032	1,500	100.0%		ニ	
⑦没後 40 年 映画監督 五所平之助	31	67	7,825	10,000	97.6%		ニ	
⑧NFAJ コレクション 2021 秋	9	18	1,131	1,500	100.0%		ニ	
⑨再映：2020 年度の上映企画から「松竹第一主義」「三船敏郎」「原節子」「1980 年代日本映画」	24	48	4,026	2,500	94.6%		ホ	
⑩香港映画発展史探究	24	55	8,217	5,500	91.5%		イ	
⑪1990 年代日本映画――躍動する個の時代	30	60	8,223	17,000	90.5%		ニ	

⑫NFAJ コレクション 2022 冬	9	18	1,432	1,500	100.0%		ニ	
⑬フランス映画を作った女性監督たち――放浪と抵抗の軌跡	12	24	3,716	3,000	100.0%		ニ	
合計	248	573	58,432	83,500	92.4%			

※１　「企画観点」は別表２の※１参照。

別表４　展覧会（国立映画アーカイブ）

展覧会名	日数	入館者数		満足度		企画観点（※１）	共催者
		実績	目標	実績	目標		
①創刊 75 周年記念 SCREEN を飾ったハリウッド・スターたち	63	2,751	4,500	93.9%	93.8%	ニ	近代映画社
②生誕 120 年　円谷英二展	70	7,037	5,500	94.2%		ハ、ニ	須賀川市
③MONDO 映画ポスターアートの最前線	84	7,838	6,000	98.1%		ロ、ニ	京都国立近代美術館
合計	217	17,626	16,000	95.4%			

※１　「企画観点」は別表２の※１参照。

別表５　地方巡回展・巡回上映等

地方巡回展（企画館：国立西洋美術館）	開催館	開催日数	入館者数	満足度調査	
				実績	目標
①令和３年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる 山形で考える西洋美術 ――〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき	山形美術館	37	15,601	84.0%	80.0%
②令和３年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる 高岡で考える西洋美術 ――〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき	高岡市美術館	42	3,185	88.2%	80.0%
合計		79	18,786	86.1%	80.0%
優秀映画鑑賞推進事業（企画館：国立映画アーカイブ）	会場数	開催日数	入館者数	満足度調査	
				実績	目標
令和３年度優秀映画鑑賞推進事業	92	179	18,999	92.3%	80.0%
巡回上映会・展覧会名（企画館：国立映画アーカイブ）	会場数	開催日数	入館者数	満足度調査結果	
①こども映画館　スクリーンで見る日本アニメーション！	2	4	717	－	
②MoMAK Films 2021	1	9	249	100.0%	
③東京国際フォーラム＋国立映画アーカイブ　月曜シネサロン＆トーク	1	4	615	－	
④香港映画発展史探求	2	27	1,463	－	

⑤第 22 回 中之島映像劇場「映像のアルチザン―松川八洲雄の仕事―」	1	2	266	94.1%
⑥生誕 120 年 円谷英二展	1	31	1,916	-
合計	7	75	5,174	97.2%

【注１】「⑤香港映画発展史探求」は「③MoMAK Films2021」の京都会場(1 会場、２日間、５２人)が含まれるため、合計から重複する数値を除いている。

【注２】会期が年度をまたぐものは、通期の数値を括弧書きで記載している。

別表６　調査研究一覧

ア　東京国立近代美術館			
（本館）			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	隈研吾建築の「居心地」：新しい公共性	企画展「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの５原則」を開催	高知県立美術館、長崎県美術館、隈研吾建築都市設計事務所
2	民藝運動100年の軌跡と歴史的位置づけ	企画展　柳宗悦没後60年記念展「民藝の100年」を開催	公益財団法人日本民藝館
3	鏑木清方に関する調査研究	「没後50年　鏑木清方展」を開催。	京都国立近代美術館、鎌倉市鏑木清方記念美術館
4	ゲルハルト・リヒターと戦後の抽象絵画	「ゲルハルト・リヒター展」を開催	豊田市美術館、ゲルハルト・リヒター財団
5	大竹伸朗作品におけるサブカルチャー	「大竹伸朗展」を開催	愛媛県美術館、富山県美術館
6	「MOMATコレクション」	所蔵作品展「MOMATコレクション」を開催し小冊子を発行	―
7	「MOMATコレクション　特集：美術館の春まつり」	「MOMATコレクション　特集：美術館の春まつり」を開催	―
8	「コレクションによる小企画　デイヴィッド・スミス《サークル IV》を中心に」	コレクションによる小企画「デイヴィッド・スミス《サークル IV》を中心に」を開催し小冊子を発行	―
9	「コレクションによる小企画　ピエール・ボナールと日本近現代美術」	コレクションによる小企画「新収蔵&特別公開｜ピエール・ボナール《プロヴァンス風景》」を開催	―
10	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	作品の調査撮影とデータ比較を実施	西川茂（写真家）
11	アーカイブ構築のための速水御舟アトリエ、資料調査	日本画家、速水御舟のアトリエに残された資料の悉皆調査	―
12	コレクションの画像を用いた来館者用体験機器開発	来館者がコレクションの中から好みの作品を選択すると、関連した「おすすめ作品」が表示される機器を所蔵品ギャラリー内に設置	DNP
13	戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955 （科研費　基盤Ｃ　研究代表者：大谷省吾、平成 30 年度～令和３年度）	作家の日記等自筆資料の調査と分析、研究会の開催、成果報告書の刊行	五十殿利治（筑波大学）、西澤晴美（神奈川県立近代美術館）
14	1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究 （科研費　若手研究　研究代表者：桝田倫広、令和元年～令和4年）	研究紀要『東京国立近代美術館』26 号にて研究成果の一部を発表	―
15	日本画家、速水御舟資料のデータベース化に向けた調査研究 （令和３年度　ポーラ美術振興財団助成金　鶴見香織）	資料の分類調査と翻刻、『東京国立近代美術館研究紀要』26 号および『速水御舟資料	上越市小林古径記念美術館、川越市美術館、千葉県立美術館、関西学院大学、飯田市美術博物館、平塚市美術館、公

		速水御舟書簡集　其一』にて研究成果の一部を発表	益財団法人タカヤ文化財団華鴿大塚美術館、高崎市タワー美術館、さくら市ミュージアム荒井寛方記念館他
（国立工芸館）			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	近・現代工芸と茶の湯のうつわ	国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ「近代工芸と茶の湯のうつわ―四季のしつらい―」を企画構成、開催、図録を発行	ジャパンクラフトサケカンパニー
2	四季・風土と茶室のしつらい	国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ「近代工芸と茶の湯のうつわ―四季のしつらい―」における中田英寿名誉館長セレクションによる茶の湯のうつわと茶室展示	ジャパンクラフトサケカンパニー
3	日本の近・現代陶芸史と伝統工芸	「未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展」を企画構成、開催（巡回先）、図録への執筆	パナソニック汐留美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、佐賀県立九州陶磁文化館、MOA 美術館、愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、兵庫陶芸美術館、日本工芸会
4	国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携	観覧料金の相互割引	石川県立美術館、いしかわ赤レンガミュージアム（石川県立歴史博物館）、いしかわ生活工芸ミュージアム（石川県立伝統産業工芸館）、金沢 21 世紀美術館、金沢市立中村記念美術館、金沢ふるさと異人館
5	国立工芸館の環境整備	展覧会周知看板の設置	石川県、金沢市
6	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	オンラインイベントの開催	―
7	工芸制作における言語活動の推進について	セルフガイドの作成・発行	石川県図工美術教育研究会
8	ポップカルチャーを題材とする伝統的工芸制作について	令和４年度開催予定のポップカルチャーを題材とする展覧会の企画構成、開催	―
9	工芸作品の鑑賞における高精細デジタルデータの作成について	展示コーナー「工芸とであう」における 2D・3D 鑑賞システムのコンテンツの追加	シャープ株式会社、株式会社 DNP アートコミュニケーションズ
10	松田権六資料の活用について	国立工芸館「松田権六の仕事場」におけるコーナー展示を年 4 回実施	―
11	鈴木長吉作《十二の鷹》を中心とした明治の輸出工芸の研究	国立工芸館における展覧会「国立工芸館石川移転開館１周年記念展　≪十二の鷹≫と明治の工芸－万博出品時代から今日まで　変わりゆく姿」を企画構成、開催、図録発行	―
12	アール・ヌーヴォーと日本の工芸・デザインの相互影響について	「めぐるアール・ヌーヴォー展　モードのなかの日本工芸とデザイン」を企画構成、開催、小冊子を発行	―
13	海外の工芸およびデザイン作品とその風土の関係性の研究	令和４年度開催予定の「工芸館と旅する世界展」の企画にて研究成果の一部を発表	―
14	1950－60年代の「宣伝美術」とその周辺に関する研究	MOMAT コレクション（2021 年 10 月 5 日－2022 年 2 月 13 日）テーマ展示「純粋美術と宣伝美術」を企画構成、開催	―

15	日本における1970－2000年代の工芸の展開について	MOMAT コレクション（2021 年 5 月 25 日－9 月 26 日）テーマ展示「現代工芸の座標」を企画構成、開催	―
16	1920-50年代のデザイン／工芸の実践に関する基礎的研究（科研費　基盤C　研究代表者：主任研究員・中尾優衣、令和3年度～令和6年度）	令和 5 年度開催予定の展覧会にて研究成果の一部を発表予定	―
17	版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70年代の日本を中心に（2021年度DNP文化振興財団　グラフィック文化に関する学術研究助成　研究代表者：主任研究員・中尾優衣、令和4年）	令和 5 年度開催予定の展覧会にて研究成果の一部を発表予定	―
18	「綾錦」に関する総合的研究（令和2年度ポーラ美術振興財団調査研究助成　研究代表者：主任研究員・中尾優衣）	調査報告書を令和 4 年度に発行予定	一般財団法人西陣織物館、川島織物文化館
イ　京都国立近代美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	ピピロッティ・リストの映像作品における身体	展覧会「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island　―あなたの眼はわたしの島―」の開催	水戸芸術館現代美術ギャラリー
2	所蔵作品（工芸）に関する研究	展覧会「モダンクラフトクロニクル―京都国立近代美術館コレクションより―」の開催	―
3	明治期の油彩・水彩画家たちと西洋からの来日画家たちに関する研究	展覧会「発見された日本の風景　美しかりし明治への旅」の開催	長野県信濃美術館、愛媛県美術館、府中市美術館
4	上野リチ・リックスに関する総合研究	展覧会「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」の開催	三菱一号館美術館、オーストリア応用芸術博物館、京都市立芸術大学美術資料館
5	陶芸家八木一夫による写真に関する調査・研究	小企画「キュレトリアル・スタディズ 15：八木一夫の写真」の開催	茨城県陶芸美術館、菊池寛実記念智美術館
6	岸田劉生と森村・松方コレクションに関する研究	展覧会「新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」の開催	―
7	京・大坂（大阪）画壇の作品研究と文化ネットワークに関する考察	展覧会「サロン！雅と俗―京の大家と知られざる大坂画壇」の開催	大英博物館、関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）、ロンドン大学 SOAS
8	鏑木清方と明治・大正・昭和の日本画	展覧会「没後 50 年 鏑木清方展」の開催	東京国立近代美術館
9	清水九兵衛（七代清水六兵衛）研究―陶芸と彫刻の相関について	企画展「「清水九兵衛／六兵衛展」の開催	千葉市美術館
10	近現代美術館コレクションの形成とコレクターの役割について	展覧会「ルートヴィヒ美術館展　20 世紀美術の軌跡―市民が創った珠玉のコレクション」の開催	国立新美術館、ルートヴィヒ美術館（ケルン、ドイツ）
11	甲斐庄（荘）楠音にみる日本画と映画（時代・衣裳考証）	展覧会「演じる人：甲斐庄楠音――絵画・演劇・映画・性を越境する個性」（仮称）	東京ステーション・ギャラリー、国際日本文化研究センター、神戸大学、東映太秦映画村
12	京都国立近代美術館と「現代美術の動向展」	企画展「前衛美術の京都：1960s－70s」（仮称）の開催	―
13	走泥社と前衛陶芸の展開	企画展「走泥社展」（仮称）の開催	岡山県立美術館
14	小林正和と1970年代以降のファイバー・アートの展開について	企画展「小林正和とファイバー・アート」（仮称）の開催	岡山県立美術館、ギャラリー・ギャラリー
15	児童生徒を対象とする鑑賞教育	美術館を活用した学習支援活動の実施など	京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会

16	障害の有無に関わらず享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラム	障害の有無に関わらず教授できるユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施など	国立民族学博物館、京都市立芸術大学、京都府立盲学校、京都大学総合博物館、大阪教育大学
17	美術館の教育普及活動	展覧会に関連したワークショップの開催	－
18	郷土資料館のたてられた時代の再検証―建築はどのように集められ・展示されてきたか―（科研費　若手研究　研究代表者：本橋仁、令和元年度～令和２年度※令和３年度まで延長）	当館発行の研究紀要への、投稿論文に反映	－
19	20世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究（科研費　研究代表者：宮川智美、令和３年度～令和７年度）	コレクション展に反映	－
ウ　国立映画アーカイブ			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	1980年代の日本映画	特集上映「1980年代日本映画――試行と新生」を企画、開催	－
2	外国映画	特集上映「NFAJ所蔵外国映選集2021」を企画、開催	－
3	ヨーロッパ諸国の現代映画	特集上映「ＥＵフィルムデーズ2021」を企画、開催	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
4	近年逝去した映画人にかかわる映画	特集上映「逝ける映画人を偲んで2019-2020」を企画、開催	－
5	日本の自主映画	特集上映「第43回ぴあフィルムフェスティバル」を企画、開催	一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン
6	外国映画を中心とする無声映画	特集上映「サイレント･シネマデイズ2021」を企画、開催	－
7	映画監督五所平之助の映画	特集上映「没後40年 映画監督 五所平之助」を企画、開催	－
8	香港映画の歴史	特集上映「香港映画発展史探究」を企画、開催	－
9	1990年代の日本映画	特集上映「1990年代日本映画――躍動する個の時代」を企画、開催	－
10	フランス映画の歴史	特集上映「フランス映画特集」を企画、開催	シネマテーク・フランセーズ
11	「SCREEN」誌と戦後日本の外国映画ジャーナリズム	展覧会「創刊75周年記念 SCREENを飾ったハリウッド・スターたち」を企画、開催	－
12	映画カメラマン・特撮監督円谷英二の業績	展覧会「生誕120年　円谷英二展」を企画、開催	－
13	現代アメリカの映画ポスター芸術	展覧会「MONDO 映画ポスターアートの最前線」を企画、開催	京都国立近代美術館
14	鉄道に関する文化・記録映画	東京国際フォーラム＋国立映画アーカイブ 月曜シネサロン＆トーク	東京国際フォーラム
15	こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	こども映画館、Ｖ４中央ヨーロッパ子ども映画祭、こども映画館『スクリーンで見る日本アニメーション！』	一般社団法人コミュニティシネマセンター
16	社会人を対象にした映画鑑賞プログラム	優秀映画鑑賞推進事業	－

17	映写技術・復元、フィルム映写をテーマにした教育プログラム	フィルム及び文献調査、優秀映画鑑賞推進事業	―
18	磁気テープ原版映画の保存に関する調査	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント［緊急フォーラム］マグネティック・テープ・アラート： 膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること	―
19	映画製作専門家のオーラルヒストリー	オンラインサービス「映画製作専門家養成講座」	―
20	日本の映画検閲による切除対象映画	フィルム及び文献調査	―
21	映画フィルムのデジタル化と配信に係る調査（※１）	Web サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」	国立情報学研究所
22	映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業（※１）	「デジタル資料閲覧システム」の充実等	―
23	国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	英国映画協会（BFI）所蔵の『かぐや姫』（1935 年）の入手及び公開	FIAF 会員、国内外の同種機関、現像所
24	可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写（※１）	『關東大震大火實況』（1923 年/可燃性プリント）などを WEB サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」で公開	FIAF 会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等
25	映画の収集のための原版の所在並びに権利帰属等の情報収集と調査	特集上映「1990 年代日本映画――躍動する個の時代」等企画上映に伴う新規フィルム購入	映画製作会社等諸団体
26	日本における70ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元（科研費 基盤B 研究代表者：冨田美香、平成31年度～令和3年度）	フィルム及び文献調査	―
27	塚田嘉信コレクションを起点にした初期映画史の調査（科研費 基盤C 研究代表者：入江良郎、令和2年度～令和4年度）	映画史資料及び文献調査	―
28	カラー映画フィルムのスペクトル分析に基づく忠実な色再現と褪色補正に関する基盤研究（科研費 基盤C 研究代表者：大傍正規、令和3年度～令和5年度）（※１）	映画のデジタル活用に関する調査	―
エ　国立西洋美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	中世末期から20 世紀初頭の西洋美術	作品研究と展示	―
2	所蔵版画作品	作品研究と展示	―
3	美術館教育	教育普及プログラムの開発	―
4	松方コレクション	作品研究と展示	―
5	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	建築保存と活用	ル・コルビュジエ財団
6	国立西洋美術館所蔵作品の材料・技法についての科学的調査	所蔵作品の材料・技法調査、資料展示	東京電機大学、筑波大学
7	輝度対比を考慮した美術館照明手法の検討	展示環境の改善	東京理科大学
8	ルカス・クラーナハ（父）の板絵作品の樹種特定及び年輪年代学調査、またそれらに立脚した美術史的調査	所蔵作品の材料・技法調査	東北大学学術資源研究公開センター植物園、東京藝術大学
9	3Dデータを用いた彫刻作品の形状比較	所蔵作品の構造・技法調査、教育普及活動への応用	東京藝術大学
10	アクリルケースを用いた展示における反射グレア低減手法の検討	展示環境の改善	東京理科大学
11	美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築―方法の改善・発展と実践（科研費　基盤C　研究代表者：高嶋美穂、令和元年～令和5年）	所蔵作品の保存のための基礎調査	―

12	松方コレクション来歴研究とデジタル・カタログ・レゾネ試作（科研費　基盤B　研究代表者：川口雅子、令和2年～令和5年）	作品及び文献調査	―
オ　国立国際美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品	所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動	―
2	現代美術の動向	所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動	―
3	久保田成子とビデオ・アートについて	企画展「Viva Video!　久保田成子展」を企画構成、開催、図録の発行	新潟県立近代美術館、東京都現代美術館
4	写真家　鷹野隆大について	企画展「鷹野隆大　毎日写真1999-2021」を企画構成、開催、図録の発行	―
5	ヨーゼフ・ボイスとブリンキー・パレルモについて	企画展「ボイス＋パレルモ」を企画構成、開催、図録の発行	豊田市美術館、埼玉県立近代美術館
6	写真家・米田知子について	ワークショップ「見えるものと見えないもののあいだ」を開催	―
7	アレックス・カッツについて	将来展の検討	―
8	具体美術協会について	将来展の検討	大阪中之島美術館
9	アジア圏タイムベースド・メディアについて	オンライン・レクチャー開催準備（開催は次年度へ延期）	ソウル・メディアシティ
10	田中信太郎の遺品資料に基づく作家研究基礎調査	近現代美術に関するドキュメンテーション整理を実施	東京文化財研究所
11	「もの派」について	「現代美術スタディーズ」刊行	―
12	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	コロナ禍のため中止	大阪市教育センター、大阪府教育センター
13	美術館教育	「ちっちゃなこどもびじゅつあー」「こどもびじゅつあー」「びじゅつあーすぺしゃる」「ワークショップ」「みる＋（プラス）」など、各種オンライン、対面交えて実施	―
14	初期ヴィデオ・アートの調査・上映	第21回中之島映像劇場「美術館と映像―ビデオアートの上映・保存―」を開催	―
15	所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	展覧会記録スライドおよび、展覧会関連イベント映像記録（VHS等）のデジタル化	―
16	電気機器や電子機器等を用いた所蔵作品の保存修復と情報管理	田中信太郎《マイナー・アート A・B・C》（1968年）の修復、展示	HIGURE 17-15 cas
カ　国立新美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	日本の現代美術の動向	企画展「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」、および将来の展覧会に向けて準備を進めた。	―
2	海外の現代美術の動向	企画展「ダミアン・ハースト桜」、および将来の展覧会に向けて準備を進めた。	―
3	日本のアニメ、特撮	企画展「庵野秀明展」を企画、開催し、図録を刊行した。	特定非営利法人アニメ特撮アーカイブ機構（ATAC）
4	日本のファッションとデザイン	企画展「ファッション インジャパン 1945-2020―流行と	島根県立石見美術館

		社会」を企画、開催し、図録を刊行した。	
5	佐藤可士和について	企画展「佐藤可士和展」を企画、開催し、図録を刊行した。	―
6	20世紀初頭のフランス美術・建築	企画展「オルセー美術館展」（仮称）の準備を進めていたが、中止となった。	オルセー美術館
7	イヴ・サンローランについて	企画展「イヴ・サンローラン展」（仮称）に向けて準備を進めた。	イヴ・サンローラン美術館
8	19世紀、20世紀のフランス美術	企画展「エルミタージュ美術館展」（仮称）に向けて準備を進めた。	エルミタージュ美術館
9	庵野秀明について	企画展「庵野秀明展」のために作品・資料調査を行った。	―
10	アンリ・マティスについて	企画展「マティス 自由なフォルム」に向けて準備を進めた。	ニース市マティス美術館
11	メトロポリタン美術館の西洋近代美術コレクション形成史	企画展「メトロポリタン美術館展　西洋絵画の500年」を企画、開催し、図録を刊行した。	メトロポリタン美術館
12	ダミアン・ハーストについて	「ダミアン・ハースト　桜」展に向けて準備を進めた。	カルティエ現代美術財団
13	ニューヨーク近代美術館のコレクション形成史	企画展「ニューヨーク近代美術館展」（仮称）の準備を進めていたが、中止となった。	ニューヨーク近代美術館
14	ルートヴィヒ美術館のコレクション形成に果たしたコレクターの役割	企画展「ルートヴィヒ美術館展　20世紀美術の軌跡―市民が創った珠玉のコレクション」に向けて準備を進めた。	ルートヴィヒ美術館、ケルン、京都国立近代美術館
15	李禹煥について	企画展「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」に向けて作品・資料調査を進めた。	兵庫県立美術館
16	1960、70年代の日本の美術動向に関する研究	「李禹煥」展関連企画として、所蔵資料をもとにした小展示の準備を進めた。	―
17	近代以降の美術における光の表象について	企画展「Light展」（仮称）に向けて準備を進めた。	テート
18	古代から近代までの西洋美術における「愛」の表現について	企画展「ルーヴル美術館展」（仮称）に向けて準備を進めた。	ルーヴル美術館
19	美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	企画展ジュニアガイドの制作・配布/建築ツアー、ワークショップ、ウェビナー、学校を対象としたガイダンス等を開催/建築ガイドアプリを配信	―
20	日本の近・現代美術資料	日本の近・現代美術に関する資料を収集し、公開に向けた整理を進めた。	―
21	美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	ISAD(G)の記述標準に基づき、15件の資料群についてフォンドレベルの目録を作成し、HPで公開した。一部の資料群については、詳細目録も公開した。	―
22	展覧会情報の収集・提供システム「アートコモンズ」の構築	展覧会情報収集・提供サービス「アートコモンズ」におい	―

		て、日本国内の美術館、画廊等で開催された展覧会の情報を収集し、データベースとして公開した。	
23	展覧会情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」との連携	「アートコモンズ」に登録された展覧会情報を国立国会図書館「ジャパンサーチ」に提供した	国立国会図書館
24	日本を中心としたアジア諸国の現代美術と美術理論に関する総合研究（科研費　基盤研究C　研究代表者：米田尚輝　令和元年～令和3年）	日本とアジアの現代美術作家による理論的著作と作品との影響関係を考察した。	―
25	写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術――昭和戦前期を中心に（科研費　基盤研究C　研究代表者：谷口英理　令和元年～令和3年）	戦前期の作家資料に含まれる写真資料のデータベース化を進めた	甲南学園長谷川三郎記念ギャラリー

※１　映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究である。

別表７　展覧会図録における執筆

ア　東京国立近代美術館			
（本館）			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「MOMATアートライブラリによる「民藝文献案内」」（１「民藝と民家研究」、４「民藝と観光」、11「衣食住に広がる民藝」）	赤松千佳 （研究補佐員）	柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年
2	「MOMATアートライブラリによる「民藝文献案内」」（５「民藝と産業」）	石川明子 （研究補佐員）	柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年
3	「MOMATアートライブラリによる「民藝文献案内」」（２「民藝／民俗学／民具／郷土玩具」、７「民藝と挿絵と写真家」、１０「民藝と国際交流：戦前から戦後」）	長名大地 （研究員）	柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年
4	「MOMAT アートライブラリによる「民藝文献案内」」（３「古陶磁発掘ブームと東アジアの陶磁史」、８「民藝と社会思想」、９「民藝と帝国日本」）	金子倫子 （研究補佐員）	柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年
5	イントロダクション「民藝の100年」展を編集する―展覧会の見取り図、作品解説、MOMATアートライブラリによる「民藝文献案内」、俯瞰的視点をもつための「民藝の100年展年表」	鈴木勝雄 （企画課長）	柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年
6	「民藝の近代－ミュージアム・出版・生産から流通まで」、イントロダクション「民藝の100年」展を編集する―展覧会の見取り図、章解説、作品解説、MOMATアートライブラリによる「民藝文献案内」、俯瞰的視点をもつための「民藝の100年展年表」	花井久穂 （主任研究員）	柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年
7	「MOMATアートライブラリによる「民藝文献案内」」（6「民藝と展示」、12「民藝とデザイン」、13「戦後の民藝の変容」）	山田歩 （研究補佐員）	柳宗悦没後 60 年記念　民藝の 100 年
8	「鏑木清方の絵をすみずみまで味わうためのブックガイド」	長名大地 （研究員）	没後 50 年 鏑木清方展
9	「鏑木清方　生活を描いた画家」、コラム「生活をえがく」「小さくえがく」、作品解説	鶴見香織 （主任研究員）	没後 50 年　鏑木清方展
（国立工芸館）			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「近代工芸と茶の湯のうつわ―個を映し出した“表現のうつわ”」、テーマ解説	唐澤昌宏 （工芸館長）	国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ　近代工芸と茶の湯のうつわ―四季のしつらい―

2	「時代の転換、工芸の転換」、章解説、作家略歴・作品解説	北村　仁美 （主任研究員）	国立工芸館石川移転開館１周年記念展　≪十二の鷹≫と明治の工芸－万博出品時代から今日まで　変わりゆく姿
3	3章の解説1点とコラム1点	田中真希代 （研究補佐員）	国立工芸館石川移転開館１周年記念展　≪十二の鷹≫と明治の工芸－万博出品時代から今日まで　変わりゆく姿
4	展覧会ノート「未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展」をめぐって、章解説、コラム解説、作品解説、作家略歴	唐澤昌宏 （工芸館長）	未来へつなぐ陶芸　伝統工芸のチカラ展
5	島岡達三《塩釉象嵌縄文大皿》ほか13作品の作品解説、中田一於ほか11名の作家略歴	岩井美恵子 （主任研究員）	未来へつなぐ陶芸　伝統工芸のチカラ展
6	加藤卓夫《三彩鉢　蒼容》ほか4作品の作品解説、金重陶陽ほか3名の作家略歴	小島美里 （研究補佐員）	未来へつなぐ陶芸　伝統工芸のチカラ展
7	田村耕一《白泥椿文壺》ほか3作品の作品解説、藤原啓ほか1名の作家略歴	田中真希代 （研究補佐員）	未来へつなぐ陶芸　伝統工芸のチカラ展
8	吉田美統《釉裏金彩牡丹文飾皿》の作品解説、吉田美統の作家略歴	髙嶋優希 （主査）	未来へつなぐ陶芸　伝統工芸のチカラ展
9	岡部嶺男《練込志野縄文花器》ほか3作品の作品解説、濱田庄司ほか1名の作家略歴	西村綾華 （研究補佐員）	未来へつなぐ陶芸　伝統工芸のチカラ展
10	田島正仁《彩釉器》の作品解説、田島正仁の作家略歴	藤田幸夫 （専門員）	未来へつなぐ陶芸　伝統工芸のチカラ展
イ　京都国立近代美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island 展について」	牧口千夏 （主任研究員）	ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island －あなたの眼はわたしの島－
2	「子守の子供イメージ 外から見るか、内から見るか」、章解説及び作家解説	梶岡秀一 （主任研究員）	発見された日本の風景展
3	「上野リチ・リックス：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」	池田祐子 （学芸課長）	上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー
4	「京坂の文化人たちの接点―江戸時代から明治時代にかけての事例」、章解説、人物略年譜、作品解説、系譜図、相関図	平井啓修 （主任研究員）	サロン！雅と俗―京の大家と知られざる大坂画壇
ウ　国立国際美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「久保田成子の破顔」	島敦彦 （館長）	Viva Video!久保田成子展
2	「久保田成子のサーキュレーション」、作品解説、作家テキスト英文和訳	橋本梓 （主任研究員）	Viva Video!久保田成子展
3	「キュレーションに際して ―鷹野隆大の場合」	中西博之 （上席研究員）	鷹野隆大 毎日写真 1999-2021
4	「感覚の領域に辿り着くまで」	安來正博 （上席研究員）	感覚の領域　今、「経験する」ということ
エ　国立新美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	論文、作品解説（翻訳）	亀田晃輔 （研究補佐員）	メトロポリタン美術館展　西洋絵画の 500 年
2	作品解説（翻訳）	杉本渚 （研究補佐員）	メトロポリタン美術館展　西洋絵画の 500 年
3	論文、作品解説（翻訳）	宮島綾子 （主任研究員）	メトロポリタン美術館展　西洋絵画の 500 年
4	インタヴュー、年譜（翻訳）	小野寺奈津 （特定研究員）	ダミアン・ハースト　桜
5	論文	山田由佳子	ダミアン・ハースト　桜

		（主任研究員）	

別表８　研究紀要における執筆

ア　東京国立近代美術館				
（本館）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	『ニッポン新聞』にみる北脇昇の思考の軌跡（後編）	大谷省吾 （美術課長）	『東京国立近代美術館研究紀要』	R4.3.31
2	田中功起≪ひとつの陶器を五人の陶芸家が作る（沈黙による試み）≫「手話とバリアフリー字幕版」（2013/2021年）の制作について	小川綾子 （研究補佐員）	『東京国立近代美術館研究紀要』26 号	R4.3.31
3	「資料紹介　速水御舟日記（1932年）」	鶴見香織 （主任研究員）	『東京国立近代美術館研究紀要』26 号	R4.3.31
4	「コロナ禍における解説ボランティア―ＭＯＭＡＴガイドスタッフの活動例」	細谷美宇 （特定研究員）	『東京国立近代美術館研究紀要』26 号	R4.3.31
5	「美術館コレクションサーチにおける写真技法表記に関する一考察」	堀田文 （研究補佐員）	『東京国立近代美術館連研究紀要』第 26 号	R4.3.31
6	「フランシス・ベーコン（1909～1992）研究における資料の取り扱いについて	桝田倫広 （主任研究員）	『東京国立近代美術館研究紀要』26 号	R4.3.31
7	ロンドンにおける1990年代から2000年代にかけての具象絵画の展覧会史―「トライアンフ・オブ・ペインティング」展について	桝田倫広 （主任研究員）	『東京国立近代美術館研究紀要』26 号	R4.3.31
イ　京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	巻頭あいさつ	福永治 （館長）	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS　―Vol.10』	R4.3.31
2	「平明な写実のトリック：石井柏亭筆《画室》考」	梶岡秀一 （主任研究員）	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS　―Vol.10』	R4.3.31
3	「須田国太郎　写実と真理の思索」	梶岡秀一 （主任研究員）	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS　―Vol.10』	R4.3.31
4	「キュレトリアル・スタディズ12：泉／Fountain 1917-2017」　を振り返って	牧口千夏 （主任研究員）	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS　―Vol.10』	R4.3.31
5	「展示室で、視覚に依らない鑑賞を考える―「感覚をひらく」事業の新展開」	松山沙樹 （特定研究員）	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS　―Vol.10』	R4.3.31
6	「住宅の近代化と「床の間」　大正ら昭和、起居様式の変化に伴う鑑賞機能の諸相」	本橋仁 （特定研究員）	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS　―Vol.10』	R4.3.31
7	「ブック・デザインを美術館で展示すること　チェコ・ブックデザインの実験場1920s-1930s 開催報告」	本橋仁 （特定研究員）	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS　―Vol.10』	R4.3.31
ウ　国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「非破壊オンサイト分析による国立西洋美術館所蔵2作品の自然科学的調査―カルロ・ドルチ≪悲しみの聖母≫およびヤーコプ・ヨルダーンス（に帰属）≪ソドムを去るロトとその家族≫―」	高嶋美穂 （特定研究員）	国立西洋美術館研究紀要 No.26	R4.3.31

エ　国立新美術館				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「トークイベント「日本のメンズファッション」報告」	小野寺奈津 （特定研究員）	『国立新美術館研究紀要』第７号	R3.12.10
2	「「丸龍文人×山縣良和トークイベント」報告」、「「トークイベント「ライフスタイルの提案　雑誌『POPEYE』とビームス」報告」	杉本渚 （研究補佐員）	『国立新美術館研究紀要』第７号	R3.12.10
3	美術資料室のアーカイブズ事業と所蔵資料の紹介 ： 秋山画廊関係資料、武井武雄「友の会」関係資料	谷口英理 （特定研究員） 坂口英伸 （元アソシエイトフェロー） 大隈朋恵（研究補佐員）	『国立新美術館研究紀要』第７号	R3.12.10
4	「『国立新美術館建築ガイドアプリCONIC』の開発から公開まで」	吉澤菜摘 （主任研究員）	『国立新美術館研究紀要』第７号	R3.12.10

別表９　館ニュースにおける執筆

ア　東京国立近代美術館				
（本館）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「資料紹介＃1難波田龍起関係資料」	石川明子 （研究補佐員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
2	「新しいコレクション　野口彌太郎《巴里祭》」	大谷省吾 （美術課長）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
3	「研究員の本棚＃1｜写真室の仕事／年表で見る写真関係資料 増田玲」	長名大地 （研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
4	「研究員の本棚＃2｜絵画をめぐる、知覚と言葉の本 中林和雄」	長名大地 （研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
5	「カタログトーク#1｜〈座談会〉「民藝の100年」展」	長名大地 （研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
6	「出来事を興す　加藤翼インタビュー」	成相肇 （主任研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
7	「新しいコレクション　舟越桂《森へ行く日》」	成相肇 （主任研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
8	「コロナ禍の教育普及活動（3）―ICTを活用したスクールプログラムの多様化と定着」	浜岡聖 （研究補佐員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
9	「MOMATコレクションこどもセルフガイド」のデジタル化　継続性を意識した鑑賞教材のデザイン―大岡寛典氏に聞く	細谷美宇 （特定研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
10	「自宅からの美術館デビュー―活動報告　おやこでトークONLINE」	細谷美宇 （特定研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
11	「新しいコレクション：畠山直哉《「Untitled (tsunami trees)」より2019年10月6日 岩手県陸前高田市》2019年」	増田玲 （主任研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
12	「新しいコレクション 冨井大裕《board band board #2》」	三輪健仁 （主任研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
（国立工芸館）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「たんけん！こども工芸観：Crafts Museum for Kids & Adults」	今井陽子 （主任研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31

2	「新しいコレクション　荒川豊蔵《志野茶垸 銘 不動》」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『現代の眼』636 号	R4.3.31
3	「新しいコレクション　鈴木治《馬》」	中尾優衣 （主任研究員）	『現代の眼』636 号	R4.3.31

イ　国立映画アーカイブ

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	ハロルド・ブラウンという伝説	岡島尚志 （館長）	『NFAJ ニューズレター』第 12 号	R3.4.1
2	河井真也氏インタビュー（上） 「フジテレビ映画の1980年代」	佐野亨 （聞き手・構成：客員研究員） 大澤浄 （聞き手：主任研究員） 玉田健太 （特定研究員） 森宗厚子 （特定研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 12 号	R3.4.1
3	国立映画アーカイブにおけるコレクション形成の原点――フランソワ・ジェルジェリーの貢献	大傍正規 （主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 12 号	R3.4.1
4	映画保存を応援する映画人たち――アミターブ・バッチャンのFIAF賞受賞	岡島尚志 （館長）	『NFAJ ニューズレター』第 13 号	R3.7.1
5	志満順一氏、桑山和之氏、藤本賢一氏インタビュー 「追悼・本田孜（録音技師） 映画の音だけでなく、空気を感じ取る」	佐野亨 （聞き手・構成：客員研究員） 大澤浄 （聞き手：主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 13 号	R3.7.1
6	蘇るキン・フーの『忠烈図』	岡島尚志 （館長）	『NFAJ ニューズレター』第 14 号	R3.10.1
7	“インディーズ／オルタナティブ”映画ポスターの時代	岡田秀則 （主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 14 号	R3.10.1
8	連載 フィルムアーカイブの諸問題 第111回　マグネティック・テープ・アラート＆デッドライン2025――膨大なビデオテープ原版映画を失う前に	冨田美香 （主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 14 号	R3.10.1
9	「作家」に賭けた時代――1990年代日本映画	大澤浄 （主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 15 号	R4.1.28
10	女性が劇映画監督を“職業”とし始めた1990年代	森宗厚子 （特定研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 15 号	R4.1.28
11	連載 フィルムアーカイブの諸問題 第112回　ビデオテープのデジタルファイル化ガイドライン　―推奨フォーマットを中心に―	冨田美香 （主任研究員） 三浦和己 （主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 15 号	R4.1.28

ウ　国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「リニューアルオープンによせて」	田中正之 （館長）	『Zephyros：国立西洋美術館ニュース』第 84 号	R4.3.31
2	「調和にむかって： ル・コルビュジエ芸術の第二次マシン・エイジ ―大成建設コレクションより」	川瀬佑介 （主任研究員）	『Zephyros：国立西洋美術館ニュース』第 84 号	R4.3.31
3	「国立西洋美術館リニューアルオープン記念　自然と人のダイアローグ　――フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」	陳岡めぐみ （主任研究員）	『Zephyros：国立西洋美術館ニュース』第 84 号	R4.3.31
4	「新収蔵版画コレクション展」	中田明日佳 （主任研究員）	『Zephyros：国立西洋美術館ニュース』第 84 号	R4.3.31

5	「前庭リニューアルについて――ル・コルビュジエの広場空間」	福田京 （専門員）	『Zephyros：国立西洋美術館ニュース』第 84 号	R4.3.31
エ　国立国際美術館				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「あいまいな美術館の映像／資料 ―中之島映像劇場について⑦―」	田中晋平 （客員研究員）	『国立国際美術館ニュース』241 号	R3.6.1
2	「館蔵品紹介：久保田成子《私のお父さん》」	橋本梓 （主任研究員）	『国立国際美術館ニュース』241 号	R3.6.1
3	「分からない、を楽しむ―館長就任にあたって―」	島敦彦 （館長）	『国立国際美術館ニュース』242 号	R3.10.1
4	「館蔵品紹介：ヨーゼフ・ボイス《小さな発電所》」	福元崇志 （主任研究員）	『国立国際美術館ニュース』242 号	R3.10.1
5	「現代美術を取り巻く世界『感覚の領域　今、「経験する」ということ』展に寄せて」	安來正博 （上席研究員）	『国立国際美術館ニュース』243 号	R3.12.1
6	「館蔵品紹介：小清水漸《a tetrahedron―鋳鉄》」	中井康之 （研究員）	『国立国際美術館ニュース』243 号	R3.12.1
7	対談　菅谷富夫（大阪中之島美術館館長）×島敦彦（国立国際美術館　館長）「大阪中之島美術館開館記念　美術館の未来像」	―	『国立国際美術館ニュース』244 号	R4.2.1
8	「アルチザンのまなざし　―中之島映像劇場について⑧―」	田中晋平 （客員研究員）	『国立国際美術館ニュース』244 号	R4.2.1
9	「館蔵品紹介：伊庭靖子《Untitled》」	安來正博 （上席研究員）	『国立国際美術館ニュース』244 号	R4.2.1

別表 10　館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

ア　東京国立近代美術館						
（本館）						
A.学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	「ダリの影響を受けた日本の画家たちの絵を読み解く」	「ショック・オブ・ダリ展」諸橋近代美術館	大谷省吾 （美術課長）	R3.6.12	オンライン	51
2	「第二次世界大戦下におけるピエール・マティス画廊の役割：ヨーロッパとアメリカの美術交流を中心に」	第 27 回鹿島美術財団賞授賞式・研究発表会	長名大地 （研究員）	R3.5.20	鹿島美術財団（オンライン同時配信）	180
3	「ミュージアム・アーカイブズの実践と活用」	P+ARCHIVE レクチャー・シリーズ Vol.2	長名大地 （研究員）	R3.12.10	NPO 法人アート＆ソサイエティ研究センター（オンライン）	20
4	「事例報告:東京国立近代美術館アートライブラリ」	フォーラム「デジタル化及びデジタルアーカイブ構築の現状と未来」	長名大地 （研究員）	R4.2.9	国立国会図書館（オンライン）	270
5	「鏑木清方　幻の《築地明石町》三部作」	中央区主催文化講座	鶴見香織 （主任研究員）	R.3.10.7	日本橋公会堂	60
6	「来春の『没後50年鏑木清方展』ではここを見てほしい」	中央区主催文化講座	鶴見香織 （主任研究員）	R.3.10.21	日本橋公会堂	60
7	「鏑木清方《築地明石町》をめぐるあれこれ	鎌倉市鏑木清方記念美術館主催美術講演会	鶴見香織 （主任研究員）	R3.11.9	鎌倉市鏑木清方記念美術館	20
8	「東山魁夷の水墨画と唐招提寺御影堂障壁画」	長野県立美術館主催「東山魁夷唐招提寺御影堂障壁画展」記念講演会	鶴見香織 （主任研究員）	R3.11.28	長野県立美術館講堂	60

9	「絵の“あやしさ”を読み解く」	「あやしい絵展」関連講演会	中村麗子 （主任研究員）	R3.7.31	大阪歴史博物館講堂	85
10	「砂と創造力」	「鳥取砂丘学」	成相肇 （主任研究員）	R3.5.25	鳥取大学（オンライン）	50
11	「宇佐美圭司の絵画以外」	「宇佐美圭司 よみがえる画家」展関連イベント オンライン・シンポジウム 「よみがえる画家／よみかえる眼」	成相肇 （主任研究員）	R3.5.30	東京大学駒場博物館（オンライン）	300
12	「文化庁アート・プラットフォーム事業〈全国美術館収蔵品サーチ〉」について	アートドキュメンテーション学会	成相肇 （主任研究員）	R3.6.19	（オンライン）	100
13	戦時下美術教育と「構成」のゆくえ	「時代の転換期に、アートは」	成相肇 （主任研究員）	R3.7.17	アートト	20
14	解説	「NHK 高校講座　美術Ⅰ第 10 回　複製」	成相肇 （主任研究員）	R3.9.16	NHK　Eテレ	
15	「みかどをえがく」	オープン講座「宥学会・遊学塾」	成相肇 （主任研究員）	R3.9.17	美学校	10
16	ゲストトーク	多摩美術大学　家村ゼミ展 2021 トークイベント	成相肇 （主任研究員）	R3.10.9	多摩美術大学	10
17	「アートプラットフォーム事業について」	第 2 回文化庁アートプラットフォームシンポジウム	成相肇 （主任研究員）	R3.10.23	国立新美術館（オンライン）	300
18	アーティスト・プレゼンテーション　モデレーター	第 3 回文化庁アートプラットフォームシンポジウム	成相肇 （主任研究員）	R4.1.28	福岡アジア美術館	300
19	「1950年代のハニワブーム―戦争と復興とオリンピック」	「斎藤清とハニワ！」展特別講演会	花井久穂 （主任研究員）	R3.4.25	やないづ町立斎藤清美術館	25
20	「うごく「民藝」ーミュージアム・出版・生産・流通から景観保存まで」	明治美術学会 2021 年度第 3 回例会シンポジウム「民藝と民具」	花井久穂 （主任研究員）	R3.9.4	神奈川県立歴史博物館（オンライン）	123
21	「東京・国立・近代・美術館で見る民藝の100年」	千代田区立日比谷図書文化館主催「展覧会への入口講座 Vol.34」	花井久穂 （主任研究員）	R3.11.17	千代田区立日比谷図書文化館	73
22	「絵画は、いま」	「アートヒストリー」レクチャー	桝田倫広 （主任研究員）	R3.12.5	アートト	15
23	トークイベント〈「再制作と追制作」今井祝雄の1970年前後〉	Yumiko Chiba Associates 主催トークイベント	三輪健仁 （主任研究員）	R.3.11.12	Yumiko Chiba Associates	15
24	「Re: play 1972/2015 - Restaging “Expression in Film ’72”」	Interrogating Ecology: 1970s Media and Art in Japan project (organized by Collaborative Catalogue Japan)	三輪健仁 （主任研究員）	R3.12.10	オンライン	30
25	「東京国立近代美術館 -2031年の『近代』美術館を想像してみる」	多摩美術大学生涯学習講座「世界の美術館」	三輪健仁 （主任研究員）	R3.12.11	オンライン	80
26	「これまでの企画について」	東京藝術大学映像研究科主催「メディア芸術史」	三輪健仁 （主任研究員）	R3.12.23	東京藝術大学映像研究科	10
27	シュウゾウを収蔵（シュウゾウ）すること	「シュウゾウ　アヅチガリバー　作品を語る」（Bank　ART1929 主催）	三輪健仁 （主任研究員）	R4.1.28	BankART1929	15

B.雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	発行者／ 掲載書籍名（発行者）	発行年月日
1	「天と地をつなぐ光―石井コレクションの瑛九作品について」	大谷省吾 （美術課長）	寺門臨太郎編『筑波大学アート・コレクション　石井コレクション　美をめぐる饗宴』（筑波大学出版会）	R3.8.27
2	荒川修作＋マドリン・ギンズの都市構想 「Reversible Destiny City/天命反転都市」―プラネタリー・アーバニゼーションの時代に	小川綾子 （研究補佐員）	『危機の時代からみた都市歴史・美術・構想』（水声社）	R4.3.25
3	「研究者という約束：言語社会研究科で歩んだ一〇年」	長名大地 （研究員）	中井亜佐子、小岩信治、小泉順也編著『〈言語社会〉を想像する　一橋大学言語社会研究科 25 年の歩み』（小鳥遊書房）	R4.3.30
4	「鏑木清方《築地明石町》をめぐる三章」、章解説、作品解説	鶴見香織 （主任研究員）	鶴見香織・今西彩子（編）／『鏑木清方美人画集成』（小学館）	R4.3.10
5	「みずにみる」	成相肇 （主任研究員）	『形 forme』324 号（日本文教出版）	R3.6.14
6	「森」をみる	成相肇 （主任研究員）	『形 forme』325 号 （日本文教出版）	R3.11.8
7	「パロディの定義、テクストの権利」	成相肇 （主任研究員）	『美術フォーラム 21』醍醐書房	R3.12.10
8	「マーキュリーのはなし」	成相肇 （主任研究員）	中井亜佐子、小岩信治、小泉順也　編著 『〈言語社会〉を想像する　一橋大学言語社会研究科 25 年の歩み』（小鳥遊書房）	R4.3.30
9	「画面だけをみる」	成相肇 （主任研究員）	『形 forme』326 号 （日本文教出版）	R4.2.24

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「待つ」ことで見えてくるもの	大谷省吾 （美術課長）	『都美セレクション グループ展 2021 記録集』（東京都美術館）	R4.1.28
2	Avantgarde-Gruppen in Japan zwischen 1920 und 1925 （日本の前衛芸術グループ 1920－1925）	大谷省吾 （美術課長）	「グループ・ダイナミクス」展図録（ドイツ、レンバッハハウス美術館）	R4.3
3	「美術館資料としての写真：東京国立近代美術館アートライブラリ所蔵 「抽象と幻想」展関連写真を中心に」	長名大地 （研究員）	『福沢絵画研究所 R 通信』2 号（福沢絵画研究所 R）	R3.5
4	「美術館図書室 SIG 解題リレーレファレンスブック・ガイド 22」	金子倫子 （研究補佐員）	『アート・ドキュメンテーション通信』128 号（アート・ドキュメンテーション学会）	R3.5.25
5	個性豊かな競演－現代日本版画家 4 人展	都築千重子 （主任研究員）	『新美術新聞』No.1574　美術年鑑社	R3.7.21
6	「版表現の探究－ 現代日本版画家、星野美智子、中林忠良、野田哲也、柳津紀子の差異と多様性」	都築千重子 （主任研究員）	『現代日本の版画家 4 人の歩み展　1962-2021』日動画廊	R3.7.27
7	（談）総論「木版画の新潮流」	都築千重子 （主任研究員）	『版画芸術』193 号（阿部出版）	R3.9.1
8	「No.25 シュミット＝ロットルフ木版画展　　『根源性と普遍性の追求－第一次大戦後のシュミット＝ロットルフの宗教的木版画の意味するもの』	都築千重子 （主任研究員）	『名古屋画廊 Uncommon Art of 20th Century　1995-2002』名古屋画廊	R3.12.25

9	「今もはじけるあのうたかたの音」	成相肇 （主任研究員）	展覧会カタログ「秋山祐徳太子と東京都知事選挙」（ギャラリー58）	R3.9.13
10	「コピフォビア、コピフィリア」	成相肇 （主任研究員）	山下拓也個展「マスコットたちとカニエ・ウェストとタコス男、他」ウェブサイト（Token Art Center）	R4.1.7
11	「田村星都―凝集と俯瞰」	花井久穂 （主任研究員）	『炎藝術』147 号（阿部出版）	R3.8.21
12	「柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年」	花井久穂 （主任研究員）	『炎藝術』148 号（阿部出版）	R3.11.1
13	「陶磁史目線で辿る　没後 60 年柳宗悦没後 60 年記念展　民藝の 100 年」	花井久穂 （主任研究員）	『陶説』823 号（日本陶磁協会）	R4.1.1
14	「Part 1 Review」	桝田倫広 （主任研究員）	『TOKAS-EMERGING 2021』	R3.10.30
15	「一枚の絵の尊さ」	桝田倫広 （主任研究員）	『シェル美術賞展 2021』	R3.12.8
16	「ロバート・スミッソンをめぐる三つの旅」	三輪健仁 （主任研究員）	『Whenever Wherever Festival 2021』ウェブサイト（一般社団法人 Body Arts Laboratory）	R3.12.24

その他の発表（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「近代美術の眼　《朝顔》小原古邨（祥邨）」	大谷省吾 （美術課長）	『読売新聞』都内版	R3.6.12
2	「MOMAT コレクション特別編　ニッポンの名作 130 年　アイデンティティと多様性」	大谷省吾 （美術課長）	『新美術新聞』	R3.7.1
3	A・ソヴァージョ著『ボードリヤールとモノへの情熱』（人文書院）を読む〈写真＝哲学者／哲学＝写真家〉としてのボードリヤール	小川綾子 （研究補佐員）	『図書新聞』	R3.9.11
4	「近代美術の眼　恩地孝四郎《「氷島」の著者（萩原朔太郎像）》」	都築千重子 （主任研究員）	『読売新聞』（都内版）	R3.12.10
5	「生活を描いた画家、清方　没後五〇年　鏑木清方展」	鶴見香織 （主任研究員）	『美術の窓』3 月号（生活の友社）	R3.2.18
6	「鏑木清方がみた築地・京橋・日本橋」	鶴見香織 （主任研究員）	『中央区文化・国際交流振興協会だより』76 号（中央区）	R4.1.18
7	「没後五〇年　鏑木清方展」	鶴見香織 （主任研究員）	『新美術新聞』1593 号（美術年鑑社）	R4.3.1
8	「災禍を経ても変わらぬ市井に暮らす人々の美　没後五〇年　鏑木清方展」	鶴見香織 （主任研究員）	『公明新聞』	R4.3.16
9	「市井の画家、真の姿　没後五〇年　鏑木清方展」	鶴見香織 （主任研究員）	『毎日新聞』	R4.3.16
10	作品解説「美しく　そして妖艶（「あやしい絵展」）」	中村麗子 （主任研究員）	『毎日新聞』夕刊	R3.4.23
11	アートダイアリー　083「ネコの目線でせまる、人に優しい建築」	中村麗子 （主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R3.8.20
12	論文「上村松園とその美について」	中村麗子 （主任研究員）	『東京二期会オペラ劇場ルル』公演パンフレット（公益財団法人東京二期会）	R3.8.28
13	「水とたたかう」	成相肇 （主任研究員）	『明日の友』252 号（婦人之友社）	R3.6.5
14	「近代美術の眼　小杉未醒（放庵）《水郷》」	成相肇 （主任研究員）	『読売新聞』（都内版）	R3.11.13
15	ゲストトーク	成相肇 （主任研究員）	CADAN アートチャンネル（MISAKO & ROSEN）	R3.11.20
16	「漬物とロングパス」	成相肇	『明日の友』255 号	R3.12.3

		（主任研究員）	（婦人之友社）	
17	「近代美術の眼　和田英作《おうな》」	成相肇 （主任研究員）	『読売新聞』都内版	R4.2.11
18	「民藝の100年　地域資源のネットワーク構築」	花井久穂 （主任研究員）	『公明新聞』文化	R3.11.10
19	柳宗悦没後60年記念展「民藝の100年」	花井久穂 （主任研究員）	『毎日新聞』14面	R3.10.22
20	「東京・国立・近代・美術館」で民藝の100年を見る	花井久穂 （主任研究員）	『新美術新聞』1586号（美術年鑑社）	R3.12.1
21	「近代美術の眼　高村光太郎《兎》」	古舘遼 （研究員）	『読売新聞』都内版	R4.3.12
22	「近代美術の眼：深瀬昌久《「鴉」より　襟裳岬》」	増田玲 （主任研究員）	『読売新聞』都内版	R3.4.10
23	「書評：甲斐義明著『ありのままのイメージ：スナップ美学と日本写真史』―これまでにない視点を開示」	増田玲 （主任研究員）	週刊読書人（読書人）	R3.10.1
24	「近代美術の眼　中村彝《大島風景》」	三輪健仁 （主任研究員）	『読売新聞』都内版	R3.9.11

（国立工芸館）

A.学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	「作家×キュレーター対談　『小松の九谷焼と自作について』」	クタニズム実行委員会事務局主催トークセッション	岩井美恵子 （主任研究員）	R3.9.19	サイエンスヒルズこまつわくわくホール	50
2	九谷焼と美濃、やきもの産地対談	クタニズム実行委員会事務局主催トークセッション	岩井美恵子 （主任研究員）	R3.9.25	サイエンスヒルズこまつわくわくホールおよびオンライン	50
3	「作家の工芸―金沢を中心に」	市民公開講座「金沢学」	唐澤昌宏 （工芸館長）	R3.6.12	北國新聞社ホール	104
4	「つくり手の言葉から作家の工芸を考える」	工芸のつなぎ手人材育成講座	唐澤昌宏 （工芸館長）	R3.6.19	香林坊プラザ	73
5	対談「茶の湯と工芸」	兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会	唐澤昌宏 （工芸館長）	R3.6.20	石川県立美術館講堂	101
6	特別報告「The 備前―土と炎から生まれる造形美―」	東洋陶磁学会	唐澤昌宏 （工芸館長）	R3.6.27	Zoomオンライン	60
7	スペシャルトーク「九谷焼の新しい表現の可能性について」	小松市立本陣記念美術館日本遺産サミット記念特別展関連イベント	唐澤昌宏 （工芸館長）	R3.10.30	こまつ芸術劇場うらら　会議室	30
8	「近代工芸と茶に湯のうつわ―国立工芸館のコレクションから―」	石川県茶道協会	唐澤昌宏 （工芸館長）	R3.11.7	北國新聞交流ホール	52
9	「美濃陶芸6人の人間国宝」	とうしん美濃陶芸美術館	唐澤昌宏 （工芸館長）	R4.1.7	とうしん学びの丘″エール″講堂	64

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「“海”のなかで多国籍な“雪”を編む」（澤谷由子論）	岩井美恵子 （主任研究員）	『炎芸術』147号（阿部出版）	R3.8.1
2	「白い“大地”に咲く料理」（柳井友一論）『炎芸術』	岩井美恵子 （主任研究員）	『炎芸術』148号（阿部出版）	R3.11.1
3	「KUTANismの高雅絢爛展」	岩井美恵子 （主任研究員）	『高雅絢爛展－九谷焼の今』図録（クタニズム実行委員会）	R3.9.25

4	「台湾×日本：『幸福工藝臺日交流展』に寄せて」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『C-flow 心流：幸福工藝臺日交流展』図録（國立臺灣工藝研究發展中心）	R3.4.1
5	「近代工芸と茶の湯のうつわ―個人作家による“表現のうつわ”」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『淡交』第 75 巻　第 4 号 通巻 932 号（淡交社）	R3.4.1
6	「津金日人夢の『青瓷』」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『津金日人夢展』図録（福岡三越）	R3.4.21
7	「和田的―シャープなフォルムから生み出される白磁の美」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『月刊美術』2021 年 5 月号（実業之日本社）	R3.5.1
8	「無釉焼締陶の美―伊勢﨑晃一朗の“やきもの”」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『伊勢﨑晃一朗展』図録（ギャラリー）	R3.9.1
9	「村瀬治兵衛の『彩漆』」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『村瀬治兵衛漆芸展ー探求ー変わるものと変わらないもの』図録（日本橋三越）	R3.10.20
10	「備前焼の歴史の中の隠﨑隆一：混淆土で魅せる想いの造形」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『隠崎隆一の陶芸 ―形と表情の変遷』展図録（瀬戸内市立美術館）	R.10.23
11	「備前焼の美―伊勢﨑晃一朗の“やきもの”」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『伊勢﨑晃一朗展』図録（ギャラリー栄光舎）	R3.11.5
12	「美濃陶芸と 6 人の人間国宝」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『美濃陶芸 6 人の人間国宝展』図録（とうしん美濃陶芸美術館）	R4.1.7
13	「『未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展』に思うこと」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『陶説』825 号（日本陶磁協会）	R4.3.1

その他の発表（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「[工芸館の窓から]探検気分で作品のぞいて」	今井陽子 （主任研究員）	『読売新聞』（石川県版・富山版・福井版）朝刊	R3.8.14 ほか
2	「[工芸館の窓から]深淵に宿る躍動 感じて」	今井陽子 （主任研究員）	『読売新聞』（石川県版・富山版・福井版）朝刊	R3.9.13 ほか
3	「染織家の輝き(1)小宮康助」	今井陽子 （主任研究員）	『美しいキモノ』2021 年春号（ハースト婦人画報社）	R3.2.20
4	「染織家の輝き(2)築城則子」	今井陽子 （主任研究員）	『美しいキモノ』2021 年夏号（ハースト婦人画報社）	R3.5.20
5	「染織家の輝き(4)稲垣稔次郎」	今井陽子 （主任研究員）	『美しいキモノ』2021 年秋号（ハースト婦人画報社）	R3.8.20
6	「染織家の輝き(3)鈴田滋人」	今井陽子 （主任研究員）	『美しいキモノ』2021 年冬号（ハースト婦人画報社）	R3.11.20
7	「中田博士《真珠光彩壺》」ほか 17 点の作品解説	岩井美恵子 （主任研究員）	『高雅絢爛展 - 九谷焼の今』図録（クタニズム実行委員会）	R3.9.25
8	「金魚と超絶技巧と深堀隆介」	岩井美恵子 （主任研究員）	『東京新聞』朝刊	R4.1.16
9	アートダイアリー 080「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ　近代工芸と茶の湯のうつわ―四季のしつらい―」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『文化庁広報誌　ぶんかる』（文化庁）（Web）	R3.5.24
10	工芸館の窓から「美意識を映す茶のうつわ」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『読売新聞』朝刊（石川県版）（読売新聞社）	R3.6.12
11	一部公募部門 総評	唐澤昌宏 （工芸館長）	『笠間陶芸大賞展』図録（笠間陶芸大賞展実行委員会、茨城県陶芸美術館）	R3.10.16
12	「第 50 回全陶展」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『炎芸術』No.149 2022 春（阿部出版）	R4.2.1
13	「工芸文化の魅力を発信　国立工芸館の活動とコレクション」	唐澤昌宏 （工芸館長）	『石川自治と教育』第 731 号（石川県自治と教育研究会）	R4.3.10
14	「[工芸館の窓から]12 羽の鷹　伝わる息遣い」	北村　仁美 （主任研究員）	『読売新聞』（石川県版）朝刊	R3.10.9

15	「[工芸館の窓から]激動の明治　作風も一変」	北村　仁美 (主任研究員)	『読売新聞』（石川県版） 朝刊	R3.11.13
16	「[工芸館の窓から]デジタルが担う可能性」	北村　仁美 (主任研究員)	『読売新聞』（石川県版） 朝刊	R3.12.11
17	近代美術の眼「小川待子《無題》」	中尾優衣 (主任研究員)	『読売新聞』（都内版）	R3.7.10
18	「めぐるアール・ヌーヴォー展　モードのなかの日本工芸とデザイン」	中尾優衣 (主任研究員)	『新美術新聞』2022 年 1 月 1・11 日合併号	R4.1.1
19	工芸館の窓から「ミュシャが描く大女優」	中尾優衣 (主任研究員)	『読売新聞』（石川県版）	R4.1.15
20	アートダイアリー 090「アール・ヌーヴォーは、どこから来てどこへ行く？めぐりめぐる工芸とデザイン」	中尾優衣 (主任研究員)	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R4.3.11

イ　京都国立近代美術館

A.学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	博物館実習における導入講義および展示論（高田静雄展）	広島市立大学芸術学部博物館実習	福永治 (館長)	R3.8.22	公益財団法人泉美術館	6
2	分離派の誕生―芸術における自由の問題　ミュンヘン、ベルリン、ウィーン	学習院大学ドイツ文学会主催講演会	池田祐子 (学芸課長)	R3.10.15	オンライン配信	約 70
3	上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー	大妻女子大学比較文化学部特別講演会	池田祐子 (学芸課長)	R4.1.26	大妻女子大学比較文化学部	約 25
4	染型紙と世界：ドイツ・ドレスデンを中心に	徳島城博物館主催『美術史アカデミー「藍の拡がり」』	池田祐子 (学芸課長)	R4.2.12	徳島城博物館	29
5	上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー	三菱一号館美術館主催「上野リチ」展記念講演会	池田祐子 (学芸課長)	R4.2.18	オンライン配信（3×3 Lab Future）	92
6	「活動④［対立と調停］　工芸の魅力を伝える」	大阪大学大学院文学研究科主催アート・プラクシス人材育成プログラム「徴しの上を鳥が飛ぶ III」	宮川智美 (任期付研究員)	R3.8.21	大阪大学（オンライン）	20

B.雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者／ 掲載書籍名（発行者）	発行年月日
1	リチのファンタジーの鳥たち	池田祐子 (学芸課長)	『マイ・ファースト・リチ 上野リチのデザイン』（青幻舎）	R4.1.10
2	「宮崎進《漂泊する心の風景》」	梶岡秀一 (主任研究員)	美術年鑑社編『日本の美術 Ⅶ　平成の洋画　1989-2019 次代への架け橋』（美術年鑑社）	R3.6.28
3	『京都国立近代美術館のコレクションでたどる岸田劉生のあゆみ』（とんぼの本シリーズ）	梶岡秀一 (主任研究員)	新潮社	R4.1.30
4	八木一夫の写真 紀行編－視覚イメージと言葉との幸福な出会い－	大長智広 (主任研究員)	『八木一夫の写真　カメラを手にした前衛陶芸家』（京都新聞出版センター）	R3.11.11
5	「長谷川政弘氏の 2021 年度研究テーマ：京町家と金属作品の親和性」についての一考察	大長智広 (主任研究員)	―京町家と金属作品の親和性の検証―	R4.2.28
6	「美術館での新しい鑑賞と盲学校との連携【鑑賞】」	松山沙樹 (特定研究員)	『視覚障害のためのインクルーシブアート学習；基礎理論と教材開発』（ジアース教育新社）	R3.12

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「須田国太郎のレアリスム論とスペイン」	梶岡秀一 （主任研究員）	『美術フォーラム 21』第 43 号（一般社団法人美術フォーラム 21）	R3.6.20
2	「都市と神話／歴史と抽象　―日本画家　岩波昭彦略伝―」	梶岡秀一 （主任研究員）	『moment　岩波昭彦展　―都市の肖像＋Compositions―』（近鉄百貨店）	R3.5.26
3	「福井江太郎《曄》」	梶岡秀一 （主任研究員）	『第 8 回　東山魁夷記念日経日本画大賞』（日本経済新聞社）	R3.5.27
4	作品解説　日本工芸会賞　中村弘峰　陶彫彩色「菖蒲野」	大長智広 （研究員）	「第 55 回西部伝統工芸展」図録（日本工芸会西部支部）	R3.5.30
5	作品解説　大賞　猪倉髙志　線を解き放つ	大長智広 （主任研究員※2）	「第 9 回菊池ビエンナーレ現代陶芸の〈今〉」図録（菊池寛実記念 智美術館）	R3.12
6	「美術館における協働の試み～「さわるコレクション」制作の現場から～」	松山沙樹 （特定研究員）	「ユニバーサル・ミュージアム―さわる―“触”の大博覧会」展覧会図録（合同会社小さ子社）	R3.9
7	「柳原睦夫の陶芸の本質論」	宮川智美 （任期付研究員）	「柳原睦夫　花喰ノ器」展図録（大阪市立東洋陶磁美術館）	R3.8
8	ナンバー「C17」の家をさがしに	本橋仁 （特定研究員）	『戦後京都の「色」はアメリカにあった！カラー写真が描く〈オピュパイド・ジャパン〉とその後』（京都府京都文化博物館）	R3.7

その他の発表（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「クラフト展」会場から	福永治 （館長）	『美術京都』第 53 号（公益財団法人中信美術奨励基金）	R4.3
2	森野陶芸の現在地	福永治 （館長）	米寿記念文化功労者森野泰明陶展一響きあう彩りとフォルム図録巻頭、2-4 頁（髙島屋美術部）	R4.3.9
3	「岸田劉生作品四十二点を新たに収蔵」	梶岡秀一 （主任研究員）	『月刊　美術の窓』8 月号（生活の友社）	R3.8.20
4	「21 年春に新収蔵され話題となった 42 点がついに一般公開　新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」	梶岡秀一 （主任研究員）	『月刊　美術の窓』12 月号（生活の友社）	R3.12.20
5	「岸田劉生の絵画における「内なる美」と質感の表現」	梶岡秀一 （主任研究員）	『月刊　美術の窓』3 月号（生活の友社）	R4.3.20
6	「画業を一望する大コレクション」	梶岡秀一 （主任研究員）	『新美術新聞』第 1590 号（美術年鑑社）	R4.2.1
7	「発見された日本の風景　作品紹介 1　美しさ 外国人を魅了」	梶岡秀一 （主任研究員）	『毎日新聞（京都）』（毎日新聞社）	R3.9.9
8	「発見された日本の風景　作品紹介 2　劇的な表現 今も新鮮」	梶岡秀一 （主任研究員）	『毎日新聞（京都）』（毎日新聞社）	R3.9.11
9	「発見された日本の風景　作品紹介 3　花満ちる庭園に感動」	梶岡秀一 （主任研究員）	『毎日新聞（京都）』（毎日新聞社）	R3.9.12
10	「岸田劉生の京都生活　南禅寺の湯豆腐」	梶岡秀一 （主任研究員）	『京都新聞』（京都新聞社）	R4.1.29
11	「岸田劉生の京都生活　錦市場の冬瓜」	梶岡秀一 （主任研究員）	『京都新聞』（京都新聞社）	R4.2.6

12	「岸田劉生の京都生活　祇園祭の見物」	梶岡秀一 （主任研究員）	『京都新聞』（京都新聞社）	R4.2.15
13	「岸田劉生と森村・松方コレクション　作品紹介１自信に満ちた表情」	梶岡秀一 （主任研究員）	『毎日新聞（京都）』（毎日新聞社）	R4.2.3
14	「岸田劉生と森村・松方コレクション　作品紹介２自信に満ちた表情」	梶岡秀一 （主任研究員）	『毎日新聞（京都）』（毎日新聞社）	R4.2.7
15	「岸田劉生と森村・松方コレクション　作品紹介３劉生の美学を象徴」	梶岡秀一 （主任研究員）	『毎日新聞（京都）』（毎日新聞社）	R4.2.11
16	アートダイアリー084「発見された日本の風景　美しかりし明治への旅」	梶岡秀一 （主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R3.9.13
17	アートダイアリー089「新収蔵記念　岸田劉生と森村・松方コレクション」	梶岡秀一 （主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R4.2.25
18	呼・吸－柳原睦夫の現在地	大長智広 （研究員）	「柳原睦夫展－鼓動を聴く－」（高島屋）	R3.4
19	「第55回女流陶芸公募展」	大長智広 （主任研究員） （※１）	『炎芸術』第149号（阿部出版）	R4.2.1
20	「茶席でよく見る　絵掛物の画家」	平井啓修 （主任研究員）	『淡交テキスト「絵の掛物」』（淡交社）	R3.4.1、 5.1、 6.1、 7.1、 8.1、 9.1、 10.1、 11.1、 12.1
21	アートダイアリー　079「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island－あなたの眼はわたしの島－」	牧口千夏 （主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R3.5.12
22	参照項としてのシャネル	牧口千夏 （主任研究員）	『ユリイカ　特集：ココ・シャネル』第53巻第8号（青土社	R3.7.1
23	トークイベント「ドキュメンタリー写真の現在地～ユージン・スミスの『MINAMATA』、その時代から～」	牧口千夏 （主任研究員）	朝日新聞デジタル	R3.11.2～30（配信）
24	「コロナ禍での「手で触れる」プログラム―京都国立近代美術館の事例から」	松山沙樹 （特定研究員）	「ICOM Japan」ジャーナル（web）	R3.5
25	「ユニバーサル・ミュージアム」な仲間たち：触覚で作品“再発見”	松山沙樹 （特定研究員）	点字毎日活字版	R3.11.25
26	「特別展『黒田泰蔵』の準備にあたって」	宮川智美 （任期付研究員）	『陶説』820号（日本陶磁協会）	R3.9
27	「関西の陶芸展：安永正臣展―Faint, But Undeniable Existence」	宮川智美 （任期付研究員）	『陶説』820号（日本陶磁協会）	R3.9
28	「柳原睦夫との対話」	宮川智美 （任期付研究員）	『陶説』819号（日本陶磁協会）	R3.8
29	「河井寛次郎と柳宗悦の出会い」	宮川智美 （任期付研究員）	『目の眼』547号（株式会社目の眼）	R4.3
30	アーティストか社会人 拮抗する二つの近代主義と建築家	本橋仁 （特定研究員）	TEMPOLOGY Vision（テンポロジー未来機構）	R3.6.28.
31	座談 祝祭はどこへ向かうのか	本橋仁 （特定研究員）	建築雑誌（日本建築学会）	R3.9.
32	座談 現代都市に必要とされる祝祭とは何か?（特集 祝祭のゆくえ）	本橋仁 （特定研究員）	建築雑誌（日本建築学会）	R3.9.
33	造園を通して地域とオフィスをつなぐ	本橋仁 （特定研究員）	TOTO通信（TOTO）	R4.1

ウ　国立映画アーカイブ						
A.学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	Japanese Film Posters: An Illustrated Talk	英国映画協会・国際交流基金ロンドン日本文化センター主催講演会	岡田秀則 （主任研究員）	R3.11.19	オンライン	207
2	発表「《映画の展覧会》を考える」	全国映画資料アーカイブサミット 2022	岡田秀則 （主任研究員）	R4.1.20	オンライン	185
3	シンポジウム・モデレーター「映画資料の収集・保存・活用　全国的な連携からできること」	全国映画資料アーカイブサミット 2022	岡田秀則 （主任研究員）	R4.1.20	オンライン	164
4	「フィルムアーカイブにおけるデジタル復元―その四半世紀を振り返って」	アテネ・フランセ文化センター	岡島尚志 （館長）	R3.11.20	アテネ・フランセ文化センター4 階ホール	80
5	「『日本映画作品大事典』刊行記念トーク～映画の輝きを未来に伝える」	神奈川近代文学館	岡島尚志 （館長）	R3.11.27	神奈川近代文学館ホール	150
6	アニメーション映画のアーカイビング―高残存率を支えるフィルム発掘と複数バージョンの同定研究	日本アニメーション学会西日本支部 オンライン研究会	大傍正規 （主任研究員）	R3.8.23	オンライン	30
7	Around Japan With a Movie Camera	BFI London Film Festival 2021	冨田美香 （主任研究員）	R3.10.6	オンライン	7,747 （視聴回数）
8	『日本の娘』その背後にあったもの	福岡アジアフィルムフェスティバル 2021	冨田美香 （主任研究員）	R3.10.10	福岡アジア美術館	31
9	「磁気テープ映画原版の保管状況と課題」	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント　［緊急フォーラム］マグネティック・テープ・アラート： 膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること	冨田美香 （主任研究員）	R3.10.16	国立映画アーカイブ	216
10	女性監督のパイオニア田中絹代トークイベント	第 34 回東京国際映画祭	冨田美香 （主任研究員）	R3.１１.１	オンライン	2,991 （視聴回数）
11	「場」への誘い ― 新民謡・ご当地小唄映画と葭町二三吉 ―	『戦前日本映画文化における女性の創造的貢献への新たな視座』オンライン・シンポジウム	冨田美香 （主任研究員）	R3.１2.１2	オンライン早稲田大学演劇映像学会	30
12	磁気テープ映画のデジタルファイル化と保存について	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント　［緊急フォーラム］マグネティック・テープ・アラート： 膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること	三浦和己 （主任研究員）	R3.10.16	国立映画アーカイブ	216
13	「吉澤商店の国産映写機製造」	日本映像学会映画文献資料研究会	入江良郎 （主任研究員）	R3.11.27	東京工芸大学中野キャンパス 1 号館	12
14	「映像の時代を切り開いた男 吉澤商店主・河浦謙一の足跡」	大伴家持文学賞記念講座 郷土と文化 第 4 回	入江良郎 （主任研究員）	R3.12.12	高志の国文学館	28

B.雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名（職名）	発行者／掲載書籍名（発行者）	発行年月日
1	『昭和の映画絵看板 看板絵師たちのアートワーク』	岡田秀則（主任研究員）	トゥーヴァージンズ	R3.6.16
2	Les Sorcières de l’Orient/The Witches of the Orient/Toyo no Majo	岡島尚志（館長）	Journal of Film Preservation No. 105 (International Federation of Film Archives)	R3.11

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	Les Affiches de Films de Sabre	岡田秀則（主任研究員）	展覧会”Ultime Combat: Arts martiaux d’Asie”図録（ケ・ブランリ美術館、フランス）	R3.9.22
2	Hiroshi Shimizu, l’enfant sauvage du cinema	岡田秀則（主任研究員）	上映企画「清水宏監督特集」関連書籍（パリ日本文化会館）	R3.9
3	Nobu Shirase’s Antarctic Expedition, 1910-1912	大傍正規（主任研究員）	Catalogue note on South & The Heroic Age of Antarctic Exploration on Film (3-Disc Dual Format Edition), British Film Archive	R4.2.28
4				

その他の発表（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	対談「映画をいかに捉えるか」	岡田秀則（主任研究員）	「図書新聞」No.3493（武久出版）	R3.4.24
2	『全国映画資料館録 2020』と映画資料アーカイブのこれから	岡田秀則（主任研究員）	「視聴覚教育」2021 年 7 月号（日本視聴覚教育協会）	R3.7.9
3	書評「牧野守 在野の映画学」	岡田秀則（主任研究員）	「キネマ旬報」2021 年 7 月上旬号	R3.6.18
4	書評「24 フレームの映画学」	岡田秀則（主任研究員）	「日本経済新聞」	R3.7.3
5	書評「三隅研次 密やかな革新」	岡田秀則（主任研究員）	「図書新聞」No.3519（武久出版）	R3.11.6
6	「私は、「私たち」を描く人に変わった　原一男監督インタビュー」	岡田秀則（主任研究員）	「キネマ旬報」2021 年 12 月上旬号	R3.11.20
7	書評「地方映画書探訪」	岡田秀則（主任研究員）	「キネマ旬報」2022 年 3 月下旬号	R4.3.15
8	「映画を残す、映画を活かす。」ということ	岡島尚志（館長）	「三洋化成ニュース」2021 年夏号	R3. 7

エ　国立西洋美術館

A.学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名（職名）	日付	場所	聴講者数（人）
1	「John Everett Millais and Martha Combe: Redefining the nature of the artist-patron relationship」	日本ヴィクトリア朝文化研究学会	浅野菜緒子（特定研究員）	R3.11.20	同志社大学	100
2	「（シンポジウム）企画趣旨説明」	アート・ドキュメンテーション学会年次大会シンポジウム「美術館コレクション検索はどこへ向か	川口雅子（主任研究員）	R3.6.19	オンライン	240

		うか　―日本のプラットフォームの現状と将来像―」				
3	「カタログレゾネはなぜ必要か」	立教大学人文研究センター公開シンポジウム「奈良美智のオンライン・カタログレゾネ・プロジェクト―現代美術のドキュメンテーション考―」	川口雅子 （主任研究員）	R4.2.1	オンライン	720 （申込み）
4	「松方コレクション」	10e Festival de l’Histoire de l’Art au Château de Fontainebleau	陳岡めぐみ （主任研究員）	R4.6.4	ハイブリッド	
5	「ロダン×新海竹太郎――〈遠く〉から持ち帰ったもの｜持ち帰らなかったもの」	山形美術館主催トークセッション	新藤淳 （主任研究員）	R3.5.31	山形美術館	50
6	「クロスセクションの分析、 膠着材の分析（ELISA および LC-MS）」	トルコ・カッパドキアの聖シメオン教会の保存に関するオンライン研究会（第２回）	高嶋美穂 （特定研究員）	R3.4.1	東京芸術大学社会連携センター	50
7	「カッパドキア、アギオス・シメオン・スティリティス聖堂（トルコ）の壁画の彩色材料、技法に関する調査」	日本文化材科学会第 38 回大会	高嶋美穂 （特定研究員）	R3.9.18	オンライン	500
8	シンポジウム「抽象の問題群をめぐって：キュビスム―抽象への抵抗」」	特定非営利活動法人アートトレイス	田中正之 （館長）	R3.4.11	オンライン	100
9	公開講座「近現代美術のミカタ」第1回	（株）自由学園サービス	田中正之 （館長）	R3.10.22	自由学園明日館／オンライン	20
10	公開講座「近現代美術のミカタ」第２回	（株）自由学園サービス	田中正之 （館長）	R3.11.12	自由学園明日館／オンライン	20
11	公開講座「膠を旅する―これからの表現と社会」	武蔵野美術大学	田中正之 （館長）	R3.11.20	武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス／オンライン	100
12	「ウィンダム・ルイスのメディア論―アートとイデオロギーの交錯」	跡見女子大学	田中正之 （館長）	R4.3.19	アカデミアフォーラム in 丸の内／オンライン	20
13	「ギュスターヴ・クールベ「狩人のための連作」解釈の試み」	第 74 回美術史学会全国大会	山枡あおい （任期付研究員）	R3.5.14	オンライン	200
14	「16世紀におけるラファエッロ主義の成立」	美術史学会東支部大会	渡辺晋輔 （学芸課長）	R3.4.10	オンライン	270

B.雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	発行者／ 掲載書籍名（発行者）	発行年月日
1	序文	飯塚隆 （主任研究員）	『指輪が語る　宝石歴史図鑑』（世界文化社）	R4.3.30
2	「膠製品の原材料動物種について―LC-ESI-MS 法および MALDI-TOF/TOF-MS 法を用いた同定の試み―」	高嶋美穂 （特定研究員）	『文化財保存修復学会第 43 回大会研究発表集』（文化財保存修復学会第 43 回大会実行委員会）	R3.7.15

3	「アフガニスタンから将来した「ストゥッコ像」の技法材料研究」	高嶋美穂 （特定研究員）	『文化財保存修復学会第43回大会研究発表集』（文化財保存修復学会第43回大会実行委員会）	R3.7.15
4	第18章 「アーロン・ダグラス《黒人生活の諸側面》をめぐって――美術における黒人アイデンティティの表象」	田中正之 （館長）	『ハーレム・ルネサンス〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批評』（明石書店）	R3.8.12
5	『西洋美術史』監修	田中正之 （館長）	『西洋美術史』（美術出版ライブラリー）	R3.12.20
6	7章「美術館におけるプログラム」	酒井敦子 （主任研究員）	『博物館教育論』（放送大学教育振興会）	R4.3.20
7	10章「学校と博物館」	酒井敦子 （主任研究員）	『博物館教育論』（放送大学教育振興会）	R4.3.20

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	作品解説11点・年表・主要参考文献	久保田有寿 （特定研究員）	『地中海人ピカソ―神話的世界に遊ぶ』展図録（ヨックモックミュージアム）	R3.10

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「林忠正について」	久保田有寿 （特定研究員）	『令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる 山形で考える西洋美術｜高岡で考える西洋美術――〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき』展覧会カタログ（開催：山形美術館／高岡市美術館、発行：国立西洋美術館）	R3.7.17
2	The Matsukata Collection, Or: A Museum with ‘No Boundary Lines’	陳岡めぐみ （主任研究員）	*RENOIR, MONET, GAUGUIN Bilder einer fliessenden Welt Die Sammlungen Matsukata und Osthaus*展図録（フォルクヴァング美術館）	R4.2
3	「『山形で考える西洋美術｜高岡で考える西洋美術――〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき』の分岐する扉へ」 「吉野石膏コレクション×国立西洋美術館コレクション」	新藤淳 （主任研究員）	『令和3年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる 山形で考える西洋美術｜高岡で考える西洋美術――〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき』展覧会カタログ（開催：山形美術館／高岡市美術館、発行：国立西洋美術館）	R3.7.17

その他の発表（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「まず知って、SNSでシェア！ 女性アーティストたちをサポートするために私たちができること」	浅野菜緒子 （特定研究員）	エル・ガール・オンライン（ハースト婦人画報社）	R3.5.27
2	「デジタルでアートはもっと楽しめる？「東京藝大アートフェス」からコロナ禍での文化・芸術の重要性を考えよう」	浅野菜緒子 （特定研究員）	エル・ガール・オンライン（ハースト婦人画報社）	R3.6.8
3	「マルクス・アウレリウス騎馬像、トラヤヌス記念柱、神殿の見える空想のローマ景観」	飯塚隆 （主任研究員）	『女性のひろば』（日本共産党中央委員会出版局）	R4.3.1
4	「アメリカ現代美術　シカゴ美術館」	田中正之 （館長）	パブリックドメインで巡る世界の美術館No.005（Tokyo Art Navigation）	R3.6.30

5	「リニューアルオープンによせて」	田中正之 （館長）	ウェブうえの３，４月合併号（上野のれん会）	R4.3.1
6	「松葉一清さん、最後のプロジェクト―横浜市における都市デザインとパブリック・アート」	田中正之 （館長）	美史研ジャーナル第 17 号 （武蔵野美術大学）	R4.3.31

オ　国立国際美術館

A.学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	「SOUTH SOUTH Talk: Danh Vo oV hnaD」	SOUTH SOUTH 主催トークセッション	植松由佳 （学芸課長）	R3.4.20	ZOOM Webinar を使用したオンライン形式	100
2	「これからの博物館制度を考える」	日本博物館協会主催	植松由佳 （学芸課長）	R3.4.24	Zoom を使用したオンライン形式	500
3	「田中功起×植松由佳コロナ禍における展覧会」	美術手帖主催	植松由佳 （学芸課長）	R3.8.7	Zoom Webinar を使用したオンライン形式	100
4	「グローバル化する美術界と『日本』：現代アート振興の地平線」パネルディスカッション	文化庁アートプラットフォームシンポジウム	植松由佳 （学芸課長）	R3.10.23	Zoom Webinar を使用したオンライン形式	215
5	「グローバル化する美術領域と日本の美術界:我が国現代アート振興の黎明期」～アート・コミュニケーションセンター（仮称）と国立美術館に期待する役割～	文化庁アートプラットフォームシンポジウム	植松由佳 （学芸課長）	R4.3.11	Zoom Webinar を使用したオンライン形式	231
6	「Viva Video!久保田成子」展　スペシャルトークイベント	「Viva Video!久保田成子」展オンライントークイベント	島敦彦 （館長）	R3.5.2	新潟県立近代美術館（オンライン開催）	35
7	「ポストコロナの博物館運営」	甲南大学開学 70 周年記念シンポジウム	島敦彦 （館長）	R3.10.2	甲南大学　岡本キャンパス 5 号館	80
8	「現代美術の楽しみ方」	「令和の会」講演会	島敦彦 （館長）	R3.12.4	富山国際会議場 2F セミナールーム	30
9	“みらい“の中之島	クリエイティブアイランド中之島　―創造的な実験島―	島敦彦 （館長）	R4.2.11	大阪中之島美術館	100
10	調査／論考の進捗と今後の見通し、コメント	感性と制度のつながり――芸術をめぐる「喚起」と「評価」のプロセスから考える	橋本梓 （主任研究員）	R4.3.20	国立民族学博物館　第 7 セミナー室　ウェブ開催併用	9
11	「大八木夏生　思い込みと鉢合わせ」展トークイベント	「大八木夏生　思い込みと鉢合わせ」展	福元崇志 （主任研究員）	R3.10.9	The Third Gallery Aya	20
12	「声としての彫刻-ドクメンタのヨーゼフ・ボイス」	2021 年度第 6 回風景論研究会例会	福元崇志 （主任研究員）	R4.2.11	立命館大学（オンライン開催）	15
13	鑑賞教育ことはじめ～鑑賞の基本的能力を育むアートカード～	豊中市教職員組合教育研究集会	藤吉祐子 （主任研究員）	R3.10.15	豊中市立南桜塚小学校	20
14	「博物館をあじわう：常設展示に関するこども向け観覧支援ツール	博物館とこども-博物館におけるこども向け教育普及事業をテーマとしたオンライントーク	藤吉祐子 （主任研究員）	R3.10.25	国立民族学博物館（オンライン開催）	70

	の開発について」コメント					

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「VOCA 展 2022 選考を終えて」	植松由佳（学芸課長）	「VOCA 展 2022」図録（上野の森美術館）	R4.3
2	中村ミナトー重力からの解放	島敦彦（館長）	「交錯する彫刻とジュエリー　中村ミナト」（里文出版）	R3.10.10
3	旋毛風－奇想天外・岡部館に寄せて	島敦彦（館長）	「奇想天外・岡部館－無無殻層輪帯 超 螺旋神－」（松村外次郎記念　庄川美術館）	R3.11.1
4	「鑑賞サポートツールの可能性」	藤吉祐子（主任研究員）	博物館とこども-博物館におけるこども向け教育普及事業をテーマとしたオンライントーク報告集（国立民族学博物館）	R4.3

その他の発表（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「とらのもん往来」	島敦彦（館長）	文教ニュース（第 2647 号）	R3.5.3
2	「壁や立場『越境』する館へ」	島敦彦（館長）	毎日新聞夕刊	R3.5.8
3	「小森はるか+瀬尾夏美　人々の声に耳を傾ける」（評論家学芸員が選ぶ注目の新人 18）	島敦彦（館長）	美術の窓 5　452 号（生活の友社）	R3.5
4	「第 85 回香川県美術展覧会　審査講評」　■絵画（日本画）■絵画（洋画）	島敦彦（館長）	第 85 回香川県美術展覧会冊子（香川県立ミュージアム）	R3.8
5	「素材・場所吟味して」（第 75 回県展審査評（先端美術））	島敦彦（館長）	高知新聞	R3.10.12
6	「実直な仕事ぶり伝わる」（くまもと「描く力」2021 審査員評）	島敦彦（館長）	熊本日日新聞	R3.11.26
7	「変容するギャラリーと美術館との関係」（特集ギャラリーの役割―これまでとこれから）	島敦彦（館長）	須田記念　視覚の現場　第６号(一般社団法人　きょうと視覚文化振興財団)	R4.3.1
8	「Viva Video!久保田成子展」キュレーター座談会	橋本梓（主任研究員）	『美術手帖』2021 年 8 月号	R3.8.1
9	「アーティスト・インタビュー加藤翼」	橋本梓（主任研究員）	『美術手帖』2021 年 10 月号	R3.10.1
10	「塩見允枝子」	橋本梓（主任研究員）	『美術手帖』2021 年 10 月号	R3.10.1
11	「琉球の横顔」展　展評	橋本梓（主任研究員）	新聞『沖縄タイムス』朝刊	R3.12.22
12	インターネット公開対談「時間と空間を越えて：塩見允枝子の世界	橋本梓（主任研究員）	ART WEEK TOKYO ウェブサイト	R3.11.3
13	「小野田實展・私のマル　反復がもたらす無意味の驚異」	福元崇志（主任研究員）	大阪日日新聞	R3.6.28
14	「和田真由子「Wandering rocks」に寄せて」	福元崇志（主任研究員）	児玉画廊ウェブサイト	R3.10.16
15	「アートダイアリー85　ヨーゼフ・ボイスとブリンキー・パレルモ―ふたつの、あわいの芸術」	福元崇志（主任研究員）	文化庁広報誌 ぶんかる	R3.10.20
16	「アートを楽しむことは保護者と子どもの相互理解にもつながる?！」	藤吉祐子（主任研究員）	子育て家庭を応援する「親力アップサイト」（大阪市）	R3.12.6

カ　国立新美術館

A.学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	ニューメディアのパフォーマンス/演劇 ―パンデミック、グローバリゼーション、オンラインシステム―	国際学会 A/R/P (Art/Research/Practice) 2021	今井祥子 （研究補佐員）	R3.10.2	東京藝術大学	50
2	「ジョルジュ・ブラックによるヘシオドス『神統記』挿絵版画 ―大戦間期におけるキュビスムと「秩序への回帰」―」	第 74 回美術史学会全国大会	杉本渚 （研究補佐員）	R3.5.14	オンライン	200
3	美術館とアーキビスト（特集テーマ：国立公文書館認証アーキビスト）	第 118 回デジタルアーカイブサロン	谷口英理 （特定研究員）	R3.5.16	オンライン	90
4	絵画画像の特徴的色彩領域に基づく再帰的階段関数系による色彩分析の試行	日本色彩学会第 52 回全国大会	室屋泰三 （主任研究員）	R3.6.26	オンライン	47
5	絵画画像の特徴的色彩領域に基づく再帰的階段関数系による色彩分析における領域分割の考察	日本色彩学会 令和３年度秋の研究会旬間	室屋泰三 （主任研究員）	R3.11.20	オンライン	74
6	絵画画像の微細色面に着目した再帰的分割に関する試行	日本色彩学会画像色彩研究会令和 3 年度研究発表会	室屋泰三 （主任研究員）	R4.3.12	オンライン	13
7	「ファッション インジャパン1945-2020 流行と社会」展について	「トレンド情報共有会 6 月回」	本橋弥生 （主任研究員） 小野寺奈津 （特定研究員）	R3.6.22	オンライン	40
8	「ファッション インジャパン1945-2020 流行と社会」展を中心に	服飾美学会 2021 年度大会 公開シンポジウム「装いの文化を展示する」	本橋弥生 （主任研究員）	R3.6.26	オンライン	70
9	「学芸員の仕事と日本のファッション（戦前-1950年代）」	ここのがっこう	本橋弥生 （主任研究員）	R3.7.28	オンライン	50
10	「日本のファッション（1960－70年代）」	ここのがっこう	本橋弥生 （主任研究員）	R3.8.5	オンライン	50
11	「日本のファッション（1980年代）」	ここのがっこう	本橋弥生 （主任研究員）	R3.8.11	オンライン	50
12	「ファッション インジャパン1945-2020 流行と社会」展について	社団法人日本色彩学会	本橋弥生 （主任研究員）	R3.8.20	オンライン	30
13	「ファッション インジャパン1945-2020 流行と社会」展について	IFI ビジネススクール	本橋弥生 （主任研究員） 小野寺奈津 （特定研究員）	R3.9.15	オンライン	6

B.雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	発行者／ 掲載書籍名（発行者）	発行年月日
1	「日本のモダン・ファッション形成期におけるグローバルな視点　田中千代と民俗衣装」	本橋弥生 （主任研究員）	『越境するファッション・スタディーズ』（ナカニシヤ出版）	R3.12.10

【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	問題の所在と目的 （シンポジウムの記録 画家の写真資料 ： 保存と情報共有の実際）	谷口英理 （特定研究員）	『福沢絵画研究所 R』2 号 （福福沢絵画研究所 R 編）	R3.5.31
2	長谷川三郎の写真資料 （シンポジウムの記録 画家の写真資料 ： 保存と情報共有の実際）	谷口英理 （特定研究員）	『福沢絵画研究所 R』2 号 （福福沢絵画研究所 R 編）	R3.5.31
3	鬼頭健吾論－色と光のイリュージョン	長屋光枝 （学芸課長）	『KENGO KITO WORKS 2015-2020』（rin art association）	R3.6.1
その他の発表（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	第 25 回杜賞の選考を終えて	谷口英理 （特定研究員）	『東京藝術大学美術学部杜の会会報「杜」』（50 号） （東京藝術大学美術学部杜の会）	R3.6.30
2	「ルートヴィヒ美術館展　20 世紀美術の軌跡－市民が創った珠玉のコレクション」	長屋光枝 （学芸課長）	『美術の窓』12 月号 （（株）生活の友社）	R3.11.20
3	選評「三島喜美代」	長屋光枝 （学芸課長）	第 11 回 円空大賞（岐阜県）（Web）	R4.1.18
4	第 26 回美術教育研究大会 大会報告	真住貴子 （主任研究員）	美術教育研究　No.26（美術教育研究会）	R3.7.20
5	「メトロポリタン美術館展西洋絵画の 500 年」	宮島綾子 （主任研究員）	『公明新聞』（公明党機関紙委員会）	R3.12.15
6	アートダイアリー081 「なぜ私たちは洋服を着ているのか、考えたことはありますか」	本橋弥生 （主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R3.6.25
7	「タイムレスな創造」	本橋弥生 （主任研究員）	『ヴィム・ヴェンダース レトロスペクティブ Road Movies／夢の涯までも』（松竹株式会社）	R3.11.5
8	クリスチャン・ボルタンスキーと Lifetime	山田由佳子 （主任研究員）	『コメット通信』（水声社）（Web）	R3.8.31
9	「部会報告　教育普及研究部会」	吉澤菜摘 （主任研究員）	『ZENBI　全国美術館会議機関誌』Vol.21	R4.2.1
10	特集「いま、歴史マンガが面白い　タイプ別 感動する歴史マンガ[感涙/ほっこり]編」	吉村麗 （特定研究員）	『VISA』2021 年 6 月号（VJA グループ 三井住友カード株式会社）」	R3.6.1
11	「各界のマンガ好きが選ぶ このマンガがすごい！［オンナ編］」	吉村麗 （特定研究員）	『このマンガがすごい！2022』（宝島社）	R3.12.9
12	「特集 THE BEST MANGA 2022 このマンガを読め!」選者コメント	吉村麗 （特定研究員）	『フリースタイル 50 特集 THE BEST MANGA 2022 このマンガを読め!』（フリースタイル）	R3.12.20

※１　令和３年 10 月１日付で主任研究員に昇任。

別表 11　所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア　東京国立近代美術館			
（国立工芸館）			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「石川・金沢に国立工芸館がやってきた」	開催年月日	令和 3 年 4 月 10 日（土）
場所	能美市辰口福祉会館　交流ホール	聴講者数	50 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：唐澤昌宏（国立工芸館長）		

内容	能美ロータリークラブ創立 50 周年記念講演会。国立工芸館の移転経緯や移転に向けての取り組み、コレクションの特徴について紹介した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「国立工芸館の金沢開館に寄せて」	開催年月日	令和 3 年 7 月 7 日（水）
場所	KKR ホテル金沢	聴講者数	120 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：唐澤昌宏（国立工芸館長）		
内容	能美ロータリークラブ創立 50 周年記念講演会。国立工芸館の移転経緯や移転に向けての取り組み、コレクションの特徴について紹介した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	ふるさとふれあい講座「子どもに学ぶ工芸鑑賞の可能性」	開催年月日	令和 3 年 7 月 17 日（土）
場所	石川県立生涯学習センター	聴講者数	32 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：小林郁代氏（石川県立生涯学習センター 社会教育グループ主幹） 講師：今井陽子（国立工芸館主任研究員）		
内容	児童・生徒による鑑賞姿勢の分析から工芸作品の造形的特質を検証した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「国立工芸館のコレクションについて」	開催年月日	令和 3 年 10 月 15 日（金）
場所	国立工芸館　多目的室 2	聴講者数	10 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：唐澤昌宏（国立工芸館長）		
内容	北陸中日文化センターとの連携で、文化散歩の講座に国立工芸館の見学を組み込んでもらい、コレクションについて紹介した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「石川・金沢に国立工芸館がやってきた」	開催年月日	令和 3 年 10 月 21 日（木）
場所	金沢ニューグランドホテル　金扇の間	聴講者数	40 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：唐澤昌宏（国立工芸館長）		
内容	金沢商工会議所観光文化委員会及び繊維・工芸部会の合同会議の場を借りて、国立工芸館の移転経緯や移転に向けての取り組み、コレクションの特徴について紹介した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「“十二の鷹と明治の工芸”ココが見どころ！」	開催年月日	令和 3 年 10 月 25 日（月）
場所	国立工芸館　多目的室 1・2	聴講者数	37 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：唐澤昌宏（国立工芸館長）		
内容	石川移転開館 1 周年記念「十二の鷹と明治の工芸」展に伴う特別レクチャー。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「金沢に国立工芸館がやってきた」	開催年月日	令和 3 年 11 月 20 日（土）
場所	石川県女性センター　ホール	聴講者数	180 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：唐澤昌宏（国立工芸館長）		
内容	第 29 回金沢市校下婦人会研究大会の講演会として、国立工芸館の移転経緯や移転に向けての取り組み、コレクションの特徴について紹介した。		

イ　国立国際美術館			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	アーティスト・トーク「小清水漸・1968 年を語る」	開催年月日	令和 4 年 1 月 10 日（月・祝）
場所	国立国際美術館　講堂	聴講者数	講堂聴講：34 人 オンライン視聴：42 人 合計：76 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：小清水漸（作家） 聞き手：中井康之（国立国際美術館研究員）		
内容	出品作家の小清水漸氏を講師に招き、自作と「もの派」についてのトークイベントを開催した。		

別表 12　シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア　東京国立近代美術館			
（本館）			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	トークイベント「沈黙による試み―映像のバリアフリー化について」	開催年月日	配信期間：令和 3 年 12 月 9 日～令和 4 年 3 月 31 日
場所	オンライン配信	聴講者数	集計不可
講師・パネリスト等の氏名（職名）	有泉寧（日経映像プロデューサー）、今井ミカ（映画監督）、木下知威（日本社会事業大学講師、手話マップ代表）、田中功起（アーティスト）、保坂健二朗（滋賀県立美術館ディレクター）、山上庄子（Palabra 株式会社代表）		
内容	令和 2 年度に制作した田中功起《ひとつの陶器を五人の 陶芸家が作る（沈黙による試み）》「手話とバリアフリー字幕版」（2013/2021 年）の制作を振り返り、改めて映像のバリアフリー化について考えるトークイベントを開催した。		
イ　京都国立近代美術館			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	記念講演会「ヴィデオアートにおける身体／性、そしてパーソナルな次元」	開催年月日	令和 3 年 4 月 17 日（土）
場所	1 階　講堂	聴講者数	25 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：門林岳史（関西大学文学部映像文化専修教授）		
内容	展覧会「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island －あなたの眼はわたしの島－」の関連イベントとして、門林岳史氏を講師に迎え講演会を実施した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シンポジウム「サロン！京と大坂の絵画－継承か断絶か？」	開催年月日	令和 4 年 3 月 27 日（日）
場所	1 階　講堂	聴講者数	34 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：中谷伸生（関西大学名誉教授・一般財団法人きょうと視覚文化振興財団理事）、実方葉子（泉屋博古館学芸部長）、橋爪節也（大阪大学教授）、明尾圭造（大阪商業大学教授・商業史博物館主席学芸員）		
内容	展覧会「サロン！雅と俗－京の大家と知られざる大坂画壇」の関連イベントとして、一般財団法人きょうと視覚文化振興財団理事の中谷伸生氏、泉屋博古館学芸部長の実方葉子氏、大阪大学教授の橋爪節也氏、大阪商業大学教授の明尾圭造氏を迎え、シンポジウムを実施した。		

ウ　国立映画アーカイブ			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント[緊急フォーラム]マグネティック・テープ・アラート：膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること	開催年月日	令和 3 年 10 月 16 日（土）
場所	国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU	聴講者数	216 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	○ビデオレクチャー　「Deadline 2025 について」＊日本語字幕付き 講　師　ミヒャエル・レーベンシュタイン（オーストリア映画博物館長、FIAF 事務総長、オーストラリア国立フィルム＆サウンドアーカイブ前 CEO） ○トークイベント「磁気テープ映画原版の保管状況と課題」 登壇者　押田興将（オフィス・シロウズ代表取締役） 奥野邦利（日本大学芸術学部映画学科教授） 松本圭二（福岡市総合図書館文学・映像課　映像管理員） 司　会　冨田美香（国立映画アーカイブ主任研究員） ○「わが映画人生　ダイジェスト・特別編」（10 分）DVD 上映 挨　拶　崔洋一（日本映画監督協会理事長） ○トークイベント「磁気テープ映画のデジタルファイル化と保存について」 登壇者　鈴木伸和（株式会社東京光音、視聴覚アーキビスト） 藤原理子（株式会社 IMAGICA エンタテインメントメディアサービス　メディア営業部　フィルム・アーカイブ営業グループ） 緒方靖弘（寺田倉庫株式会社アーカイブ事業グループ） 司　会　三浦 和己（国立映画アーカイブ主任研究員）		
内容	ビデオテープの映画・映像は、2025 年までにデジタルファイル化されなければ、永遠に失われかねない―というユネスコの警告を受け止め、ミヒャエル・レーベンシュタイン氏（オーストリア映画博物館長、FIAF 事務総長、オーストラリア国立フィルム＆サウンドアーカイブ前 CEO）によるビデオレクチャーの他、デジタル化などをテーマにトークイベントを開催した。		

エ　国立国際美術館			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	講演会「フルクサスから世界へ　久保田成子と日本人女性芸術家達の交差する軌跡」	開催年月日	令和 3 年 7 月 31 日（土）
場所	国立国際美術館　講堂	聴講者数	講堂聴講：30 人 オンライン視聴：77 人 合計：107 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：由本みどり（ニュージャージー・シティ大学准教授／ギャラリーディレクター）		
内容	久保田成子を中心に、1960 年代前半にニューヨークでフルクサスに参加した経験をばねにして芸術の国際的舞台へと飛び出した、4 人の果敢な日本人女性芸術家について、講演会を開催した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	対談「立体と平面の間」	開催年月日	令和 3 年 8 月 8 日（日・祝）
場所	国立国際美術館　講堂	聴講者数	講堂聴講：46 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：金氏徹平（美術家）× 鷹野隆大（作家）		
内容	美術家の金氏徹平氏と「鷹野隆大　毎日写真 1999-2021」出品作家の鷹野隆大氏による対談を実施した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	対談「開かれた写真 fotografia aperta」	開催年月日	令和 3 年 9 月 11 日（土）
場所	国立国際美術館　講堂	聴講者数	講堂聴講：51 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：清水穣（写真評論家、同志社大学教授）× 鷹野隆大		
内容	写真評論家で同志社大学教授の清水穣氏と「鷹野隆大　毎日写真 1999-2021」出品作家の鷹野隆大氏による対談を実施した。		

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	トーク＆ディスカッション　バーバラ・ロンドン×馬定延	開催年月日	令和３年９月 11 日（土）
場所	オンライン配信	聴講者数	オンライン視聴：90 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：バーバラ・ロンドン（ヴィデオ・キュレーター）、馬定延（関西大学准教授）		
内容	久保田成子（1937-2015）の没後初、日本では約 30 年ぶりの個展に際して、ヴィデオ・キュレーターの第一人者であるバーバラ・ロンドン氏と、映像メディア学を専門とする馬定延氏（関西大学准教授）によるトーク＆ディスカッションを開催した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「Viva Video! 久保田成子展」オンライントーク Vol.1 今なぜ久保田成子なのか　Viva Video! x Liquid Reality	開催年月日	令和３年 12 月 19 日（日）
場所	オンライン配信	聴講者数	オンライン視聴：85 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：濱田真由美（新潟県立近代美術館主任学芸員）、エリカ・ペイパーニク・シミズ（ニューヨーク近代美術館アソシエート・キュレーター）、リア・ロビンソン（久保田成子ヴィデオ・アート財団リサーチ＆プログラム・ディレクター）、橋本梓（国立国際美術館主任研究員）、西川美穂子（東京都現代美術館　学芸員）、由本みどり		
内容	「Viva Video! 久保田成子展」とアメリカのニューヨーク近代美術館で開催された「Shigeko Kubota: Liquid Reality」展の企画者がそれぞれの展覧会の開催意図や特徴について語るオンラインイベントを開催した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	座談会「ボイスとパレルモ」	開催年月日	令和４年１月 16 日（日）
場所	国立国際美術館　講堂	聴講者数	講堂聴講：49 人 オンライン視聴：149 人 計 198 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇：鈴木俊晴（豊田市美術館学芸員）、大浦周（埼玉県立近代美術館学芸員）、福元崇志（国立国際美術館主任研究員）		
内容	巡回先各館の担当学芸員が集まり、豊田、埼玉、大阪、それぞれの会場における展示を踏まえつつ、両者を比較することの意義について議論する座談会を開催した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「Viva Video! 久保田成子展」オンライントーク Vol.2　久保田成子から読み解く、女性アーティストの過去と現在	開催年月日	令和４年１月 23 日（日）
場所	オンライン配信	聴講者数	オンライン視聴：202 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：メアリー・ルシエ（作家）、笠原恵実子（作家）、小田原のどか（批評家）、濱田真由美、橋本梓、西川美穂子、由本みどり		
内容	1970 年代に開催された人種の異なる４人の女性アーティストによる展覧会「ホワイト ブラック レッド イエロー」を久保田と共に企画したメアリー・ルシエ氏を迎え、久保田との交流や、女性アーティストたちの活動の歴史について語るオンラインイベントを開催した。		
オ　国立新美術館			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「ファッションとメディア」	開催年月日	令和３年７月１日（木）
場所	オンライン配信（アーカイブ）	聴講者数	再生回数：1,426 回 （R4.1.13）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：宮智泉（読売新聞東京本社編集委員）、原由美子（ファッションディレクター）、西谷真理子（京都精華大学客員教授）、小湊千恵美（FASHION SNAP.COM ファッションディレクター）		

内容	「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」展の関連イベントとして、新聞記者、雑誌編集者、スタイリスト、ファッションウェブサイト・ディレクターと異なる立場から日本のファッションを追い、発信してきた専門家を登壇者に招き、1970 年代から現在までの日本におけるファッションとメディアの関係について、それぞれの立場から討論した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「ライフスタイルの提案　雑誌『POPEYE』とビームス」	開催年月日	令和 3 年 7 月 3 日（土）
場所	オンライン配信（ライブ、アーカイブ）	聴講者数	162 人（ライブ視聴者数） 再生回数：973 回 （R4.1.13）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	石川次郎（エディトリアルディレクター）、設楽洋（ビームス代表取締役）、中村のん（スタイリスト）、クリス智子（ラジオパーソナリティ）		
内容	「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」展の関連イベントとして、創刊当時の雑誌『POPEYE』の編集者、日本初のセレクトショップ「ビームス」の創業者、スタイリストを招き、1970 年代に見られた「新しいライフスタイルを提案する動き」について、当時の日本のファッション界の状況を証言してもらう内容であった。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「ファッションのグローバル化と日本」	開催年月日	令和 3 年 7 月 23 日（金）
場所	日英オンライン配信（アーカイブ）	聴講者数	再生回数：1,022 回 （R4.1.13）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	高木陽子（文化学園大学教授）、サスキア・トゥーレン（同助教）、 サラ・チャン（英国ロイヤルカレッジオブ アートデザイン歴史部門プログラム統括）、 エリザベス・クレーマー（英 ノーサンブリア大学上級講師）、 ジェニー・ヒューズ（デザイナー、英国 UCA 大学服飾デザイン上級講師）		
内容	「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」展の関連イベントとして、「日本のファッションが海外でどのような影響を与えたのか」をテーマに、日本、イギリス、ベルギーの服飾史研究者たちが、①越境するきものと和服②刺しゅう入り衣料のグローバルなつながり：コートとスカジャン③英国のファッション教育に導入された日本美学というテーマでプレゼンテーションを行い、展覧会担当者も加わりディスカッションを行った。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「日本のメンズファッション」	開催年月日	令和 3 年 8 月 7 日（土）
場所	オンライン配信（ライブ、アーカイブ）	聴講者数	27 人（ライブ視聴者数） 再生回数：1,435 回 （R4.1.13）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	石津祥介（ファッションディレクター）、百々徹（大阪成蹊短期大学教授）、 デーヴィッド・マークス（ライター、『AMETORA』著者）、河合正人（ファッション書籍プロデューサー）		
内容	「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」展の関連イベントとして、日本のメンズファッションについて、VAN 創業者のご子息、研究者、専門家を登壇者に迎え、特に 1960 年代の動向に焦点を絞って、トークセッションを行った。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	YUIMA NAKAZATO FASHION PROGRAM「10 代と考える、ファッションと未来」	開催年月日	令和 3 年 8 月 21 日（土）
場所	オンライン配信（ライブ、アーカイブ）	聴講者数	5 人（参加者）、55 人（ライブ視聴者数） 再生回数：105 回 （R4.1.12）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	中里唯馬（YUIMA NAKAZATO　ファッション・デザイナー）		

内容	「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」展の関連イベントとして、中里唯馬氏がどのような経緯でファッション・デザイナーとなったのか、ファッション・デザイナーとして具体的にどのようなことを行っているのかについて、お話いただき、その後、事前に参加者たちが描いたデザイン案を展覧会担当研究員と共に講評した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	文化庁アートプラットフォームシンポジウム 「グローバル化する美術界と「日本」：現代アート振興の地平線」	開催年月日	令和 3 年 10 月 23 日（土）
場所	国立新美術館　３階講堂（オンライン配信）	聴講者数	215 人（ライブ視聴者数） 再生回数 2,213 回 （R4.3.16）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	平山直子（文化庁企画調整課長）、片岡真実（森美術館館長、日本現代アート委員会座長）、毛利悠子（美術家、サンパウロ・ビエンナーレ 2021 招へい作家）、山城知佳子（映像作家、美術家、ソウル・メディアシティビエンナーレ 2021 招へい作家）、植松由佳（国立国際美術館学芸課長、日本現代アート委員会副座長）、加治屋健司（東京大学大学院総合文化研究科教授、日本現代アート委員会委員）、成相肇（東京国立近代美術館美術課主任研究員、日本現代アート委員会委員）、川口雅子（国立西洋美術館学芸課情報資料室長、日本現代アート委員会委員）、大舘奈津子（芸術公社/一色事務所、日本現代アート委員会委員）		
内容	文化庁アートプラットフォーム事業（https://artplatform.go.jp/ja）の取組や取組を通じた成果（物）の紹介を通して、日本の現代アートの認知を高めるとともに、世界の美術界に向けて日本の現代アートの発信を強化し、理解を深めるための今後の振興策のあり方について、参加者・視聴者とともに考えるシンポジウムを開催した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	文化庁アートプラットフォーム事業 第３回文化庁現代アートワークショップ	開催年月日	令和 4 年 1 月 28 日（金）～ 令和 4 年 1 月 30 日（日）
場所	福岡アジア美術館	聴講者数	1/28 ｾｯｼｮﾝ 2（視聴者 229 名、再生回数 235 回） 1/29 ｾｯｼｮﾝ 3（視聴者 256 名、再生回数 113 回） 1/29 ｾｯｼｮﾝ 5（視聴者 212 名、再生回数 95 回） （R4.3.16）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	赤井あずみ（鳥取県立博物館主任学芸員）、崔敬華（東京都現代美術館学芸員）、藤田瑞穂（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA チーフキュレーター/プログラムディレクター）、服部浩之（秋田公立美術大学特任准教授/東京藝術大学准教授/キュレーター）、日比野民蓉（横浜美術館学芸員）、馬定延（関西大学准教授）、牧口千夏（京都国立近代美術館主任研究員）、桝田倫広（東京国立近代美術館主任研究員）、松岡剛（広島市現代美術館主任学芸員）、中村史子（愛知県美術館学芸員）、中田耕市（金沢 21 世紀美術館学芸課長（シニア・キュレーター））、岡村恵子（東京都現代美術館事業企画課事業係長・学芸員）、佐々木玄太郎（熊本市現代美術館学芸員）、正路佐知子（福岡市美術館学芸員）、鈴木幸太（ポーラ美術館学芸員）、德山拓一（森美術館アソシエイト・キュレーター）、山田裕理（東京都写真美術館学芸員）、米田尚輝（国立新美術館主任研究員）、吉崎和彦（山口情報芸術センターキュレーター）、飯山由貴（美術作家）、大岩雄典（美術家）、布施琳太郎（アーティスト）、渡辺志桜里（アーティスト）、足立アン（コラボラティブ・カタロギング・ジャパンエグゼクティブ・キュレーター）、エリカ・ペイパーニク・シミズ（ニューヨーク近代美術館アソシエート・キュレーター）、田坂博子（東京都写真美術館学芸員）、橋本梓（国立国際美術館主任研究員）、稲賀繁美（京都精華大学教授）、喜多恵美子（大谷大学教授）、王宇鵬（中国広西師範大学美術学院講師）、江川佳秀（徳島県立近代美術館学芸員）、加治屋健司（東京大学教授、日本現代アート委員会委員）、神谷幸江（キュレーター・美術評論/日本現代アート委員会委員）、片岡真実（森美術館館長/日本現代アート委員会座長）、川口雅子（国立西		

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">洋美術館学芸課情報資料室長/日本現代アート委員会委員）、成相肇（東京国立近代美術館美術課主任研究員/日本現代アート委員会委員）、大舘奈津子（芸術公社/一色事務所/日本現代アート委員会委員）、岡部美紀（日本現代アート委員会委員）、植松由佳（国立国際美術館学芸課長/日本現代アート委員会副座長）、逢坂恵理子（国立新美術館長）</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="3">2018 年度に始動した文化庁アートプラットフォーム事業は、国際的な専門家の相互ネットワーク構築を目指して「文化庁現代アートワークショップ」を開催し、2022 年度末までに国際的な展覧会の実現等、グローバルな人的ネットワークを活用した成果に辿り着くように取組を進めてきた。しかし、コロナ禍により世界各地の美術館が閉館し、展覧会プログラムは大幅に変更され、展覧会開催の見通しが立たない館も少なくない。こうした中、国内美術館の現状を共有しつつ、海外での展示および国内巡回の可能性について具体的な提案を募り、議論する第３回文化庁現代アートワークショップ（招待制）を開催した。</td></tr>
<tr><td>ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名</td><td>文化庁アートプラットフォームシンポジウム
「グローバル化する美術領域と日本の美術界：我が国現代アート振興の黎明期～アート・コミュニケーションセンター（仮称）と国立美術館に期待する役割～」</td><td>開催年月日</td><td>令和 4 年 3 月 11 日（金）</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>国立新美術館　３階講堂（オンライン）</td><td>聴講者数</td><td>231 人（ライブ視聴者数）
再生回数 1,433 回
（R4.3.16）</td></tr>
<tr><td>講師・パネリスト等の氏名（職名）</td><td colspan="3">鰐淵洋子（文部科学大臣政務官/公明党衆議院議員）、片岡真実（森美術館館長/日本現代アート委員会座長/アート・コミュニケーションセンター（仮称）エグゼクティブ・アドバイザー）、デヴィカ・シン（テート・モダンキュレーター）、ジャスパー・シャープ（フィリアスディレクター）、堀川理沙（ナショナル・ギャラリー・シンガポールディレクター）、植松由佳（日本現代アート委員会副座長/国立国際美術館学芸課長）、小池藍（THE CREATIVE FUND,LLP 代表パートナー）、塩見有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT、エイト]ディレクター）、椿昇（現代美術家）、保坂健二朗（滋賀県立美術館ディレクター（館長））、逢坂恵理子（独立行政法人国立美術館理事長/国立新美術館長）</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="3">「文化庁アートプラットフォーム事業」の一環として、今回、文化庁が本格的に取組を進めて行く「現代アート振興」や、これに関連した美術館支援策等を展望するべく、英国、オーストリア、シンガポールからゲストを迎え各国におけるアート支援の実例紹介や、文化庁アートプラットフォーム事業の今後の展開、（独）国立美術館が令和４（2022）年度中の開設を目指す「アート・コミュニケーションセンター（仮称）」が日本のアートの発展に果たし得る役割等を、登壇者および参加者とともに考えるシンポジウムを開催した。</td></tr>
</table>

（別紙）

独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

Ⅰ 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術（映画を含む）に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。
そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。
理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。
以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

② 令和3年度における役員報酬についての業績反映のさせ方（業績給の仕組み及び導入実績を含む。）

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。 令和3年度においては、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

③ 役員報酬基準の内容及び令和3年度における改定内容

法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額（965,000円）及び地域手当の月額、並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額、並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に100分の167．5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。
なお、令和3年度においては改定は行っていない。

理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額（706,000円から965,000円の範囲内）及び地域手当の月額、並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額、並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に100分の167．5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。
なお、令和3年度においては改定は行っていない。

理事（非常勤）

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和3年度においては改定は行っていない。

監事（非常勤）

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和3年度においては改定は行っていない。

2　役員の報酬等の支給状況

役名	令和3年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
A法人の長	千円 1,121	千円 965	千円 0	千円 97 (地域手当) 46 (単身赴任手当) 14 (通勤手当)		4月29日	
B法人の長	千円 13,231	千円 8,685	千円 2,732	千円 1,737 (地域手当) 77 (通勤手当)	7月1日		
A理事	千円 4,968	千円 2,283	千円 2,154	千円 457 (地域手当) 74 (通勤手当)		6月30日	◇
B理事	千円 11,208	千円 7,362	千円 2,316	千円 1,472 (地域手当) 58 (通勤手当)	7月1日		◇
C理事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0 (　　)			※
A監事 (非常勤)	千円 600	千円 600	千円 0	千円 0 (　　)		8月31日	
B監事 (非常勤)	千円 600	千円 600	千円 0	千円 0 (　　)		8月31日	
C監事 (非常勤)	千円 840	千円 840	千円 0	千円 0 (　　)	9月1日		※
D監事 (非常勤)	千円 840	千円 840	千円 0	千円 0 (　　)	9月1日		

注1:「地域手当」とは、当該地域における民間の賃金水準を基礎とし、当該地域における物価等を考慮して規則に定める地域に在勤する役員に支給されているものである。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「＊※」、該当がない場合は空欄

3　役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術（映画を含む。）に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。
そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。
また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額（2,337万円）と比較してもそれを下回っており、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額（約1,800万円）とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。また、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額（約1,500万円）とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事（非常勤）

理事（非常勤）については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の理事（非常勤）の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

監事（非常勤）

監事（非常勤）については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事（非常勤）の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

【主務大臣の検証結果】

職務内容の特性や国家公務員指定職適用官職、他の同規模の独立行政法人、民間企業との比較などを考慮すると、役員の報酬水準は妥当であると考えられる。

4　役員の退職手当の支給状況（令和3年度中に退職手当を支給された退職者の状況）

区分	支給額（総額）	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	千円 該当なし	年	月			
理事	千円 該当なし	年	月			
理事 （非常勤）	千円 該当なし	年	月			
監事 （非常勤）	千円 該当なし	年	月			

注：「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「＊※」、該当がない場合は空欄

5　退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当なし
理事	該当なし
理事 （非常勤）	該当なし
監事 （非常勤）	該当なし

注：「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6　業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

Ⅱ 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方（業績給の仕組み及び導入実績を含む。）

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
俸給月額（昇格）	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額（昇給）	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与：勤勉手当（査定分）	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合（成績率）に基づき支給される。

③ 給与制度の内容及び令和3年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当（扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当）としている。
期末手当については、期末手当基準額（俸給＋扶養手当＋地域手当＋役職段階別加算額＋管理職加算額）に100分の127．5を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。
勤勉手当については、勤勉手当基準額（俸給＋地域手当＋役職段階別加算額＋管理職加算額）に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。
なお、令和3年度においては改定は行っていない。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和3年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	人 91	歳 45.4	千円 7,914	千円 5,862	千円 151	千円 2,052
事務・技術	人 45	歳 41.7	千円 6,564	千円 4,842	千円 169	千円 1,722
研究職種	人 46	歳 49.0	千円 9,235	千円 6,859	千円 134	千円 2,376
技能・労務職種	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
任期付職員	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
指定職種	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
再任用職員	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
研究職種	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
非常勤職員	人 36	歳 45.4	千円 5,899	千円 5,872	千円 134	千円 37
事務・技術	人 17	歳 48.6	千円 5,274	千円 5,216	千円 118	千円 58
研究職種	人 19	歳 42.6	千円 6,459	千円 6,459	千円 148	千円 0

注1：常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

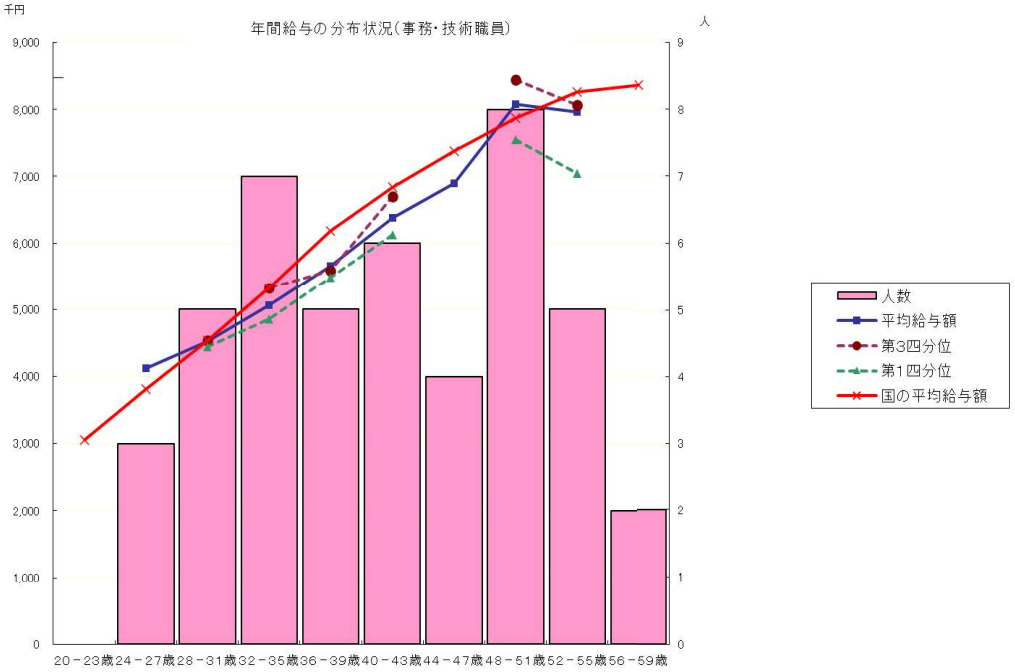
注2：技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3：技能・労務職種の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、職種のみ記載している。

注4：任期付き職員及び再任用職員の該当者はいずれも2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、該当者のいる職種のみ記載している。

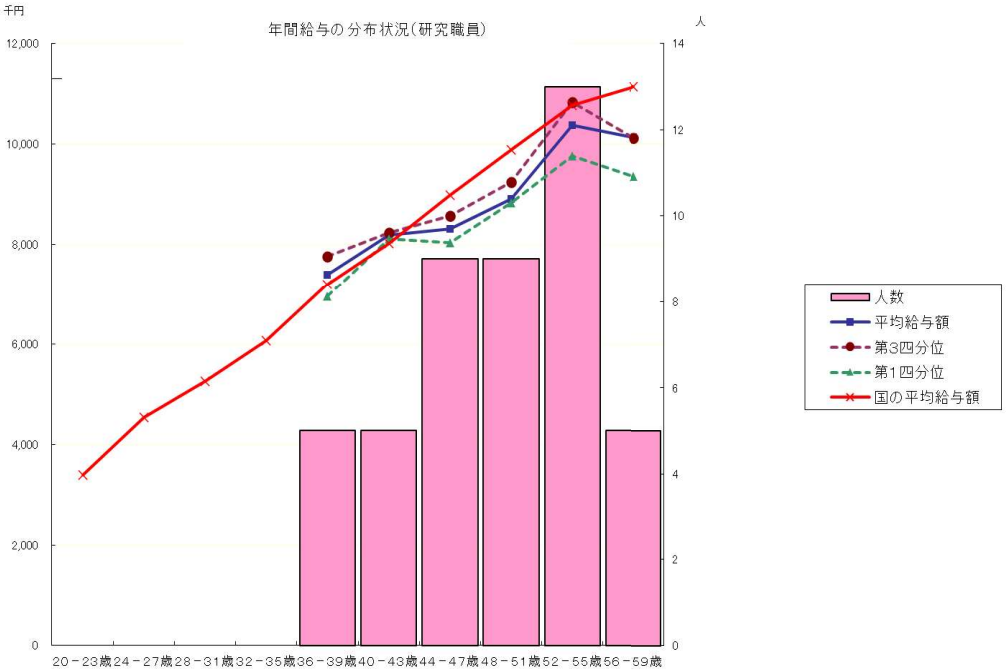
注5：常勤職員、非常勤職員のうち医療職種（病院医師）、医療職種（病院看護師）及び教育職種（高等専門学校教員）、在外職員については、該当する者がないため欄を省略した。

② 年齢別年間給与の分布状況（事務・技術職員／研究職員）〔在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1：①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2：年齢24-27歳、44-47歳及び56歳-59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。また、年齢56-59歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均給与額を表示していない。



③ 職位別年間給与の分布状況（事務・技術職員／研究職員）

（事務・技術職員）

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部部長	1	－	－	－	－
本部課長	1	－	－	－	－
本部室長	1	－	－	－	－
本部係長	7	41.6	6,162	6,869	5,327
本部主任	1	－	－	－	－
本部係員	4	29.8	4,532	－	－
地方課長	4	52.0	6,741	－	－
地方室長	5	50.5	7,855	8,374	7,551
地方係長	12	44.8	6,409	8,070	5,481
地方主任	3	34.8	4,940	－	－
地方係員	6	29.3	4,498	5,143	3,818

注1：本部係員、地方課長、地方主任の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

注2：本部部長、本部課長、本部室長、本部主任の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

（研究職員）

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部学芸担当課長	2	－	－	－	－
副館長	2	－	－	－	－
学芸課長	7	52.8	10,832	11,874	9,583
主任研究員	34	47.7	8,579	9,961	6,953
研究員	1	－	－	－	－

注1：本部学芸担当課長、副館長、研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

④ 賞与（令和3年度）における査定部分の比率（事務・技術職員／研究職員）

（事務・技術職員）

区分		夏季（6月）	冬季（12月）	計
管理職員	一律支給分（期末相当）	% 49.0	% 46.3	% 47.6
	査定支給分（勤勉相当）（平均）	% 51.0	% 53.7	% 52.4
	最高～最低	% 51.0～51.0	% 53.7～53.7	% 52.4～52.4
一般職員	一律支給分（期末相当）	% 57.2	% 57.3	% 57.2
	査定支給分（勤勉相当）（平均）	% 42.8	% 42.7	% 42.8
	最高～最低	% 44.8～39.8	% 44.8～40.3	% 44.8～40.3

（研究職員）

区分		夏季（6月）	冬季（12月）	計
管理職員	一律支給分（期末相当）	% 53.1	% 51.9	% 52.5
	査定支給分（勤勉相当）（平均）	% 46.9	% 48.1	% 47.5
	最高～最低	% 50.9～41.9	% 50.9～44.8	% 50.9～43.4
一般職員	一律支給分（期末相当）	% 57.4	% 57.4	% 57.4
	査定支給分（勤勉相当）（平均）	% 42.6	% 42.6	% 42.6
	最高～最低	% 47.4～40.2	% 47.4～34.6	% 44.8～40.0

3 給与水準の妥当性の検証等

事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案　97.9 ・年齢・地域勘案　90.7 ・年齢・学歴勘案　95.9 ・年齢・地域・学歴勘案　89.5
国に比べて給与水準が高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合　81.9% (国からの財政支出額　8,612百万円、支出予算の総額　10,513百万円:令和3年度予算) 累積欠損額　0円(令和3年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合　10.5% (支出総額(令和3年度決算ベース)　9,459,517千円、給与・報酬等支出総額992,509千円) 管理職の割合　0.02%(常勤職員数45名中1名) 大卒以上の割合　91.1%(常勤職員数45名中41名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を2.1ポイント下回っており、令和3年度の事務・技術職員の給与水準は適切なものであると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性について、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等に関する基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したうえで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給与水準の設定に努めていただきたい。
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案　94.8 ・年齢・地域勘案　92.2 ・年齢・学歴勘案　94.5 ・年齢・地域・学歴勘案　92.1
国に比べて給与水準が高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合　81.9% (国からの財政支出額　8,612百万円、支出予算の総額　10,513百万円:令和3年度予算) 累積欠損額　0円(令和3年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合　10.5% (支出総額(令和3年度決算ベース)　9,459,517千円、給与・報酬等支出総額992,509千円) 管理職の割合　4.2%(常勤職員数47名中2名) 大卒以上の割合　100%(常勤職員数47名中47名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を5.2ポイント下回っており、令和3年度の研究職員の給与水準は適切なものであると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性について、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等に関する基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したうえで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給与水準の設定に努めていただきたい。
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

4 モデル給与

（扶養親族がいない場合）
○ 22歳（大卒初任給）
月額 182，200円 年間給与 2，732，000円
○ 35歳（本部主任）
月額 317，640円 年間給与 5，241，000円
○ 50歳（本部室長）
月額 443，880円 年間給与 7，524，000円

※扶養親族がいる場合には、扶養手当（配偶者6，500円、子1人につき10，000円）を支給

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

Ⅲ 総人件費について

区　分	令和2年度	令和3年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 968,560	千円 992,509
退職手当支給額 (B)	千円 42,737	千円 112,376
非常勤役職員等給与 (C)	千円 528,002	千円 585,488
福利厚生費 (D)	千円 223,920	千円 239,529
最広義人件費 (A＋B＋C＋D)	千円 1,763,219	千円 1,929,902

注：中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

総人件費について参考となる事項

アート・コミュニケーションセンター（仮称）設置に向けて組織を拡充し、常勤職員、非常勤職員ともに採用したことにより、「給与、報酬等支給総額」は対前年度比2.5％、「非常勤役職員給与」は対前年度比10.9％増加した。
また、これに伴い社会保険料額等による「福利厚生費」（前年度比7.0％）の増加があった。
「退職手当支給額」は、定年退職者、早期退職者が多かったことにより、増加（前年度比162.9％）した。
これらを総合して、「最広義人件費」は対前年度比9.5％増となった。

Ⅳ その他

特になし。